

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」

さが地方創生 人材育成・活用プロジェクト

令和元年度 事業報告書



令和2年3月

さが地方創生人材育成・活用推進協議会
国立大学法人 佐賀大学

◆ ご挨拶

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」会長

国立大学法人 佐賀大学 学長 兒玉 浩明



平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（通称COC+事業）さが地方創生人材育成・活用推進プロジェクト」は、平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」を発展させた事業として始まりました。これまで「大卒者の地元就職率の向上」と「雇用の拡大と創出」をミッションとし、佐賀県内の西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部のCOC+参加校、そして、佐賀県及び10市10町の地方公共団体、経済団体、県内企業及びNPO法人などの各機関が連携した「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」を中心に、オール佐賀の取り組みを推進して参りました。

事業の最終年度となる令和元年度は、「さがを創る大交流会」の開催、多様な働き方や地域を志向するキャリア教育、事業協働機関を中心とした正課インターンシップの充実、キャリアセンターが企画する多様な就職支援の取り組みを行い、学生と県内企業・団体との交流の機会の増加を図りました。

「2019さがを創る大交流会」は、県内の145機関が出展し、佐賀県内の大学・短大生1,221名が参加しました。多くの学生から、「佐賀のことを知ることができた」「佐賀県での就職を考えるきっかけとなった」という意見が聞かれ、交流会の開催は地元就職率の向上に一定の効果を上げてきていると思われます。また、県内企業・団体等での正課インターンシップ参加学生数は、事業達成目標基準年（平成26年度）と比べ4倍以上となっており、本事業での取り組みを通して、多くの学生が県内企業・団体との関係を構築しています。

しかし、近年の雇用環境を背景に、就職率は全体としては極めて高い水準にありますが、本事業のミッションである「大卒者の地元就職率の向上」という点においては、厳しい状況が続いています。そのため、今年度で補助事業としては終了となりますが、人口減少とそれに伴う地域経済の縮小という課題解決のためには、地方創生を担う人材を育成し、その人材が活躍できる場の創出を図る“オール佐賀”での取り組みを継続していく必要があります。

県内大学・短期大学においても、大学間・産学官連携を強化するとともに、全学的な取り組みを推進して参ります。地域の方々や関係機関の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本報告書は、令和元年度の本事業の取り組み内容を取りまとめたものです。広く、地域社会に公開し、本事業へのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

◆ ご挨拶

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）
「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」事業実施責任者
国立大学法人 佐賀大学全学教育機構 教授 五十嵐 勉



佐賀大学は、平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（通称COC+事業）：さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」の採択を受け、佐賀県内の西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期学部のCOC+参加校とともに地元就職率向上での貢献を目指しています。地方創生を主導する佐賀県及び10市10町の地方公共団体、雇用の拡大と創出のために産業振興に取り組む佐賀県商工会議所連合会をはじめとする経済団体、県内企業及びNPO法人など、本プロジェクトの意義をご理解頂いた各機関とともに「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」を設置し、佐賀県の地方創生に必要な人材を輩出することで「産学官金労言連携」による雇用の拡大と創出を「オール佐賀」で取り組んで参りました。本事業は、本年度が補助事業としては、最終年度となりましたが、補助事業終了後も地元就職・定着に向けた取り組みを進めて参ります。

ところで、地元就職率の向上に関しては、依然として極めて厳しい状況が続いています。地元の佐賀県には、魅力的な就職先が無いという学生の意識の改善や魅力的な就職先の発掘と学生ニーズとのマッチング機能の強化に加え、企業側にも雇用環境や働き方のさらなる改善、インターンシップの受け入れなど、これまで以上の積極的な採用活動が必要です。さらには、「超売り手市場」とも呼ばれる就職状況の中で、地元就職率の向上のためには、若者が地元（地方）で働き暮らすということの意味や価値観（ライフ・デザイン）の転換まで含めて、かなり根源的な問いかけが必要です。これらは、「ローカルキャリア・デザイン」教育として、高等教育のみならず中等教育も含めた全県的な取り組みも必要です。

本報告書は、平成31（令和元）年度の取り組みを取りまとめたものですが、本事業に関わる自己点検評価・外部評価の結果も踏まえ、次年度以降の地方創生を担う人材育成のオール佐賀での取り組みに参考となれば幸いです。

◆ 目次

Page	
01	◆ ご挨拶 「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」会長 児玉 浩明 「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」事業実施責任者 五十嵐 勉
04	◆ 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）概要
05	◆ さが地方創生人材育成・活用プロジェクト 概要
06	◆ プロジェクト紹介
07	◆ 実施組織・体制
08	◆ 各プロジェクトの取り組み
38	◆ インターンシップを経験した「学生の声」
42	◆ 広報
44	◆ 新聞記事等
67	◆ 参考資料
82	◆ 関連要項・規則等
93	◆ 令和元年度さが地方創生人材育成・活用プロジェクト関係者名簿

◆ 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+ 事業)

我が国が世界に先駆けて迎えている人口減少・超高齢化社会において、『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』ことが危惧されており、これによって生じる地方と東京の経済格差拡大が、魅力ある職を求める我が国の人口を地方から東京圏へ流出させていると指摘されています。特に、このような人口流出は、大学入学時及び大学卒業・就職時の若い世代に集中しています。このような人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するためには、意欲と能力のある若者が地域において活躍できる魅力ある就業先や雇用の創出等に国と地方が一体となって取り組んでいくことが急務となっています。

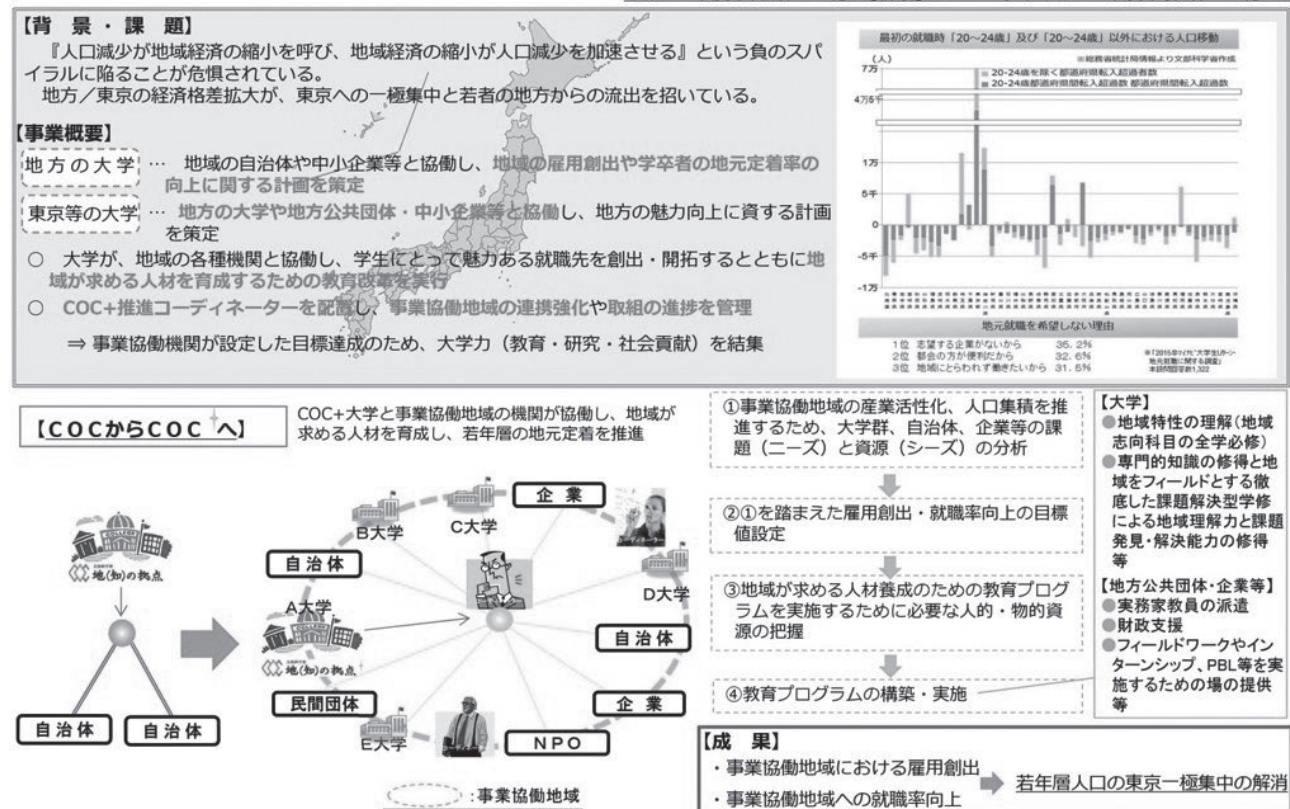
平成25年度から「地域のための大学」として、各大学の強みを生かしつつ、大学の機能別分化を推進し、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(大学COC*事業)」を発展させ、平成27年度より地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を文部科学省が支援し、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

【平成27年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)より抜粋】

(*COC: Center of Community)

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 ～地(知)の拠点COCプラス～

平成27年度予算額 44億円[新規](旧COC事業平成26年度予算額 34億円)



文部科学省「COC+事業の概要」

(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/1356356.htm)

◆ さが地方創生人材育成・活用プロジェクト

本事業は事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会*」において、大卒者の地元就職率向上と地域産業の振興による雇用の拡大・創出に協働して取り組む事業です。

*「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」

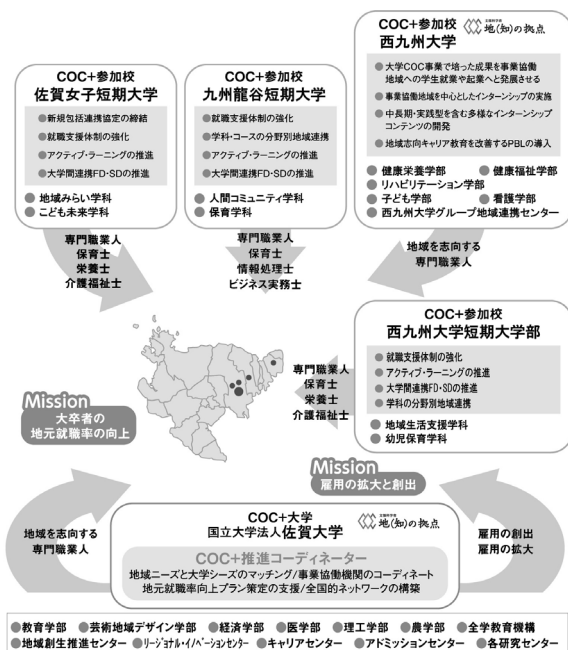
COC+大学（佐賀大学）、COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部）、地方公共団体（佐賀県、佐賀市・唐津市・鳥栖市・伊万里市・武雄市・小城市・神埼市・鹿島市・嬉野市・多久市・みやき町・白石町・有田町・基山町・吉野ヶ里町・太良町・江北町・上峰町・大町町・玄海町）、佐賀県市長会（佐賀市）佐賀県町村会（みやき町）、経済団体、企業及びNPO等で構成される。

佐賀大学ではこれまでの地域を志向した教育・研究・社会貢献の実績である地（知）の拠点整備事業（通称：大学COC事業）：コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクトを基盤とし、教育改革や雇用の拡大創出に取り組んでいます。

教育改革	雇用の拡大・創出
地元志向教育（大学COC事業）から地域志向キャリア教育へ ● 地域志向型科目の全学必修化 ● 教養教育：インターフェースプログラム（8単位） ● キャリア・地域志向型副専攻（平成30年度より順次実施） ● インターンシップを含む地域志向キャリア教育科目 ● 創造型工系キャリア教育 ● PBL、アクティブ・ラーニング、ラーニング・ポートフォリオ ● 地元入学率の向上（高大接続教育）	学部等の「強み」を生かした研究・社会貢献 ● 農業の高度化と6次産業化 ● セラミックス産業を担う人材育成 ● 唐津コスメティック産業 ● バイオマス産業 ● IT（デジタルコンテンツ）産業事業 ● 地域デザイン事業 ● 地域労働市場分析事業 ● 佐賀県における産学官包括連携協定事業 ● 子ども発達支援士、障がい者就労支援士、社会福祉士

※地域を志向するキャリア教育の改革には、ラーニング・ポートフォリオに基づく自己管理・改善の学習記録の活用等により実行しています。

各大学との連携



佐賀大学及びCOC+参加校は、それぞれの「強み」を活かした地方での雇用の拡大・創出に繋がる重点的かつ戦略的な研究・社会貢献プロジェクトを推進し、地域ニーズ対応型の戦略的研究の推進による雇用の拡大・創出に貢献し、学生の地元就職率の向上に努めています。

教育プログラム開発委員会の開催や事業協働地域におけるインターンシップ機能の強化、共同FD・SD研修、シンポジウム、地域を志向するキャリア教育のための特別講義等の企画と実践を推進しています。

事業協働機関との連携による学生と企業等とのマッチングイベント「さがを創る大交流会」を含む地方創生を担う人材の育成に向けた教育・研究・社会貢献も推進しています。

◆ プロジェクト紹介

教育改革及び雇用の拡大・創出を達成するために、コーディネーターの活用を含む佐賀大学及び事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」の推進体制の機能強化、地域を志向するキャリア教育のプログラム開発と実践及び雇用の拡大・創出のための戦略的研究・社会貢献の推進のための具体的事業を実施します。

佐賀大学及びCOC+参加校における本事業への全学的な取り組みと連携の強化のための共同FD・SD及びシンポジウムを実施し、事業協働機関を構成する地方公共団体・経済団体・企業・NPO等の関係機関の連携による学生と企業等とのマッチングイベント（さがを創る大交流会）を含む地方創生を担う人材の育成に向けた教育・研究・社会貢献を推進していきます。

B 佐賀大学全学教育機構（教養教育）

地域志向型キャリア教育のプログラム開発とその実施

「個人と社会との持続的発展を支える力」を培うインターフェースプログラムの地域志向化に取り組み、地元就職意欲の向上につながるキャリア教育を核とする教育改革を進めます。

C 佐賀大学芸術地域デザイン学部(H28.4開設)

地域芸術デザイン力の養成による地域再生を担う人材育成

地域ニーズ対応型の教育研究を行い、陶磁器関連企業等や地元自治体・関連諸団体と協働し、「やきものイノベーション」の創出と地域の活性化・再生に寄与できる人材の育成を推進します。

D 佐賀大学教育学部(H28.4開設)

子どもの発達支援士育成（COC+参加大学との連携）

佐賀県5大学の取り組みである「子ども発達支援士養成プログラム」を見直し、向上させつつ、さらにその資格を用いて、地元の就職につなげていくことを目的としています。

E 佐賀大学経済学部

産業界との連携による実践的地域志向キャリア教育及び地域労働市場の実態調査分析

地域労働市場実態調査、県内企業経営者による講義、県内企業における単位制インターンシップの実施を通して県内企業間の相互理解向上と学生の社会人基礎力の獲得を図ります。

F 佐賀大学医学部

障がい者就労支援士の養成
佐賀地域における障がい支援の実状について学び、学生が将来希望する職域において生活・就労支援できる基礎的能力を養い、対象となる方の治療継続と生活の質の向上による共生社会構築に貢献することを目的としています。

G 佐賀大学理工学部

産業界との連携による創造型工系キャリア教育による人材育成

企業セミナーやインターンシップの実施、地域に即したもののづくりや地元企業との共同研究、地域環境志向型まちづくりを通じて学生の社会力養成を図ります。

H 佐賀大学農学部

農業のIT化と6次産業化を担う人材育成

佐賀の豊富な農林水産業に基づいて、新産業の創出と高度化に取り組み、6次産業化の人材育成と地元雇用の創出を目指します。

I 佐賀大学キャリアセンター・アドミッションセンター

地元就職率向上のための支援と高大連携による地元入学率の向上

大学の教育・研究に触れ高校生に大学に対する理解を深めてもらう取り組みや学生に県内企業の情報発信、インターンシップ合同説明会など、地元就職を希望する学生とのマッチングを推進します。

J 西九州大学

地域志向キャリア教育の改善（PBL化等）・中長期実践型を含むインターンシップの高度化

大学COC事業で培った成果を事業協働地域への学生就業へと発展させ、実社会に通じる実践力や佐賀に対するシビックプライドを育成し、「さがの未来を創る」人材育成を進めていきます。

K 九州龍谷短期大学

アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・子ども発達支援士の養成

授業や演習で学んだ知識や技能を実践の場で活かす力を身につけ、「個人と社会との持続的発展を支える力」を培うことを目的としながら地元就職意欲の向上につながる教育改革を進めていきます。

L 佐賀女子短期大学

アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・子ども発達支援士の養成

地域と連携した特別の教育プログラムを開講し、学生の学びの場、地元理解を柱とした教育改革を推進していきます。

M 西九州大学短期大学部

アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・子ども発達支援士の養成

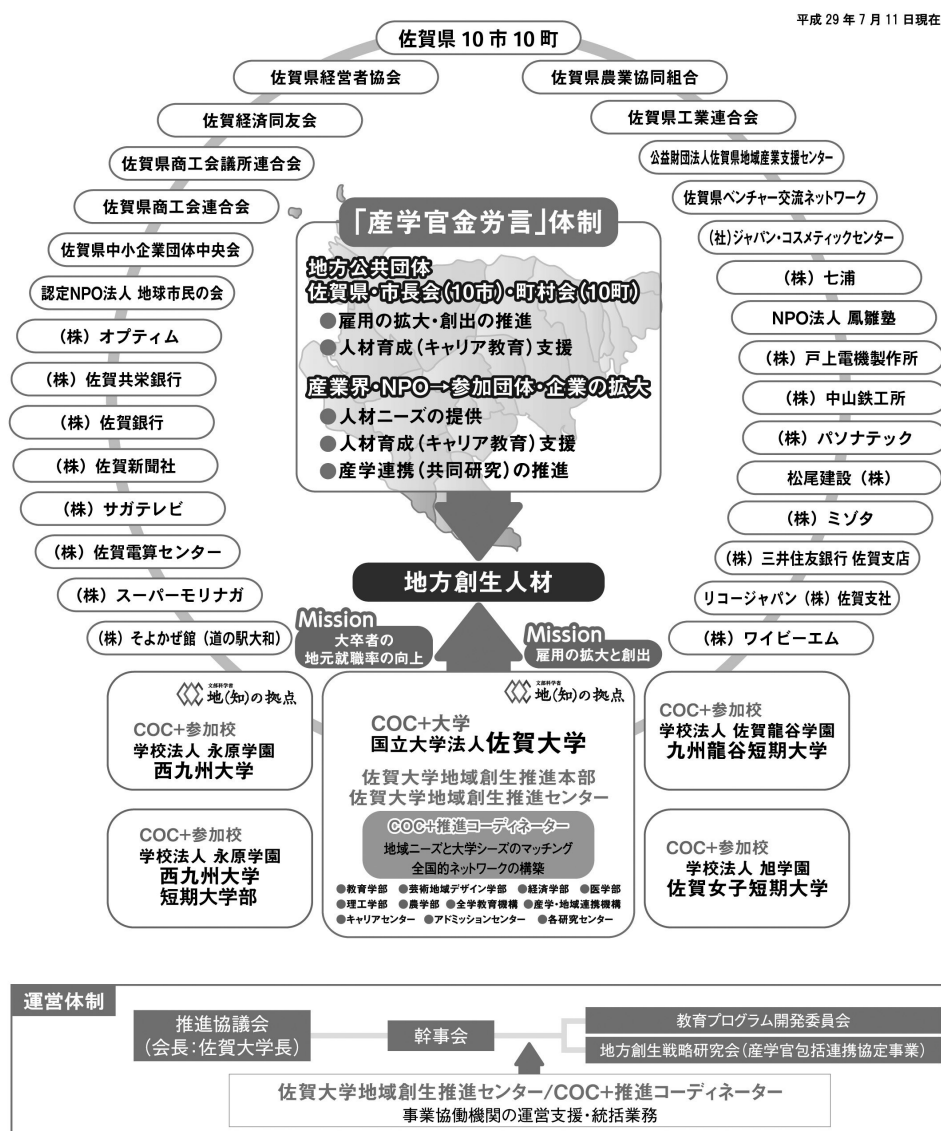
社会生活・職業理解につながる態度や志向性、知識・技能を獲得し、社会の一員として地域の発展に寄与すべく、主体的・対話的な能動的学習を中心とした教育改革に取り組んでいきます。

◆ 実施組織・体制

さが地方創生人材育成・活用推進協議会

地方創生を担う人材の育成と活用を推進するために佐賀県内の大学・短大と地方公共団体、産業界・NPOなどが連携した「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」を平成28年2月に設置しました。

佐賀大学学長を協議会会長とし、年に1回の総会において事業全体の進捗状況に関する自己点検・外部評価の結果を踏まえながら、点検と改善を進めてきました。また、協議会内には実務者からなる「幹事会」や大学・短大の事業責任者からなる「教育プログラム開発委員会」が設置されており、事業協働機関加盟団体や企業等との連携強化や大学・短大によるキャリア教育の強化を中心とする教育プログラムの企画の推進が行われています。幹事会には平成29年度よりインターンシップ推進専門委員会も設置され、県内のインターンシップを協働して推進しています。これらの事業は、佐賀大学に設置した「地域創生推進センター」が事務局となり、運営委員会で業務統括をし、佐賀大学学長をトップとする佐賀大学地域創生推進実施本部により全学的な取り組みを進めています。



◆ 各プロジェクトの取り組み



地方創生を担う人材育成のための推進体制の構築とその運営 事業実施主体：佐賀大学及び事業協働機関全体

● 令和元年度の取り組み

■ 令和元年度年表

令和元年

4月～12月	さがを創る大交流会実行委員会（月1回・計7回開催）
4月25日	第1回 幹事会
5月20日	第2回 幹事会
5月27日	第1回 インターンシップ推進専門委員会
5月31日	第1回 教育プログラム開発委員会
6月17日	第1回 COC+事業推進部門会議
7月 5日	第3回 幹事会
7月	さが地方創生人材育成・活用推進協議会総会 書面会議
7月17日	「2019さがを創る大交流会」出展募集説明会
10月17日	第4回 幹事会
11月 4日	「2019さがを創る大交流会」開催
11月12日	第2回 COC+事業推進部門会議
12月17日	第2回 インターンシップ推進専門委員会

令和2年

2月12日	第5回 幹事会
2月13日	地域創生推進本部会議
2月17日	さが地方創生人材育成・活用推進協議会総会
2月21日	第2回 教育プログラム開発委員会
3月 9日	令和元年度外部評価委員会



さが地方創生人材育成・活用推進協議会総会



さがを創る大交流会実行委員会



第2回インターンシップ推進専門委員会

事業協働機関での取り組みとして、さが地方創生人材育成・活用推進協議会総会（書面会議1回、総会1回）、幹事会（5回）、教育プログラム開発委員会（2回）、インターンシップ推進専門委員会（2回）を実施し、事業方針策定や事業の進捗状況の確認、事業推進に係る具体的施策の企画・立案、令和2年度以降のCOC+事業の体制について協議し、事業を推進しました。佐賀大学内においては、地域創生推進本部会議（1回）、COC+事業推進部門会議（2回）を実施し、事業方針の策定や事業の進捗状況の確認、学内の各プロジェクトの進捗確認・情報共有を図りました。

また、令和元年11月に県内企業と学生の交流イベント「さがを創る大交流会」を開催しました。令和2年3月に「地方創生人材育成・活用 これまでとこれから」をテーマにしたシンポジウムを開催予定でしたが、諸事情により中止となりました。

全国的なネットワーク構築と連携においては、COC+事業として開催された「九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウム IN熊本」、千葉大学で開催された「千葉COC+ 2019年度フォーラム」、宮崎で開催された「COC+シンポジウム2019」、宇都宮大学で開催された「宇都宮大学 地域創生推進機構 COC+シンポジウム」へ参加しました。

COC+の事業内容の広報は、新聞やホームページ、各大学と連携して運用するFacebook、佐賀大学事務局が発行するニュースレター等において積極的に情報公開・発信しました。また、「2019さがを創る大交流会」においては、2019さがを創る大交流会実行委員の学生と共同して、新規にTwitterを活用した情報発信を行いました。



第4回幹事会



第2回教育プログラム開発委員会



「2019さがを創る大交流会」開催風景

■ 教育・インターンシップ

教育プログラム開発委員会（2回）においては、令和元年度の事業計画及びインターンシップについての報告、外部評価結果を踏まえた課題について協議し、地元就職率向上とともに各大学の地元出身者の入学割合を高めていく必要性について認識を共有しました。

インターンシップ推進専門委員会（2回）では、「2018さがを創る大交流会」でインターンシップの受け入れ予定ありと回答した95機関のうちインターンシップを実施していない機関や佐賀県へ新規に進出した企業・団体への訪問等を行い、受入先拡大を図り、佐賀大学における今年度新規受入先は27機関となりました。

また、インターンシップ共通様式の見直しを行い改定。さらに、平成30年度に作成した佐賀インターンシップガイドブックの改訂版を作成しました（令和2年3月発行）。



新規受入機関でのインターンシップ

■ 就職支援・雇用の拡大と創出

コーディネーターを中心とした地元就職率向上への取り組みとして、県内企業・自治体・団体への訪問及び来訪を延べ53回実施（令和元年12月現在）しました。正課インターンシップの受け入れ等に関するニーズ調査、インターンシッププログラム内容の相談受付、他大学と連携したインターンシッププログラムの開発・実施等を行い、インターンシップ受入機関を拡大するとともに採用状況を把握することができました。今年度、新規に正課インターンシップ受け入れを行った機関は27機関となり、正課インターンシップ受入機関の拡大・強化を図ることができました。

また、キャリアセンター及び各学部と連携し、学部において抽出した地元就職志向の学生に対して、キャリアセンターが県内企業等の就職情報を提供する等、支援機能を強化することができました。



県内企業訪問（株式会社ヨシムラ・唐津市）

■ 総会や交流会など全体の取り組み

□ さが地方創生人材育成・活用推進協議会総会（書面会議1回、通常総会1回）

令和元年7月に、令和元年度「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」総会を書面会議で開催し、前年度事業の報告を行い意義なく承認を得ました。また、令和2年2月に、補助事業終了後（令和2年度以降）の体制を協議するために通常総会を実施しました。通常総会では、書面会議の結果について報告を行った後、平成27年度から令和元年度における取り組みの成果について報告しました。補助事業最終年度ということで、協議会の解散と補助事業終了後の推進体制について協議し、産学官連携と大学間連携を分け、それぞれを既存の組織の中で継続させる方向で検討を進める移行イメージを示して、意義なく了承されました。

<第1回 総会（書面会議）>

送 付 日：令和元年7月11日（木）

回 答 期 限：令和元年7月31日（水）

送 付 先：さが地方創生人材育成・活用推進協議会 協働機関（57機関）

<第2回 総会>

日 時：令和2年2月17日（月）13：30～15：00

場 所：佐賀大学本庄キャンパス理工学部6号館2階多目的セミナー室

出 席 者：さが地方創生人材育成・活用推進協議会協働機関（63名）

協 議 事 項：

1. 平成30年度の事業報告と令和元年度の事業計画に関する書面会議の結果について
2. 事業期間（平成27年度～令和元年度）における取り組みの成果について
 - ・事業期間における取り組みに関する報告
 - ・KPIの達成状況
3. さが地方創生人材育成・活用推進協議会解散とその後の推進体制について
 - ・さが地方創生人材育成・活用推進協議会の解散
 - ・補助期間終了後の推進体制（移行イメージ）

報 告 事 項：

1. 幹事会実施報告
2. 教育プログラム開発委員会実施報告



兒玉浩明協議会会長の挨拶



五十嵐勉教授から協議事項説明



協議会総会には約60名が出席

<当日スケジュール>

日 時：令和元年11月4日（月・振休）13：00～16：00

場 所：SAGAサンライズパーク総合体育館

プログラム：

12：00～ ★ 出展者向け事前セミナー

12：40～ ◎ 開会式

13：00～ さがを創る大交流会開始

13：30～ ★ 「サガスト」発表会

14：00～ 留学生ブースツアー

14：20～ ★ マナー講座

15：00～ ★ スーツ選び講座

16：00～ 閉会

★ ステージイベント

12：00～ 出展者向け事前セミナー（講師：ジョブカフェSAGA 坂本圭介氏）

13：30～ 「サガスト」発表会（発表者：学生3名）

14：20～ マナー講座（講師：office color 代表 黒田彩氏）

15：00～ スーツ選び講座（講師：スーツセレクトモラージュ佐賀 坂本眞理子氏）

◎ 開会式

12：40～ さが地方創生人材育成・活用推進協議会会長挨拶 佐賀大学 学長 兒玉浩明

12：45～ 知事挨拶 佐賀県知事 山口祥義氏

12：50～ さがを創る大交流会学生実行委員エール



兒玉浩明協議会会長による開会の挨拶



山口祥義佐賀県知事による挨拶



多くの学生が会場に集まった



工夫を凝らした出展ブース



熱心に話を聞く学生



業務に使用する機器を体験できるブース

<ステージイベント>

中央ステージでは出展機関及び学生向けに、出展者向け事前セミナー、「サガスト」発表会、マナー講座、スーツ選び講座を開催しました。

出展者向け事前セミナー

ジョブカフェSAGAの坂本圭介氏を講師に迎え、出展者向け事前セミナーを開催しました。当日会場に来られた出展機関の方々に対して、ブースの展示方法や学生への声のかけ方などについて説明しました。



出展者向け事前セミナー開催

「サガスト」発表会

企業を対象とした取材活動を通し、職業観の育成及び地場中小企業の広報力強化を行うプログラム「サガスト」に参加した学生3名による発表会。取材先の企業の紹介や「サガスト」の活動から学んだことなどを発表しました。



「サガスト」発表会での学生発表

マナー講座

社会人の基礎を学ぶセミナー。office color代表の黒田彩氏を講師に迎え、参加学生に対して、就職活動やインターンシップ、社会人になった際に役立つコミュニケーションマナーについて説明しました。



マナー講座には多くの学生が参加

スーツ選び講座

スーツセレクトモラージュ佐賀の坂本眞理子氏を講師に迎え、スーツやネクタイを選ぶポイントや着こなし方、マナーなどの基本に加え、関連アイテムの説明などを行っていただきました。



中央ステージでのスーツ選び講座

＜留学生対象の取り組み＞

外国人留学生向けの取り組みとして、国際課が中心となり大交流会の英文チラシの作成・配布を行いました。また、大交流会当日は留学生対象のブースツアーとアンケート（英文）を実施しました。

留学生ブースツアー

佐賀大学国際課の職員が、「留学生採用の予定あり」と回答した35機関を訪問する「留学生ブースツアー」を実施しました。あらかじめ、留学生を採用する予定がある機関のブースラベルには「グローバルマーク」を表示し、参加した約15名の留学生が各出展機関を訪問しました。今年度は、佐賀県産業労働部産業人材課に協力を依頼し、外国人の就職に関する相談窓口機能の強化のため「佐賀県のしごと相談室」に配置された専任相談員にもお越しいただきました。



留学生ブースツアーに参加する留学生

＜大交流会開催までの取り組み＞

さがを創る大交流会開催までの準備として、さがを創る大交流会実行委員会の開催や出展募集説明会を行いました。

さがを創る大交流会実行委員会

令和元年4月から12月まで、毎月1回（交流会開催月の11月を除く計7回）「2019さがを創る大交流会実行委員会」を実施しました。佐賀大学、西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部、佐賀県、株式会社サガテレビの担当者、学生実行委員が集まり、開催日程や会場、出展機関への案内方法、イベント内容等について、開催に向けた協議を重ねました。



第5回2019さがを創る大交流会実行委員会

「2019さがを創る大交流会」出展募集説明会

令和元年7月17日（水）に、佐賀大学において出展機関募集のための説明会を開催し、99機関（115名）が参加しました。説明会では交流会の概要、出展のポイント、当日のプログラム、出展申し込み等の当日までのスケジュールについて説明し、出展を呼びかけました。

また、ジョブカフェSAGAに御協力をいただき、学生を呼び込むための出展ブースのディスプレイ方法、声掛けや誘導のポイントなどをご説明いただきました。



7月に開催した出展募集説明会

プロジェクト

B

地域志向型キャリア教育のプログラム開発とその実施

事業実施主体：佐賀大学全学教育機構

● 令和元年度の取り組み

大学COC事業を発展させた内容を含めたインターフェース・プログラム（地域志向型）及び基本教養科目「チャレンジ・インターンシップA・B」及び「佐賀版キャリアデザイン」を開講しました。さらに、地域を志向する6つの副専攻プログラムを新規開設しました。

■ 教育・インターンシップ

□ インターフェース・プログラム

インターフェース・プログラム（2～3年次の選択必修・8単位）である、「地域創成学」プログラム、「有明海学」プログラム、「地域環境の保全と地域社会」プログラム及び各学部の専門科目において、大学COC事業を発展させた内容を含めた地域課題解決型の地域を志向する授業を実施しました。「地域創成学I・II」においては、さがを創る大交流会の学生実行委員会を設置しました。

また、インターフェース・プログラムにおいては地域志向度を分類しており（※1）、地域志向教育が十分ではないD型の2つのプログラムについては、地域志向教育の拡充に向けたシラバスへの記載を含め、修正を行いました。今年度、新規開講したサブスペシャリティコースのプログラムについても地域志向教育を取り入れ、シラバスに反映しました。

（※1）4科目の総コマ数60コマのうち、A型:48/60コマ以上(80%以上)、B型:30～47/60コマ(50～80%未満)、C型3～29/60コマ(5～50%未満)、D型:2/60コマ(5%未満) に分類。

□ 地域を志向する副専攻プログラム

地域を志向する副専攻プログラムは、インターフェース・プログラムに、サブスペシャリティコースとしてプログラミング・データサイエンス、デジタルコンテンツ、芸術と社会、実践栽培、歴史文化、英語コミュニケーションの6つの新規のプログラムを追加し、このサブスペシャリティ・プログラムを基盤にしたそれぞれの副専攻を設置し、令和元年度より新規に開設しました。

□ チャレンジ・インターンシップ

基本教養科目「チャレンジ・インターンシップA」（2020年3月4日～17日までの6日間で実施予定、45時間・1単位）、「チャレンジ・インターンシップB」（10日間・2単位）を、事業協働機関と連携して開講しました。「チャレンジ・インターンシップA」の履修者は16名、「チャレンジ・インターンシップB（五十嵐）」は、昨年度より12名増の36名が履修。「チャレンジ・インターンシップB（五十嵐）」のインターンシップ受入れ先は、事業協働機関を含む県内企業及び団体等、新規6機関を含む計13機関（企業4、自治体2、NPO・団体7）となりました。

「チャレンジ・インターンシップB（五十嵐）」においては、インターンシップ終了後に受入機関も参加する報告会を開催するとともに、受入機関を対象にアンケートを実施し、来年度の実施に向けてプログラム内容を検討中です。



「地域創成学II」で発表するさが創学生実行委員



NPO法人温暖化防止ネットでのインターンシップ



「サガスト」での事前研修

□ 佐賀版キャリアデザイン

事業協働機関を含む県内の企業・NPO等と連携し、基本教養科目「佐賀版キャリアデザイン」(全15回・2単位)を開講し、192名が履修しました。事業協働機関を含む県内の企業・NPO等から、外部講師7名を招聘し特別講義を実施しました。講義では、佐賀や地域の魅力、地域における多様な働き方を伝え、学生からは「佐賀の良さを知ることができた」「佐賀での就職を前向きに考えようと思った」などの意見があったことから、地元就職意欲の向上が図られたことが確認できました。



佐賀版キャリアデザインにおける「インターンシップ報告会」

日 程	内 容
10月 2日	「ガイダンス」 講師：五十嵐 勉（全学教育機構・教授）
10月 9日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅰ」 講師：山内 一祥（全学教育機構・講師）
10月23日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅱ」 講師：井本 浩之（西九州大学/副学長・教授）
10月30日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅲ」 講師：井上 望（ジョブカフェSAGA・キャリアアドバイザー）
11月 4日	「さがを創る大交流会」 担当：五十嵐 勉（全学教育機構・教授）
11月13日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅳ」 講師：村田 恵介（株式会社オプティム・マネージャー）
11月20日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅴ」SDGs・ESG:「社会が選ぶ企業」 担当：五十嵐 勉（全学教育機構・教授）
11月27日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅵ」 講師：竹内 陽慶（特定非営利活動法人鳳雛塾・事務局長）
12月 4日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅶ」ビジネスマナーを磨いて、私を変える 担当：黒田 彩（office color・代表）
12月11日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅷ」佐賀市の都市戦略 担当：豆田 仁（佐賀市役所企画政策課）
12月18日	「ローカルキャリアデザイン論Ⅸ」ローカリストが語るNPOの仕事 担当：岩永 清邦（認定NPO法人地球市民の会・事務局長）
1月 8日	「ワークショップ」 講師：山内 一祥（全学教育機構・講師）
1月15日	「インターンシップ報告会Ⅰ（チャレンジ・インターンシップB）」 担当：五十嵐 勉（全学教育機構・教授）
1月22日	「インターンシップ報告会Ⅱ（チャレンジ・インターンシップB）」 担当：五十嵐 勉（全学教育機構・教授）
1月29日	「インターンシップ報告会Ⅲ（チャレンジ・インターンシップB）」 担当：五十嵐 勉（全学教育機構・教授）

プロジェクト

C

地域芸術デザイン力の養成による地域再生を担う人材育成

事業実施主体：佐賀大学芸術地域デザイン学部 (H28.4開設)

● 令和元年度の取り組み

芸術地域デザイン学部は芸術表現コースと地域デザインコースから成ります。学部では「芸術で地域を拓き、芸術で世界を拓く」をコンセプトに、芸術を通して地域創生に貢献する人材を育成し、学部の特性に合わせた就職支援を行っています。

■ 教育

□ 「地域創生フィールドワーク」

学部3年次のコア科目「地域創生フィールドワーク」を活用し、アートを通して地域創生を担う人材の養成を行うために、学士主体の地域活動を実施。有田の内山地区のイベント『うちやま百貨店』の一部の展示として芸術地域デザイン学部の学生によるアート展示を行いました。この展示を通じて有田町の地域資源を再発見し、地域内外の方に有田の魅力を伝えることができました。終了後には成果発表会を行い、学生にとってはアートを通じた地域創生を考える機会となりました。



地域創生フィールドワークでの活動



デザイン系企業視察ツアー

■ 就職支援

□ 芸術地域デザイン学部 デザイン系企業視察ツアー

令和元年10月25日に、「芸術地域デザイン学部 デザイン系企業視察ツアー」と題した企業訪問バスツアーを実施しました。芸術地域デザイン学部学生の就学と関係の深い、株式会社東馬、株式会社ベガコーポレーション、株式会社レベルファイブの3社を訪問。日ごろ触れることのない企業の内部を見学し、また人事担当者と意見交換をすることで、社会や企業が求める人材、大学生活で学んで欲しいことなど、現場の実情を垣間見ることができました。学生からは、今後の進路を決めるうえで参考になったという意見が多く挙がりました。



学内で開催された就職支援セミナー

□ その他、学部独自の就職支援の取り組み

学部学生の就職支援ニーズに対応し、本学就職委員会と連携し、学部独自の就職支援セミナーを以下のとおり実施しました。

- 4/17 (水) 「就職活動準備ガイダンス：インターンシップ・就活までのスケジュールとその対策」
- 5/29 (水) 「クリエイティブ系職業の現場とキャリア形成」「ポートフォリオ作成のポイントと個別チェック」
- 6/ 5 (水) 「地域マネジメントセミナー：地域のために働くって？」
- 6/19 (水) 「インターンシップの選び方」「エントリーシートの書き方、履歴書の書き方」
- 6/26 (水) 「ビジネスマナー講座：就職・インターンシップにあたっての基本的なマナーと心構え」
- 7/ 5 (金) 「キャリアを考える」
- 7/12 (金) 「OG・OB 講演会」「寮元等へのインターンシップ説明会」
- 7/19 (金) 「寮元等へのインターンシップ事前指導」
- 8/13 (火) -9/28 (土) 「寮元等へのインターンシップ」
- 10/16 (水) 「就職活動準備ガイダンス」「履歴書、エントリーシート対策」
- 「内定者座談会：今から就活する人へ、先輩からのメッセージ」
- 10/23 (水) 「女性の働き方講座」「テレビ業界の仕事」
- 10/25 (金) 「バスツアー（企業視察）」
- 11/13 (水) 「アントレプレナー講座」
- 11/27 (水) 「ポートフォリオ個別指導」
- 12/ 4 (水) 「対策講座（個別指導）：模擬面接／グループディスカッション」
- 1/16 (土) 「就活対策講座：インターンシップから就活へ」「エントリーシート・履歴書・面接対策」

プロジェクト

D

子どもの発達支援士育成 (COC+参加校との連携)

事業実施主体：大学コンソーシアム佐賀：佐賀大学教育学部 (H28.4開設)

● 令和元年度の取り組み

子ども発達支援士養成プログラムを実施し、子ども発達支援士の育成を行っています。また、子ども発達支援士養成卒後プログラム (以下「卒後プログラム」という) 及び現職プログラムを実施し、資格取得後のスキルアップも実施しました。

■ 教育及び就職支援

□ 子ども発達支援士養成プログラム

COC+校 (佐賀大学) とCOC+参加校 (西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部) 等と連携して子ども発達支援士養成プログラム (令和元年度受講登録者総数：130名) を実施しました。本プログラムの核となる必修科目「子どもの支援Ⅰ (基礎・実習)」は、前期・後期に各1日実施する集中講義と、30時間の「支援実習Ⅰ」への参加を課します。「支援実習Ⅰ」において、学生は自ら希望する支援実習先を選択し、実習を体験することで、より実践的で確かな支援力を身につけることが可能です。

本プログラムは大学間連携共同教育推進事業採択後8年目を迎え、連携校全体でプログラム履修中の学生数と子ども発達支援士の資格を取得し卒業した学生数は1,414名となりました。

平成30年度までに資格を取得し、卒業した学生数は854名です。在学生を対象とする本プログラム関連講座 (支援実習事前・事後指導) で講師を務めたり、九州地区大学教職課程研究連絡協議会におけるパネルディスカッションへ登壇したりするなど、保育者として日々子どもたちに接しながら、地域社会で広く活動しています。

□ 卒後プログラム及び現職プログラム

「子ども発達支援士 (基礎)」資格認定者で、「子ども発達支援士」の取得を目指す保育者と基礎資格は有していないがプログラムに関心のある現職者を対象に「子ども発達支援士養成卒後・現職プログラム」を、連携校共同で実施しました。本年度は5名が受講しました。「卒後プログラム」修了者に対しては、「子ども発達支援士」資格を認定します。

【表D-1】子ども発達支援士等の有資格者と就職状況
(平成25年～令和元年度)

年 度	資格 認定者数	入職者数		入職率	
		全体	県内	全体	県内
平成25年度	100名	79名	56名	79%	71%
平成26年度	135名	109名	67名	81%	61%
平成27年度	120名	89名	53名	74%	60%
平成28年度	155名	119名	74名	77%	62%
平成29年度	112名	80名	50名	72%	63%
平成30年度	138名	129名	86名	93%	67%
令和元年度	120名	入職状況については調査中			
合計	881名	605名	386名	69%	64%



子ども発達支援士養成プログラムの講義

■ 研究

□ 2019年度久留米大学教職課程年報

令和2年1月に、大学紀要に「発達障害と子ども発達支援士の養成—大学コンソーシアム佐賀の取り組み—」として投稿し、過去8年間の子ども発達支援士養成を振り返ることができました。

プロジェクト

E

産業界との連携による実践的地域志向キャリア教育及び 地域労働市場の実態調査分析 事業実施主体：佐賀大学経済学部

● 令和元年度の取り組み

主に経済学部専門科目による就職に対する意識の向上や、就職カルテシステムの導入等を行い、産業界との連携した実践的地域志向キャリア教育や学生の就職支援を促進しました。

■ 教育

□ 経済学部専門科目「実践インターンシップ」

（単位制インターンシップ）

県内企業や自治体を受入機関とした、課題解決型の正課インターンシップ科目「実践インターンシップ」において、8月下旬に5日間の日程で、木村情報技術株式会社、株式会社佐賀電算センター、鳥栖市役所（総合政策課、総務課、生涯学習課）の3機関において課題解決型のインターンシップを実施しました。計14名の学生（2・3年生）が受講し、現地での実習に加え、事前講習会、事後報告会を行いました。事後報告会（楠葉同窓会交流会での開催）では、インターンシップで学んだ内容を報告し、今後の進路を考える一助となりました。



現代の経営における授業

□ 経済学部専門科目「現代の経営」

地域志向型キャリア教育科目として、佐賀県経営者協会、佐賀経済同友会、佐賀県信用保証協会の協力による講義「現代の経営」（前期15回）を開講し、245名の学生（2年生以上）が受講しました。様々な県内企業・団体に関する情報や働くことについてのイメージを提供し、学生と県内企業・団体との間の相互理解の向上に寄与しました。



木村情報技術株式会社における実践インターンシップ

■ 就職支援

□ 就職カルテシステム

2年生以上の経済学部全学生を対象に就職カルテシステムを構築し、学生の就職に関する意識（進路希望、希望勤務地等）及び取り組み状況を定期的に把握するようにしました。学生の就職に関する意識及び取り組み状況は、ゼミ教員を通じ就職カルテシステムにより定期的に把握を行いました。

プロジェクト

F

障がい者就労支援士の養成 —継続して医学的ケアを必要とする方の就労支援教育— 事業実施主体：佐賀大学医学部

● 令和元年度取り組み

高次脳機能障がいについて学ぶ講義や、移動困難者の支援のための研究会・報告会を開催しました。また、高齢者、障がい者、患者など就労支援を必要とする方々を対象にしたシンポジウムの開催や報告書を作成しました。

■ 教育

□ 「高齢者・障がい者の生活・就労支援概論」及びインターフェース科目「ライフサイクルからみた医療Ⅳ」

地域・社会における雇用創出に向け改訂を行ってきた障がい者（高齢者など含む）就労支援カリキュラムによる教育を実施しました。「高齢者・障がい者の生活・就労支援概論」においては、今年度から医学部の学生のみが受講するため、より各々の専門性を生かして講義を行いました。

また、就労に伴う心身の負荷に関するエビデンス取得手法を整備するため、各講義の受講生に対する検査や質問紙調査などを行い、ここで得た回答の分析結果を個人情報に配慮しながら受講生に対して報告し、受講動機向上を試みました。

さらに、患者会や家族会、医療機関、企業などにおいて就労支援に関する具体例について調査を行いました。また、高次脳機能障害に関して患者会や相談機関の担当者に「高齢者・障がい者の生活・就労支援概論」での講義を依頼し、事例報告及び質疑応答を実施。その他、疾病の理解、それに対するアクティブラーニング、県内の医療機関の分布の把握、問題点の整理、さらに発達障害の医学的定義、治療、社会適応に関する講義を行うなど、内容の豊かな講義となりました。



高次脳機能障害と交通事故についての講演会

■ 研究

□ 移動困難者における問題点の把握と支援方法を検討

移動困難者における問題点の把握と支援方法を検討するため、当事者、家族、そして地域向けの研究会、報告会などを実施しました。障がい者（高齢者など含む）就労支援の一環として脳卒中後遺症患者等の運転再開に関して、大学病院と関連病院、そして実車評価を実施しました。また、地域における実践活動の一環として、高齢者が求めるモビリティ支援の地域での実施、及び高齢の一般運転者を含めた評価を行うため、高齢者安全運転コンテストを開催し、好評を得ました。その結果、新聞への掲載、福岡のテレビ局からの取材を受け、社会的関心の高い活動を通して実践教育を行うことができました。



高齢者安全運転コンテストポスター

□ 指定難病の概要集の作成

高齢者、障がい者、患者など就労支援を必要とする対象者に向けたシンポジウムなどを開催し、啓発活動を行うため報告書（冊子）を作成しました。また、学生が自ら調べた、指定難病についてのレポートを集成した冊子を作成し、学生にフィードバックしました。

※本プロジェクトでは、カリキュラム改定に伴い、障がい者就労支援教育（全学教育機構基本教養科目2科目、インターフェース科目2科目）による大学での資格認定は行わず、共生社会実現のために、障がい者及び高齢者などを社会参加に促すための就労支援教育を継続しています。今年度は特に、医学科及び看護学科が教育の対象となったためより専門性に即した医学領域における就労支援の観点から教育を行いました。

産業界との連携による 創造型工系キャリア教育による人材育成 事業実施主体：佐賀大学理工学部

● 令和元年度の取り組み

地方創生に関わるカリキュラムを組み込んだ理工学部の改組を開始しました。創造型教育システムの取り組みやインターフェース科目、地方創生インターンシップ等の科目を通じた地域志向教育の実施、キャリアデザインセミナーや業界研究セミナー等を開催し、県内企業や団体等との連携を深めました。さらに、県内自治体や企業との共同研究にも取り組んでいます。

■ 教育

□ 創造型工系キャリア教育の取り組み

佐賀県内企業等との意見交換を行うため、さが創造型工系キャリア教育連絡会を1回、メール会議を2回実施。創造型工系キャリア教育システムについて意見交換を行い、インターンシップや演習、キャリアデザインセミナーの開催について協議することでインターンシップやキャリアデザインセミナーなど今後の見通しを持ち、共通理解を図ることができました。創造型教育システム（創造型PBL演習等）の取り組みとして、「都市工学ユニット演習」「建築環境工学演習II」を行い、「都市工学ユニット演習」では、佐賀県や県内市町村の取り組みについて学び、計画・設計提案に学生が取り組みました。具体的には、鹿島市の浜小学校等を対象として、地方創生の意義やまちづくりにおける公共施設のあり方、その効果などを議論し、地方創生を学ぶ上での学生の動機付けを行うことができました。

また、地方創生を視野においた理工学部改組を開始し、組織運営委員会での地方創生インターンシップや資格関連のカリキュラムの実施についての議論を通して、具体的な取り組みが始まりました。



キャリアデザインセミナーの実施

□ 環アジア国際セミナーの開催

令和元年7月20日から27日、鹿島市肥前浜宿で環アジア国際セミナー（日本・タイ・カザフスタン・ミャンマー・オランダ・オーストリア）を開催し、タイ・タマサート大学から4名、チェンマイ大学から6名、カザフ建築土木高等アカデミーから7名、アイントホーフエン工科大学から4名、ウィーン工科大学から8名、佐賀大学から24名が参加しました（担当：三島伸雄教授・平瀬有人准教授・宮原真美子准教授、協力組織：NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会、浜町振興会、祐徳稲荷神社門前商店街、鹿島市）。

海外の研究者及び学生、佐賀大学の学生に、佐賀県内の歴史的町並みを深く知ってもらい、ワークショップの作業と成果発表によって、建築・都市デザインに関する学生の技術力や提案力・発表力の向上、国際的意識の向上を図ることができました。



環アジア国際セミナー参加者

□ インターフェース科目「地域創成学Ⅲ」

令和元年8月8日、嬉野市において、「地域創成学Ⅲ」ならびに「建築・都市デザイン特別演習I」で実施した嬉野市のまちづくりの調査・研究結果について発表しました。具体的には、株式会社嬉野創生機構（代表：古田清吾氏）と嬉野市の協力を得て、クラウドファンディング事業に向けた学生提案、嬉野新幹線新駅周辺整備に関する提案を行いました（担当：三島伸雄教授、後藤隆太郎准教授、協力組織：嬉野市、株式会社嬉野創生機構）。

また、共同研究の一環として、「地域創成学Ⅲ」で受講した学生の有志を帯同して、嬉野の地方創生に向けた資料収集、議論などを行いました。嬉野市新幹線建設課新幹線整備室・室長松尾建造氏、株式会社嬉野創生機構古田清吾氏とともに学生のアイデアを一つのベースにした修正案などの作成を行い、共有することができました。

■ インターンシップ

□ 理工学部専門科目「地方創生インターンシップ」の実施

「地方創生インターンシップⅠ」及び「地方創生インターンシップⅡ」を実施しました。都市工学科・電気電子工学科・機械システム工学科・機能物理化学科・知能情報システム学科・物理科学科の学部生の計36名が履修しました。科目種別の内訳は、5日間(1単位)10名、10日間(2単位)26名が受講し、令和元年8月5日から9月30日までの間で、1週間又は2週間で各県内企業にてインターンシップを実施しました。10月23日に実施した、地方創生インターンシップ成果報告会では、充実した内容の発表が多く見られ、インターンシップを通して学生が地域や地域で活動する企業について深く学んだことが理解できました。



地方創生インターンシップオリエンテーション

■ 就職支援

□ さが創造型工系キャリアデザインセミナーの開催

各学科が主催する「さが創造型工系キャリアデザインセミナー」を計7回実施しました。セミナーにおけるOB/OG等の講義を通して就職活動の考え方、進め方などについて触れることで、研究室の選択、就職活動、県内就職やその意義など、これからのキャリア形成に関する意識の向上を行うことができました。また、県外に就職希望の学生も佐賀を就職の候補地として考える良いきっかけになりました。

□ さが地方創生合同業界研究セミナーの実施

令和2年1月29日に、就職支援の取り組みとして佐賀大学理工学部6号館2階多目的ホールにて、さが地方創生合同業界研究セミナーを実施しました。参加企業は、佐賀県内の理工系企業25社、57名の学生が参加しました。佐賀県内企業のことを学生が知る機会をつくることができ、県内企業への就業に対する関心を高めることができました。



さが地方創生合同業界研究セミナーの実施

□ 肥前地区キャリア教育プログラムの実施

令和2年1月8日、1月22日に、理工学部化学部門・矢田光徳准教授が肥前セラミック研究センター「肥前地区キャリア教育プログラム」を実施しました。本プログラムでは、学生14名が参加し、株式会社佐賀LIXIL製作所と日本タングステン株式会社の工場見学を行い、学生は企業に関する理解を深めました。また、これらの企業と密接な関係を築くことができました。

■ 研究

□ ICT防災デザイン研究

令和元年6月7日に、ICTまちづくりデザイン研究に関連して、佐賀県鹿島市の浜町公民館で地元住民に対する研究報告会を行いました。佐賀大学からは、三島伸雄教授・岡崎泰久教授・和久屋寛准教授のほか、各研究室の学生8名が発表し、地元からはNPO法人水とまちなみの会、鹿島市、浜町自主防災組織、鹿島高等学校から計35名が参加しました。その後、水とまちなみの会総会に参加し交流を深めるとともに、地元住民からのモニタリングを行いました（協力組織：鹿島市、NPO法人肥前浜宿水とまちなみの会、有限会社鹿島防災、他）。地元住民に対する研究発表によって、研究チームが行なっているICTまちづくりデザイン研究（防災、民泊、景観）の内容を住民に理解してもらうことができ、さらに、意見交換によって、地元住民しか知らない地域課題について知り、研究の課題と今後取り組むべき課題を理解することができました。



ICTまちづくりデザイン研究報告会

□ 国際会議における研究発表

ICTまちづくりデザイン研究所の研究成果の発表と情報交換のため国際会議での研究発表を以下のとおり2回実施しました。ICT防災研究の研究成果を国際会議で広く発表し、研究成果について、国際的な研究者との意見交換をすることができました。

- ・シンポジウム「大都市と環境行政」（日程：令和元年11月19日、発表者：三島伸雄教授、主催：ロシア・モスクワ経営大学、場所：ロシア・モスクワ）
- ・ICCE2019国際ワークショップICTDSE2019（日程：令和元年12月3日、発表者：岡崎泰久教授、主催：IEEE Consumer Electronics Society、場所：台湾・墾丁）

□ 論文採択及び学会発表

令和元年9月18日から20日に九州工業大学戸畑キャンパスで開催された「産業応用工学会全国大会2019（IIAE2019）」において、電気電子工学部門の和久屋寛准教授が参加する「ICTまちづくりデザインプロジェクト」（代表者：都市工学部門・三島伸雄教授）に関わる研究発表が高く評価され、「産業応用工学会賞」を受賞しました。「ICTまちづくりデザインプロジェクト」の研究対象地区としている鹿島市肥前浜宿を対象にした研究であり、地域貢献としても注目を浴び、佐賀新聞などにも取り上げられました。

□ 共同研究

嬉野市との共同研究の締結：

- ・「嬉野市新幹線新駅開発に付随する地方創生デザイン研究」（嬉野市）／三島伸雄教授（研究代表者・理工学部都市工学科）
- ・「セラミックス多孔質基材の接合技術の開発」（岩尾磁器工業株式会社）／矢田光徳准教授（理工学部化学部門）
- ・「工業用陶磁器等新製造工程化開発に関する研究」（株式会社香蘭社）／一ノ瀬弘道教授（研究代表者・理工学部肥前セラミック研究センター）、矢田光徳准教授（理工学部化学部門）
- ・「IH（誘導加熱）に対応する有田焼の病院・介護施設給食用食器及び調理器具の開発」（株式会社匠）／三沢達也助教（理工学部電気電子工学部門）

研究成果が順調に上がり、令和元年9月に、国立研究開発法人科学技術振興機構・A-STEP・研究成果最適展開支援プログラム・試験研究タイプに採択された（タイトル：「伝統技術の有田磁器技術に、新しい強化陶磁器技術、誘導加熱技術を融合して実現する、高耐久性と実用性を備えた高機能磁器の開発」）。

- ・「伝統技術と電磁気学的効果を併用した陶磁器の革新的製造技術の開発」（株式会社匠）／三沢達也助教（理工学部電気電子工学部門）

■ その他

□ 浜川かわまちづくり関係者会議への出席

令和元年8月22日に鹿島市で行われた浜川かわまちづくり関係者会議に出席し、浜川の河川改修およびその周辺整備に関する意見交換を行いました（担当：三島伸雄教授、協力組織：肥前浜宿水とまちなみの会、祐徳稲荷門前商店街、鹿島市、佐賀県他）。佐賀県によって進められている浜川河川改修に対する住民の貴重な意見を収集し、鹿島市が中心になってかわまちづくり事業に取り組むことについて相互理解を深めることができました。



浜川かわまちづくり関係者会議

□ 講演会・研究発表会の開催

令和2年2月20日に、公益社団法人日本セラミックス協会陶磁器部会主催、佐賀大学肥前セラミック研究センター（理工学部化学部門・矢田准教授）共催で、講演会と研究発表会を開催しました。地元企業や佐賀県窯業技術センター等との共同研究の成果を発表し、地元関係者に研究成果を公表しました。また、学生は講演会に参加することにより、佐賀県を代表する産業の一つである陶磁器産業の現状について学ぶことができました。



建築・都市デザイン特別演習による提案

プロジェクト

H

農業のIT化と6次産業化を担う人材育成

事業実施主体：佐賀大学農学部

● 令和元年度取り組み

農学部専門科目やインターフェース科目等でキャリア教育や実践教育を行い、IT農業や6次産業化、地域におけるキャリアプランの構築について学びました。また、インターンシップの実施、企業と共同した化粧品開発、茶学会の開催等、企業や地域との連携・交流を促進しました。

■ 教育

□ 農学部専門科目及び教養教育科目

農学部専門科目「果樹園芸学」において、化粧品の重要材料となるフラボノイドに関する情報を提供しました。学生は地域特産物に含まれる機能性成分を理解し、これらを使用した商品化の可能性を理解することができました。

2・3年生を対象にしたインターフェース科目「2年間でできるがばいベンチャーI～IV」（選択必修科目・2年間で4科目8単位）を継続開講しました。IVの受講生は、令和元年11月30日に開催された2019年佐賀大学学生ベンチャービジネスプランコンテストへ参加し、2件が優秀賞に選定され、実際に起業することの意義を認識することができました。また、令和2年1月16日・23日にインターフェース科目受講生によるビジネスモデル発表会を実施し、3年生39名がIoTを活用したビジネスプランを作成し発表しました。発表会では学外有識者を招き、審査とコメントをいただきました。受講生はより実践的な起業のあり方やプログラミングを身に付け、社会課題の解決に貢献することの重要性を理解することができました。本インターフェース科目は令和元年3月に36名が修了、令和2年3月に39名が修了予定となっています。

農学部全1年生が受講する「農業ICT学」を開講し、令和2年1月28日及び2月4日にビジネスプラン発表会を実施しました。農学部1年生（146名）が農学部教員の研究成果をベースにしたビジネスモデル構築に取り組み成果を発表することにより、ロジカルシンキングやプログラミング基礎を身に付け、IT農業の基礎を理解することができました。特別講演会は盛況で、参加した多くの学生が最新のIT農業の現状を理解することができました。



「2年間でできるがばいベンチャー」授業風景



「2年間でできるがばいベンチャー」ビジネスモデル発表会

□ アグリセンターにおける実践教育

アグリセンターにおいて、ノビルを材料にした実践教育が開始されました。学生はノビルを材料にした病害虫防除、施肥、収穫作業等、食料生産の基本的な作業の習得及び加工実習を通して、農産物の利用促進と新事業を創出する手段（6次産業化への展開）を習得することができました。また、令和元年4月から佐賀県立高志館高校とのノビル加工品の試作を行いました。学生は地域産業による地元商材を使用した商品化への過程を学ぶことができました。

プロジェクト

I

地元就職率向上のための支援と高大連携による 地元入学率の向上事業

事業実施主体：佐賀大学キャリアセンター・アドミッションセンター

● 令和元年度の取り組み

キャリアセンターでは、学部ごとの県内就職率目標値の設定や民間企業内定学生の就職先決定時期の予測・分析結果に合わせた県内の企業訪問・未内定者向け説明会・求人紹介等を行いました。アドミッションセンターでは、学内で高校生対象の授業の実施や高校訪問等を積極的に行い、高大連携を推進しました。

■ 就職支援 (キャリアセンター)

□ 県内企業訪問による雇用数の確保・雇用先リストの作成

県内企業訪問による雇用数の確保と雇用先リストの作成のため、令和元年3月から5月にかけて、キャリアセンター長が採用実績の多い企業や新規進出企業等、10社以上を集中的に訪問しました。また、平成31年3月から4月にかけて、県内企業に対して地元就職に関する意向調査（アンケート）を実施し、約200社の回答を得ました。回答から、大卒採用意欲のある企業に関して、具体的な雇用予定数を含めたリストを作成し、把握した情報について各学部の就職担当教員と情報を共有しました。

令和元年9月5日には、県内企業と大学との就職関係におけるマッチングの場として「県内企業と佐賀大学との交流会」を開催しました。74社の企業と、大学から学部長、就職担当教員など15名が出席し交流しました。参加企業向けアンケート結果から、継続して採用意欲のある企業を確認し、就職担当教員との情報共有を図りました。



有田での県内企業と佐賀大学との交流会

□ 未内定者向け合同会社説明会・就職相談

令和元年6月から令和2年1月にかけて、未内定者及び公務員不合格者等を対象に、具体的な就職先紹介を含む求人紹介を行い、就職相談に来た10名の学生の内、8名が内定し、内4名が県内就職を果たしました。

令和元年7月5日に、未内定学生向けの合同会社説明会を開催し、20機関が参加しました。説明会では「1次面接免除」等、学生のメリットとなる要因を出展企業に求め、学生の参加しやすい状況を整えました。各学部と連携して案内を行った結果、27名の学生が参加し、2名の学生が参加企業に内定しました。

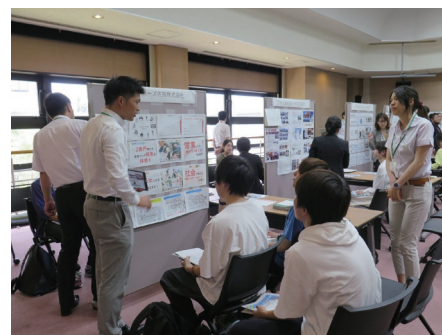
□ インターンシップ・バスツアー・説明会等による県内企業PR

令和元年6月21日に、地元企業、自治体等を対象に主に夏に展開されるインターンシップに関する合同説明会を開催し、正課インターンシップの受入先を含む21機関が出展、119名の学生が参加しました。その結果、9月末までに68名の学生がインターンシップに参加し、インターンシップ参加者数の増加につながりました。

令和元年9月25日から27日の3日間で、県内企業へのバスツアーを実施し、9社を訪問。3年生を中心に22名の学生が参加しました。

令和元年12月18日に、企業の若手・OBと学生との交流会（1日プチ社員インターンシップ）を開催。令和2年2月に開催する合同企業・業界研究セミナーに申し込みいただいた県内企業8社が参加し、10名の学生が参加しました。

令和元年2月18日から20日にかけて、合同企業・業界研究セミナーを実施しました。出展企業450社の内、県内企業53社が出展し、学生との交流を深めました。



県内機関が出展したインターンシップ合同説明会



県内企業へのバスツアー

■ 高大接続（アドミッションセンター）

□ 「佐賀大学とびらプロジェクト」の実施

高校生に大学の教育・研究に興味関心を持たせる授業や実験を展開することによって受験者層を育成するという視点に立った「継続・育成型高大連携カリキュラム」の「佐賀大学とびらプロジェクト」を実施しました。佐賀県教育委員会と平成30年度第1回高大連携協力会議を開催し、平成31年度の連携事業について協議した結果を踏まえ、「教師へのとびら」、「科学へのとびら」、「医療人へのとびら」、「社会へのとびら」、「アートへのとびら」の実施を決定し、高等学校へ通知しました。

各とびらプロジェクトは工程表に沿って全学部が実施し、令和元年度のとびら登録者数は延べ1,198人となりました。平成30年度の佐賀県の普通高校の生徒数が12,898人であることから、県内生徒の9.3%が参加する大きな事業に成長しています。教師及び科学のとびら受講生のうち、平成31年3月に高校を卒業した生徒の追跡調査を行った結果、本学に入学した生徒は多いとは言えませんが、学んだ学問分野に進学した生徒が多く高大連携の役割は果たしています。

□ 佐賀県内の高校を訪問

佐賀県内の高校を延べ70校訪問し、「とびらプログラム」実施前には高大連携プログラムを、加えて佐賀大学入試についての説明会等の開催前やAO入試、推薦入試出願期間前には選抜方法の説明を行いました。高校訪問については、アドミッションセンター特任講師が年間260校を訪問するなど、きめ細かな広報活動を行うことにより、緊密な連携がとれています。



「科学のとびら」成果発表会

プロジェクト

J

地域志向キャリア教育の改善（PBL化等）・ 中長期実践型を含むインターンシップの高度化 事業実施主体：西九州大学（COC+参加校）

● 令和元年度の取り組み

地域活動における高大連携キャリア教育や地域志向型教育の推進、事業協働地域を中心としたインターンシップ拡大、キャリア教育科目のカリキュラム改定などを図りました。

■ 教育

□ 高大連携キャリア教育

昨年度に続きサガ・ライトファンタジーの電飾設置や「かんざき宿場まつり」の運営は近隣地区の高校と共同で実施しました。学内向けのポータルサイトの一部を包括連携協定の締結校である佐賀学園高校及び佐賀清和高校、神埼清明高校にも公開し、地域のボランティア活動やPBL型学習に高校生が参加しやすい体制を整えたことで、大学生と高校生が共に地域活動を行う機会が増えました。

また、県内の高校生が佐賀の魅力をプレゼンテーションする企画（「佐賀さいこう！企画甲子園」主催：佐賀県／運営：NPO法人鳳雛塾）の運営など、高校生を主体とする活動のサポートを大学生が行う機会を設けました。

□ 学修成果の報告会及びSD研修会の実施

令和2年1月11日に、学外活動の報告会を実施し、学生・教職員の他、学外活動の受入先である自治体関係者や地域団体の関係者など、計500名が参加しました。

令和2年3月5日に、今年度の活動報告を兼ねたSD研修会を実施しました。来年度の取り組み体制についても説明し、補助事業終了後の事業継続についての周知を図りました。

□ COC事業の発展的展開

プロジェクトI継続事業：健康栄養学科による「栄養教室」（12回、参加者246名）と、子ども学科による「子どもミュージアム」（12回、参加者96組229名）を開催し、地域生活者に対する栄養的側面からの支援・教育について、子どもたちの現状や課題、教育者としての心構えや教育力向上を図ることができました。

プロジェクトJ継続事業：豪雨災害被災地の支援を中心に、高齢者等が集える場づくりを地域と一体となって行いました。学生は、サロン活動等の活発化を促す一方で、細かくニーズが変化する被災現場において臨機応変に対応する力や傾聴力の向上が見られるとともに、地域ニーズに対する計画立案及び実施ができるようになりました。

プロジェクトK継続事業：県内の食品メーカーの協力を得て、地域食材であるひしとハーブを題材にした商品開発を行いました。また、選択必修科目「地域の食産業」において、外部講師による地域の食や商品開発に関する講話を行いました。学内で製造した菓子の販売や学園祭における試作販売を行うことができました。

■ インターンシップ

□ インターンシップの実施

地域志向型キャリア教育を実現するために、キャリア教育科目のカリキュラムにおいて履修年度の改訂を行い、PBLとインターンシップを同一年度で履修できるようにしたことで、低年次（2年生）からの正課インターンシップ参加が可能となりました。

今年度は、事業協働地域を中心に、14機関（事業協働地域内10機関、事業協働地域外4機関）においてインターンシップを実施しました。

宮島醤油株式会社、株式会社まるきん、株式会社和多屋別荘の3社においては、インターンシッププログラムのブラッシュアップ、また、馬渡島診療所、一般社団法人佐賀青年会議所、A-noker株式会社の3機関においては、中長期実践型を含むインターンシップ実施コンテンツの開発を行いました。さらに、ジョブカフェSAGA及び株式会社コミュニティジャーナルの2機関において、既存のPBLコンテンツをブラッシュアップしました。いずれのプログラムにおいても、インターンシップの種類の定義づけや受け入れ側の課題認識及び学生の培いたい能力を明確にした上でマッチングを行ったことで、企業側の理解が促され満足度の高いプログラムを実施することができました。

■ 就職支援

□ コミュニケーション会の実施

全学科を対象とした企画として、2020年1月13日（月・祝）に「学生×社会人コミュニケーション会」を実施、佐賀県内及び近郊に勤務する若手社会人が現在の仕事を選んだ理由や仕事のやりがいなどを披露し、学生（参加者14名）とディスカッションを行いました。また、各学科においても、以下の通り職業人の講話と交流を兼ねた企画を実施しました。

・健康栄養学科：卒業生講演

6/21(金) 3社（委託給食会社、食品会社、ドラッグストア）

6/28(金) 2社（医療機関、福祉施設）

・リハビリテーション学科：就職説明会

10/3(木) 53社（医療機関、福祉施設）

■ その他

□ 実績報告書の作成

令和2年2月には、今年度実施した活動及びインターンシップをとりまとめ、学生、インターンシップ受入企業、学科の担当教員など、インターンシップに関わる全関係者の参考書となる実績報告書を作成する予定です。

□ 広報活動

ウェブを用いた情報発信を行うため、本学の「あすなろうセンター」ホームページにインターンシップ等学外活動についての月次報告を掲載しました。また、キャリア教育科目を所掌するあすなろうセンターのFacebookアカウントを取得しホームページと連動した情報発信を行いました。本ホームページ等による情報拡散を行い、学外活動の掲載は616件（前年度比102件増）となりました。



「学生×社会人コミュニケーション会」の実施



佐賀学園生と協働したサガ・ライトファンタジー取り付け作業



さがを創る大交流会における「サガスト」発表



株式会社コミュニティジャーナルでのインターンシップ



神埼清明高校生と西九大生の連携



子どもミュージアムの開催

プロジェクト
K

アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・ 子ども発達支援士の養成

事業実施主体：九州龍谷短期大学（COC+参加校）

● 令和元年度の取り組み

アクティブ・ラーニング方式の地域志向型キャリア教育やインターンシップの取り組み等充実させました。学生の地元（佐賀県）への就職率は令和元年度目標44.0%に対し44.6%（令和2年2月1日現在）となり、目標を達成することができました。

■ 教育・インターンシップ

□ 地域志向型キャリア教育

アクティブ・ラーニング方式の地域志向型キャリア教育の一環として、各学科の関連企業等から外部講師を招いて学生との交流の場を設け、実際の現場で働く本学の卒業生や諸先輩方の生の声を聴き、質問することで、自分が働くことを具体的にイメージできるよう図りました。

また、「地域文化論」（講義）の一環として、「国営吉野ヶ里歴史公園」と「佐賀県立佐賀城本丸歴史館」を見学しました。郷土の歴史について改めて再確認することにより、自分と郷土の関わりについて考えるきっかけとなりました。

□ 子ども発達支援士養成プログラム

子ども発達支援士養成プログラムに20名が履修登録し、プログラムを通して地域の療育機関等で実習を行うことにより、地域の保育園、幼稚園、福祉施設への就職意欲が向上し、地元就職の促進を図ることができました。

□ インターンシップの実施

人間コミュニティ学科の映像・放送コース及び司書・情報コースで、企業等と連携してインターンシップを実施し、20名が参加しました。映像・放送コースでは、メディア関連企業との連絡会議等を実施し、協働でインターンシップ等による人材育成を行いました。また、同学科司書・情報コースでは、鳥栖市立図書館をはじめ、佐賀県内の図書館等と連携してインターンシップ等の人材育成を行い、学生は実践的な業務スキルを身に付けることができました。

保育学科においては、地元の幼稚園・保育園等と連携し、資格・免許に関連する実習経て、学生の地元への就職意欲を向上させ、地元の幼稚園、保育園等の人材不足解消にも貢献しました。

■ 就職支援

□ 就職先アンケート

就職先アンケートで、就職先での本学卒業生の評価を調査すると共に、ニーズアンケートで就職先が学生に求める能力の調査も行い、各学科において分析・活用を検討しました。また、平成30年度卒業生アンケート、在学生アンケートも合わせて実施し、各学科において分析・活用を検討することができました。

□ 会社説明会及び個別相談の実施

令和元年6月より就職対策の一環として、ハローワーク学卒ジョブサポーターによる個別相談を全10回の日程で開催し、7名が相談に訪れました。令和元年7月8日に、佐賀市に支社のある企業の会社説明会を学内で開催し、地元企業との関係をさらに深めました。また、7月9日に鳥栖市内にある事業所（4カ所）へ本学学生（2名）を連れて引率訪問し、地元企業への就職について考えるきっかけとしました。

□ 情報発信

本学ホームページ内に「COC+事業」の情報や佐賀県内の求人情報を毎月発信・更新しました。学生の佐賀県への就職率は44.6%（令和2年2月1日現在）となりました。

■ その他

□ 交流会等への参画

COC+参加校として、令和元年11月4日に開催された「2019さがを創る大交流会」に参画し、学生22名が参加しました。

□ 「第4回子どもフェスタ」の開催

令和元年6月29日、鳥栖市との包括連携協定に基づき、佐賀県内の就学前の児童と保護者を招いた「第4回 子どもフェスタ」を開催しました。本イベントは、研究成果を地域の子育て支援に還元することを目的に企画・実施し、学生・教職員は地域社会とのつながりを改めて実感することができました。

□ 包括連携協定の締結

令和元年12月11日、地域福祉発展に連携して取り組むために鳥栖市社会福祉協議会と連携協定を締結し、地域福祉活動、地域福祉を担う人材育成、地域福祉の調査・研究を相互に担うことを決定しました。



子どもフェスタを楽しむ子どもたち



盛りだくさんのイベントを実施した子どもフェスタ



鳥栖市社会福祉協議会との連携協定調印式

プロジェクト

L

アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・ 子ども発達支援士の養成

事業実施主体：佐賀女子短期大学 (COC+参加校)

● 令和元年度の取り組み

地域を志向した教育や地方公共団体・企業等と連携したアクティブ・ラーニングを実施しました。また、県内企業が集まる交流会や起業家精神を学ぶシンポジウムを開催するなど、地元就職率向上および地域での雇用の創出に向けた取り組みを行いました。

■ 教育・インターンシップ

□ 講義及びアクティブ・ラーニング

事業協働地域を深く理解するための講義や地方公共団体・企業と連携してアクティブ・ラーニングを下記のとおり実施しました。授業では、連携地方公共団体（嬉野市、武雄市、佐賀市、小城市、白石町、佐賀県）や企業（ホテルマリタール創世）、NPO（湛然の里、鳳雛塾）等の協力を得て講師派遣や地域をフィールドにした学習の機会が作られたことで、地域への理解を深めるとともに課題発見能力を身に付けることができました。令和2年1月8日には関係者を交えた成果発表会を開催しました。

① 「旭の女性とみらい」(1年)

地域の財産を知るため、嬉野市でお茶摘み等の体験学習を行いました。また、着付けの授業では、事業協働地域（武雄市、佐賀市）と連携し、身につけた着付けの技能を生かして、学生の地域理解および地域の活性化につながる活動を行うことができました。

② 「佐賀を歩く」(1年)

佐賀で人々とふれあい、風土に触れながらさまざまな体験をすることを通して、「自己を理解する力」「対人関係を構築する力」「社会へ参加する力」「自ら学び続ける力」を、総合的に身につけることを目的として実施しました。今年度は「佐賀の豪雨災害を受けて身近な防災を考える」「小城市石工の里フィールドワーク」等のテーマを設定し、地域の協力も得ながら活動し、地域の防災など課題への理解を深めることができました。

③ 「地域みらい学Ⅱ、こども未来学Ⅱ」(全学年全学科必須)

事業協働地域について深く現状や課題を理解するための科目として、1・2年生合同でテーマ毎に地元の現状や課題に対する取り組みを行いました。令和2年1月22日に成果発表会を全学科で行い、学生同士でも取り組みを共有し、理解するようなカリキュラムとし、地域の現状理解の幅を広げています。

④ 「地域職場研究Ⅰ」(地域みらい学科共通の専門科目)

地元の企業を中心とした業界研究、職場研究を行った。令和元年11月4日に実施した「2019さがを創る大交流会」には65名が参加し、県内企業の情報収集と企業人との交流の機会を高めた。

⑤ 「インターンシップ」

県内企業・自治体等に36名が参加し、実践による企業・職業理解を深めることができました。

⑥ 子どもの支援Ⅰ(基礎・実習)

佐賀大学と連携して実施する「子ども発達支援士養成プログラム」受講登録者45名が、集中講義基礎ユニット（講義・グループワーク）に参加し、大学間を越えてグループワーク等で学びを深めました。また、30時間以上の実習を行う「支援実習Ⅰ」では、地域の発達障害等の子どもたちと触れ合う時間を持つことができました。本年度は39名が「子ども発達支援士（基礎）」資格を取得する予定です。

□ キャリア教育

令和元年11月29日に、「わたしの未来を考える～自分らしいキャリアを築くために～」をテーマに公益財団法人佐賀未来創造基金理事長の山田健一郎氏、リコージャパン株式会社の田町幸子氏、外国人就労者（本学卒業生）ウィリーザボルンタテさんをゲストにお招きし、キャリア構築について学びの機会を持ちました。さまざまなキャリア構築の事例、就職以外にも起業やNPOで働くなど、働き方が多様であることを学生に伝えることができました。

■ 就職支援

□ 保育士等の人材バンク計画

2年生に対して就職希望調査を実施したところ、就職希望者の内、事業協働地域内への希望者は70%となりました。佐賀市と連携協定締結時から、潜在保育士と保育現場とのマッチング「保育士等の人材バンク計画」ができるような体制を整えるように担当間での情報交換等行ってきましたが、今年度は担当課と学長等と実現に向けた話し合いが具体化する予定です。

□ 若者の早期離職対策

令和元年11月20日に、若者の早期離職対策として、「思春期（・青年期）の学生におこりうる心の問題とその対応について」と題したFD・SD研修を実施しました。教職員の約70%が出席し、若者の心の問題や、発達障害の理解、対応について悩んでいるという感想や、今後の就職相談や学業相談等に役立てたいという感想が多くみられました。

■ その他

□ 交流会やセミナーへの参画

佐賀県内の企業の魅力を知るために、令和元年11月4日に開催された「2019さがを創る大交流会」に65名の学生が参加しました。本学の紹介ブースは、学生がアクティブ・ラーニング科目「地域職場研究Ⅰ」の中で企画し、資料を作成。当日の運営も計画を立てて主体的に参加し、県内企業や地方公共団体等と目的意識を持ちながら交流することができました。

令和2年1月12日に、本学で韓国の大学と共同で起業家精神を学ぶ日韓合同産学連携シンポジウム「第4次産業革命の時代における日韓の短期大学教育―課題発見解決型教育と起業/創業教育―」を開催し、学生14名と教職員5名、学外から22名が参加しました。ビジネスプランコンテストにおいては、学生が本学のアクティブ・ラーニング科目「佐賀を歩く」について報告し、観光プラン等の開発につながるのではないかと講評をいただきました。さらに、韓国の大学生との意見交流を通して、学生は起業について身近に考えることができました。

□ 高大接続

令和元年12月26日に、高短接続の一環として旭学園において「令和元年度 教育・保育研修大会」を開催した。また、外部講師を招き、こども園、高校、短大の教職員共同で研修会をワークショップ形式で実施しました。高短連携をワークショップ形式で行うことで、それぞれの現場の声を聞き合う機会となり、強みと課題の抽出ができ、5年カリキュラムの実現に向けた動きとなりました。

□ 広報活動

本学ホームページにCOC+関連の記事を30件、SNSに40件以上（令和元年12月末現在）掲載し、事業全体の情報発信を行いました。また、学生が西九州大学と共同し、月1回、地域ラジオ局えびすFMの番組「スマイル249、GO!GO!佐女短」を企画・運営し、それぞれの大学の地域活動等本事業の成果等の情報を発信することができました。

□ 推進委員会の開催

COC+推進会議は、社会・産学連携推進室と連携して12月までに8回開催し情報共有を図ったことで、全学的に事業に取り組むことができました。



「旭の女性とみらい」（武雄）



「佐賀を歩く」での石工の里復旧支援



日韓合同産学連携シンポジウム

プロジェクト

M

アクティブ・ラーニングによる地域志向キャリア教育・ 子ども発達支援士の養成

事業実施主体：西九州大学短期大学部

● 令和元年度取り組み

キャリア教育の一環での県内企業等への視察やインターンシップのマッチング、就職支援研修会の開催、県内高校生への広報活動等を行い、地元への就職意欲の向上と県内高校との接続に取り組みました。

■ 教育

□ キャリア教育

令和元年9月27日に、教職員や学生による佐賀県内企業見学及びキャリア教育の一環として、実際の観光業と地域おこしを体験的に学ぶことを目的に嬉野温泉地域の現地視察（旅館見学・講義、市内施設見学）を実施しました。嬉野温泉大村屋、嬉野温泉街、バリアフリー会館などを視察し、引率教職員3名と多文化生活支援コースの2年生8名および1年生12名が参加しました。視察を通して、佐賀県有数の観光地である嬉野温泉における観光や地域おこしの実際について知ることができました。また、旅館業の企業活動や働く方々の様子を実際に見学することで、確かな勤労観と職業観を身に付け、さらに、旅館見学を通して必要な施設設備や観光業に重要な所作、おもてなしの心等に対する興味・関心を喚起することができました。

□ インターンシップ

学生への就職支援やインターンシップ企業と学生のマッチング等の実践については、学生支援課を中心に、各クラス担任・副担任、その他の学科教員によるきめ細かな支援を行いました。学生ニーズに沿った実習・就職先の紹介と調整、ならびにエントリーシートをはじめとした書類の作成指導等に加え、学生支援課担当職員が学外の企業との交渉や佐賀県内の求人企業の開拓を積極的に行い、地元就職への体制づくりに努めました。

また、求人開拓の一環でインターンシップ先の開拓を行ったところ、佐賀県内の旅館業において1年生2名がインターンシップを行うことができました。結果、インターンシップ生は「あすなろう体験」の授業科目として単位を取得しました。

■ 就職支援

□ 就職支援研修会の開催

令和元年12月13日13:00-15:00に、座談会形式の学生向け就職支援研修会をカフェレストランピナス2階で開催し、佐賀県文化スポーツ交流局観光課、株式会社ANAエアサービス佐賀（佐賀空港）、和多屋別荘の3機関が参加しました。さらに、同日14:40-16:10に、留学生のための就職支援講座として、行政書士2名が在留資格の観点から講義を行い、多文化生活支援コースの2年生3名及び1年生9名が参加しました。

学生は、佐賀県内で活躍する企業の担当者から直接話を聞くことで、どのように地域に貢献しているのか、求められる社会人基礎力とは何かについて気づき、さらに、各業種において必要な知識や理解を深めるとともに、教養ある専門職業人としての基礎力を身に付けることの大切さを知ることができました。



座談会形式就職支援研修会

■ その他

□ 広報活動

本学を佐賀県内の高校生に広報するため、高校生に配布する短大部PR名刺（以下、PRカード）2万枚を印刷・作製し、本学の在校生及び卒業生の出身校を中心に、佐賀県内の高校生へ配布。PR動画は6月中旬に完成し、PRカードのQRコードからホームページ経由で閲覧できるようにしました。オープンキャンパスに来た佐賀県の高校のうち79%には、PRカードを配布し、令和元年12月13日までの動画閲覧回数は2,307回と徐々に伸びてきました。



高校生に配布したPRカード



動画で見る学科・コース

インターンシップを経験した「学生の声」



令和元年度にインターンシップを経験した、佐賀大学、西九州大学、九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学の学生から、インターンシップで学んだことやその成果を報告します。



上角 佳代

佐賀大学
芸術地域デザイン学部2年

インターンシップ先 株式会社 EWMファクトリー

- 業種 情報通信業
- インターンシップ参加時期
令和元年8月21日～9月5日
- インターンシップ日数 10日間
- 仕事内容
ドローン講習・フライト体験、イベント準備・出展補助、イベント企画・打合せ・運営、会議への参加、ライブ配信等

「インターンシップで学んだこと」

私は、デザイン全般に興味があり、ソーシャルデザインというものがあるのかなのか学ぶために参加しました。実施内容は、ドローン講習やイベント「SAGAものスゴフェスタ5」出展対応、デジタル玩具「toio」企画など本当に様々な体験をさせていただきました。



特に、toio企画に関しては、遊び方説明書には載っていない新たな遊び方を企画し、新しいことを考える、企画することの難しさを実感しました。しかし、実際に企画が出来上がった時はとても達成感がありました。今回、インターンシップに参加して、ソーシャルデザインとはどのようなものなのかを学ぶことができました。また、一つの職場でも複数の仕事を行うことができることを学び、就職の視野を広げることができました。



田尻 ゆりか

佐賀大学
理工学部3年

インターンシップ先 佐賀県庁県土整備部

- 業種 行政
- インターンシップ参加時期
令和元年8月19日～23日、
9月2日～6日
- インターンシップ日数 10日間
- 仕事内容
公園担当、街路・区画整理担当、計画担当、開発担当、景観担当の5つの担当に分かれた業務

「大学生活では知り得ないこと」

私は民間と公務員との併願だったため、双方を比べ、今度のキャリアに活かすために参加しました。内容は都市計画課内の街路・区画整理や開発、景観、公園等の担当をそれぞれ周り、業務内容の説明や現場研修を行うものでした。

現場研修では委託先の方々と会議に参加させていただきました。また、土木事務所では大きな災害の直後だったこともあり、災害現場に行き、国に報告するための崩壊箇所の調査を行いました。さらに、民間の方や大学教授とお会いしてお話する機会もあり、とても貴重な体験をさせていただきました。

このインターンシップを通して、大学では体験できない多くのことを体験することができました。また、県職員として働くということの楽しさを知り、自分が将来働く姿を想像できるようになりました。



宮副 茉奈

西九州大学
健康栄養学部
健康栄養学科4年

インターンシップ先 A-noker株式会社

- 業種 農業
- インターンシップ参加時期
令和元年8月23日～9月30日
- インターンシップ日数 15日間
- 仕事内容
フードロス削減を目的とした規格外品の商品開発プロジェクトにおける販売管理及び企画

「理解を深める問いと自分の意見を言語化する大切さ」

私の家はミカン農家で、規格外のものは出荷したとしても安く売りさばかれてしまう事が普通でした。大学のコーディネーターの方と自分の課題意識について話をしていた時に、生産現場の規格外品に付加価値をつけて流通させる「SUTEN BY」プロジェクトを知り、この企画が将来的に生産者の所得の向上となる可能性を知りたいと思ってインターンシップの希望をしました。



商品となるかき氷のソースは無添加で扱いはとても難しかったです。事業趣旨を自分の言葉で伝えるためには、社会問題についての深い理解が必要で、その過程で大枠でしか捉えていなかった事象を多面的に見ることの大切さを痛感しました。この企画を通して、様々な立場の方が商品開発に関わっていることを実感し、それぞれに思いがあることも分かりました。今後はさらに他人の価値観に触れられる機会を増やし視野を拡大させていきたいです。



能地 海都

西九州大学
こども学部
心理カウンセリング学科2年

インターンシップ先 唐津市（馬渡島診療所）

- 業種 自治体
- インターンシップ参加時期
令和元年8月19日～25日
- インターンシップ日数 5日間
- 仕事内容
診療所における外来患者対応の補助、デイサービスのレクリエーション活動、住民交流イベントの運営

「離島ならではの暮らしと課題を知り、関わり方を模索する」

今回のインターンシップは、1年生の時に地域のイベントボランティア等を経験し佐賀のことを知っていて、より佐賀について知り地域の人々との交流をしてみたいと思ったことから参加を決めました。島民



の皆さんは、自動車の車窓からも声をかけてくださるなどとてもフレンドリーで、時間の流れがとてもゆっくりしているように感じました。一方で、研修をさせていただいた診療所ではお医者様ひとりで島民の方々の様々な症状に対処しなければならず緊張感を持って職務に当たられており、さらには高齢化が進む中で介護が課題として挙げられ医療的支援の重要性を強く感じました。前述したように島は高齢化が顕著で、そのため佐賀県や唐津市が様々な離島振興の取り組みを実施しています。私たちが今回のインターンシップを機に、馬渡島に愛着を持つことができたように、若者が関わりを持ち続けられるしくみが必要だと思いました。



西村 若菜

九州龍谷短期大学
人間コミュニティ学科
映像・放送コース1年

インターンシップ先 株式会社 エスプロジェクト

- 業種 情報通信業
- インターンシップ参加時期
令和元年8月26日～31日
- インターンシップ日数 6日間
- 仕事内容
サガテレビ情報番組のスタジオアシ
スタントディレクター (AD)
生中継のアシスタントなどを体験

「就職先を考えるときの参考に」

サガテレビのグループ会社である映像制作プロダクション、エスプロジェクトのインターンシップに参加し、サガテレビで放送されている情報番組「かちかちチプレス」のスタジオAD (アシスタントディレクター) や中継先のアシスタントを体験しました。雨の日の機材の対策方法、中継ではケーブルの引き方やさばき方、訪問先への配慮やとっさのアドリブ対応など普段は見ることはできない生放送番組の裏側の緊張感を肌で感じることができました。他にも差し入れされたお菓子の出し方、資料のまとめ方など小さな気遣いの理由なども丁寧に教えていただきました。インターンシップは会社の様々な部分を見ることができます。この会社に就職すると決めていなくても、その業界の雰囲気を見て感じるものが就職先を考えるときの参考になるなと思いました。



宮地 葵

九州龍谷短期大学
人間コミュニティ学科
司書・情報コース2年

インターンシップ先 株式会社 シーエックスカーゴ

- 業種 流通業
- インターンシップ参加時期
令和元年12月22日～令和2年1月5日
- インターンシップ日数 10日間
- 仕事内容
バックの搬送、仕分け、組み立て、
点検など

「仕事の理解を深めるインターンシップ」

将来の職業の選択肢の一つとして、作業を伴う仕事も考えており、地元の企業で、作業を通して、仕事の流れや工夫していることを体験したいと思いました。そこで、日本生活協同組合連合会の物流子会社である株式会社シーエックスカーゴにおいて、調達から納品までの物流について学びました。鳥栖流通センターと鳥栖冷凍流通センターでのインターンシップは、慣れない作業で腰が痛いときもありましたが、いろいろな作業を体験できました。1時間の作業をした後は15分の休憩があり、社員の健康にも配慮されている会社だと思いました。また、CO・OP商品がどのように箱詰めされ、各家庭に運ばれるのかがわかり、物流の仕事が少しわかったように思います。

このインターンシップで作業を中心とした物流業務への理解がすすみ、就職活動にもいかしたいと思っています。



丹生 有紀

佐賀女子短期大学
地域みらい学科
グローバル共生コース1年

インターンシップ先
佐賀インターナショナル
ゲストハウス
HAGAKURE

- 業種 観光・ホテル
- インターンシップ参加時期
令和元年9月10日から9月17日
- インターンシップ日数 5日間
- 仕事内容
接客、ベッドや水回りの清掃等、ブ
ログの作成など

「仕事をする上で大切なこと」

外国の方と触れ合うことができ、観光・ホテル関係の場所でインターンシップを経験したいと思っていたところ、「佐賀インターナショナルゲストハウスHAGAKURE」のホームページで国際交流を行っていることに魅力を感じ、インターンシップを申し込みました。仕事内容は、チェックイン時のお茶出しなどの接客や食器洗い、ブログの作成、ベッドや水回りの清掃等でした。

仕事をする上で、恥ずかしいという気持ちがあり、お客様と上手く会話をすることができませんでした。インターンシップをしなければ、このことに気付いていなかったと思います。また、失敗を考えず、積極的に行動することが大切だと学ぶことができました。清掃等では、お客様が快適に過ごすための工夫がたくさんあり、覚えるのが難しかったです。真面目に仕事をすれば良いと思っていましたが、それだけでなく、一つ一つに責任を持つことや積極性が少なかったこと等、自分に不足すること、仕事をする上で欠かせないことに気づき、学ぶことができました。



明石 みゆき

佐賀女子短期大学
地域みらい学科
グローバル共生コース1年

インターンシップ先
株式会社九州コーユー

- 業種 IT関連
- インターンシップ参加時期
令和元年9月9日から9月13日
- インターンシップ日数 5日間
- 仕事内容
プログラミング教材開発（プレ）な
ど

「学ぶことが多かったインターンシップ」

私は株式会社九州コーユーのインターンシップに参加しました。インターンシップをしてみたいと思ったきっかけは家から近い場所にある会社のため、どんな会社か気になったからです。

期間中に実施したことはプログラミングの基礎を学んで、自己紹介ページを作成したり、実際に教材開発部の方にAR技術を使った小中学生向けの教材案をプレゼンしたりといった内容でした。私ははじめて社会人の方と同じ時間を会社で過ごして、学校にはない独特の緊張感を実感しました。さらに、ずっとパソコンに向かって仕事をするので、目は疲れ、腰は痛くなるというデスクワークならではの大変さも感じました。

教材案を考える時に自分の考えを伝えることが話し合いを活発にしていいため、普段から物事に対して自分なりの意見を持つことが大事なことだと学びました。今後の活動でもこの経験を活かしていきたいです。

◆ 広報

ホームページの運用や事業協働機関の大学と連携して運用するFacebook、ニュースレター、新聞等で、積極的に情報公開・発信をしました。

■ ホームページ・Facebookページの運用

さが地方創生人材育成・活用プロジェクトのホームページではそれぞれのプロジェクトの活動を発信しています。Facebookとも連動させており、各大学のプロジェクト活動を連携して更新しています。

ホームページの月間アクセス数は664件で月間ページビュー数は4,314件でした（令和元年4月1日から12月31日までの平均値）。「2019さがを創る大交流会」開催日には1日512件のアクセスがありました。Facebookページに対する「いいね」数は285で昨年より25増えています。

さが地方創生人材育成・活用プロジェクトホームページ (<https://cocplus.saga-u.ac.jp/>)

さが地方創生人材育成・活用プロジェクトFacebook (<https://www.facebook.com/cocplus.saga>)

■ ニュースレターの発行

ニュースレター「がばいさだい」を7月に発行し、「さがを創る大交流会出展募集説明会」で配布しました。COC+関連科目やインターンシップ、さがを創る大交流会学生実行委員の紹介、県内企業情報などを掲載し、COC+事業の取り組みをPRしました。



表紙：「2019 さがを創る大交流会」学生実行委員会メンバー

がばいさだい第7号（7月17日発行）

COC+

さが地方創生人材育成・活用プロジェクト

■ 平成30年度の事業報告

「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」は、大学群、地方公共団体、産業界等が連携し、大卒者の地元就職率の向上と雇用の拡大・創出を進めることで、地方創生を担う人材の育成・活用を推進するものです。

平成30年度は「さがを創る大交流会」に加え、シンポジウムやFD・SD勉強会を実施しました。

平成30年

10月28日 「さがを創る大交流会 2018」開催
佐賀県内の企業や自治体、団体等が、学生に向けてそれぞれの魅力や取り組みを発信・交流する交流会。企業等 132 ブースと大学研究室 27 ブースが出展し、学生と一般合わせて約 1,550 名が参加しました。

12月9日 COC+シンポジウム「インターンシップと地元定着」開催
(株) カウテレビジョンが実践するインターンシップや採用支援の取り組みについての基調講演や学生インターンシップ報告会を実施。104名が参加し、基調講演は参加者の93%が「良かった」と評価しました。

平成31年

1月23日 インターンシップ勉強会（FD・SD研修会）開催
講演で(株) 南福岡自動車学校のインターンシップ導入の経緯やプログラム設計の留意点等を伺い、続くワークショップで新たなインターンシッププログラムを設計。企業・団体等 11 機関、大学 4 機関の計 23 名が参加しました。

3月14日 平成30年度外部評価委員会
自己点検評価報告書に基づき、外部評価委員会を開催しました。オール佐賀で取り組む「さがを創る大交流会」の取り組みが高評価されたことなどから、総合評価は5段階評価の「IV、順調に進んでいる」となりました。

※ 各学部や県内大学のCOC+の取り組みについては、ホームページからご確認ください。
(<https://cocplus.saga-u.ac.jp/20190402-office>)

■ インターンシップの取り組み

平成30年度も佐賀県内企業を受入機関とする単位認定型の「正課インターンシップ」に力を入れ、「チャレンジ・インターンシップ」「地方創生インターンシップ」「実践インターンシップ」等を開講。受講生は、平成29年度より70名以上増え、117名となりました。また、インターンシップ受入機関向けにインターンシップガイドブックを作成。県内企業と学生をつなぐ取り組みを進めています。

全学教育機構 基本教養科目	全学教育機構 基本教養科目
チャレンジ・インターンシップ A (受入機関：3 機関、参加学生：13 名)  基礎的な Web 制作やデータサイエンス等に関する実務等を経験。ビジネス課題の認識や解決方法を学びます。	チャレンジ・インターンシップ B (受入機関：8 機関、参加学生：22 名)  企業や自治体、NPO 等での課題解決型インターンシップを実施。就業経験を通じて社会人基礎力を身に付けます。
理工学部 専門科目 地方創生インターンシップ I・II (受入機関：28 機関、参加学生：39 名)  基本的にチーム制で行う「産学型インターンシップ」。県内企業への理解を深めると同時に関心を高めます。	経済学部 専門科目 実践インターンシップ (受入機関：3 機関、参加学生：16 名)  企業と自治体で行う課題解決型インターンシップ。事前・事後学習を行い、今後のキャリア形成に役立てます。

佐賀インターンシップガイドブック完成



「インターンシップを検討しているが何から始めたいの...?」「そもそもインターンシップってどんなことをするの?」そんなインターンシップ実施を検討中の機関に向けたガイドブックができました。インターンシップの種類や実施までの流れ、佐賀県内で実施したインターンシッププログラムの詳細が掲載されています。下記の URL または QRコードからご確認ください。

検索 <https://cocplus.saga-u.ac.jp/20190401-office>



44

■ 佐賀大図書館に企業PRエリア(佐賀大学)

平成31年4月16日 佐賀新聞



佐賀大図書館に
企業PRエリア

地元定着率向上を目指す

佐賀大学は、学生の地元定着率の向上を目指すため、付属図書館内に会社情報提供エリアを開設した。企業ボードを設置し、企業概要やインターシッ

報などを発信できる。利用企業枠は全10枠で、9枠分を募集している。

会社情報提供エリアは図

書館1階東側。企業による情報発信のほか、館長の許可が得られれば隣接する談話スペースで、パンフレット配布や、教員との共同研究など打ち合わせにも利用

できる。利用

第1号は松尾建設(佐賀市)で、大学と同社の関係者が出席し3月に除幕式を行った。写真1企業当たり、エリアの

床面積は横70センチ、奥行き150センチ。利用料は1年間60万円で、年度途中からの場合、月割りとなる。

問い合わせは佐賀大学学術研究協力部社会連携課、電話0952(28)8151。(川崎久美子)

■ 河原に自生するノビル 野草から野菜に研究活況(佐賀大学)

令和元年5月23日 日本農業新聞

河原に自生するノビル

野草から野菜に研究活況



佐賀大学で育つノビルの有望株⑤。通常の株④と比べて圧倒的な大きさだ（佐賀市で）

河原などに自生するノビルを野菜として生産しようと、大学教授や学生が研究を進めている。発起人は佐賀大学の福田伸二准教授。北海道から沖縄まで

巡り、集めた有望な系統を大学で栽培し、病害虫対策や機能性成分など幅広い切り口で分析を進めている。東アジアに広く分布する植物だが、体系的な研究

は世界で初めてだという。ノビルはネギ属の多年草。小ネギのような葉に、ラッキョウに似た鱗茎（りんげい）を付ける。河原の土手から市街地の植

佐賀大准教授 旗振り 有望系統を選別 防除、機能性調査

え込みまで、至る所で見掛ける。食べられる野草として有名だ。同じく野草・山菜に分類される、タラの芽やキョウジャニンニクは、独特の風味や食感から栽培されている。一方、ノビルは他の野菜と比べて抜きんでた特徴がなく、これまで農産物として栽培する動きがなかった。福田准教授は、地域によって個体差が大きいことに注目。より優れた株を探し出せば、農産物として価値を見いだせると考えた。数年かけて自ら全国を回り、集めた株は400に達した。ある株は巨大で、葉は白ネギ、鱗茎はタマネギ級だ。また、ある株の鱗茎は普通サイズだが、数がたくさん付く。こうした目立つ特徴を持つものを選別し、同大の農場で育てている。

一般流通に向け、複数の教授が協力。得意分野を生かし、それぞれ切り口から研究を進める。植物病理学の研究者は、かかる恐れのある病害の特定や防除方法を調査。日本生薬学会に所属する教授は、機能性成分を調べ、特有の新規フェノール成分を発見して論文を発表するなど、農家や消費者に有益な情報が集まってきている。農家や、農業分野の研究者を志す農学部学生も取り組みに携わる。ノビルの調理法や食味試験の結果をまとめて卒業論文を仕上げた学生もいる。同大3年生の次郎丸桐香さん（21）も「ノビルを研究したい」と、福田准教授のゼミに入った。「普通の野菜のようにスーパーで買えるようにしたい」と意気込む。今年度からは、ネギ属に詳しい福田准教授は「佐賀大学発のブランド野菜として売り込んでいく」と展望する。

■ 利き水やボウリング、西九州大生盛り上げ(西九州大学)

平成31年4月21日 佐賀新聞

利き水やボウリング、西九州大生盛り上げ

さざんか千坊館たけのご祭

2019/4/21



学生が企画した子ども向けのボウリングゲームで楽しむ来訪客＝吉野ヶ里町のさざんか千坊館

西九州大学の学生が20日、吉野ヶ里町のさざんか千坊館であった「たけのご祭」を盛り上げた。授業の一環で、さざんか千坊館の魅力を伝えて集客につなげようと、効き水や子ども向けのゲームを企画。親子連れらでにぎわった。

学生たちは、地域の課題解決に取り組んでおり、昨年からさざんか千坊館の集客率向上を目指している。何度も同館に足を運んで現状を調査し、子ども向けや地域の魅力を生かしたイベント開催を決めた。ボウリングゲームは子どもたちに大人気で、水のおいしさをアピールする効き水ゲームは、大人も真剣に挑戦していた。

SNSや回覧板でのチラシ配布など情報発信にも力を入れたという堀田知果さん(21)は「広報の手応えはある。子どもがたくさん来てくれてうれしい」と笑顔を浮かべた。

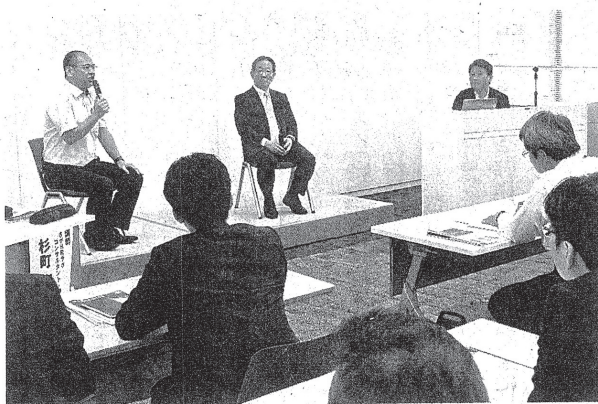
この日から、同大学の学生が果実店と共同開発した「いちごさん」を使ったケーキや水ようかんも販売した。取り組んだ竹下彩夏さん(21)は「売るのは難しいが、売れたときの達成感とうれしさは大きい」と積極的に客に声を掛けていた。

■ ギャップ埋め離職防止を（佐賀大学）

令和元年6月5日 佐賀新聞

ギャップ埋め離職防止を 県が企業向けセミナー

人手不足が深刻になる中、若者の県内就職を促そうと、佐賀県は5月27日、企業向けの「採用力向上セミナー」を佐賀市で開いた。大学のキャリアセンター長



パネルディスカッションで「数層が高いと思われがちだが気軽に相談してほしい」と話す羽石寛志氏（左奥）と「フェイストゥフェイスは効果的」と話す杉町宏氏（中央奥）。佐賀市のマイクロソフトインベシジョンセンター佐賀

らが講演やパネルディスカッションで、企業と学生とのギャップを埋めて人材を採用する要点を解説した。「新卒採用と人材育成」をテーマに、元立命館大キャリアセンター長でキャリアコンサルタントの杉町宏氏と、佐賀大キャリアセンター長の羽石寛志氏が講師を務めた。両氏によるパネルディスカッションでは、学生の気質やアプローチ方法など、企業側が寄せた質問に答えた。

杉町氏は、人事担当者や企業の雰囲気就職先を決める学生が多いとして「自分の気持ちをくみ取ってくれる人や企業と一緒に働きたいと思う。少ない機会でも学生の心を捉えれば、学生の方から触発される」と説いた。インターンシップも「大企業ほどインターンシップを評価のために使っていて、仕事の考え方や行動を知る、仕事理解、まで到達していない」と指摘。「説明会とギャップがあるから離職してしまう。会社の仕事での考え方を実感できる内容を組み立ててほしい」と呼び掛けた。

（中島佑子）

■ ムツゴロウ玉入れ熱戦 佐賀整肢学園で運動会（西九州大学）

令和元年5月28日 佐賀新聞

ムツゴロウ玉入れ熱戦 佐賀整肢学園で運動会

学生ボランティアも共に

2019/5/28



借り物競走を楽しむ利用者と職員



家族や職員、学生ボランティアと共に体育大会を楽しむ利用者＝佐賀市の佐賀整肢学園こども発達医療センター

佐賀市金立町の佐賀整肢学園こども発達医療センター（窪田秀明センター長）で26日、体育大会が開かれた。60回目となる大会で、約170人の利用者が職員や家族、学生ボランティアと共に体を動かし、楽しんだ。

5つの病棟に分かれて開催。第2病棟では利用者50人が赤白に分かれて、玉入れ、箱運び、借り物競走の3競技を行った。玉入れでは段ボールで作った大きな「ムツゴロウ」の口の中にボールを転がし、中に入ったボールの数で得点を競った。勝利チームが発表されると、大きな歓声が会場に響き渡った。

学生ボランティアで参加した西九州大学の久間亮将（たかのぶ）さん（23）は「利用者さんの楽しむ姿を見て、緊張がほぐれ元気をもらった。この経験を生かして人と一緒に楽しむことのできる職員になりたい」と笑顔で語った。

■ 西九州大生ヒシ田植え 千代田西部小児童も協力

令和元年6月14日 佐賀新聞

西九州大生ヒシ田植え 千代田西部小児童も協力

約4アールに400本

2019/6/14

ヒシの実の安定確保を目的に、西九州大生らが12日、神埼市千代田町でヒシの田植えを行った。地域住民や千代田西部小児童らも駆け付け、約4アールの水田に400本ほどの苗を植え付けた。

市と同大は共同で商品開発に取り組んでおり、2012年に市菓子組合と3者で「ひしぼうる」を開発。同年からクリークなどで自生するヒシの水田栽培も始めた。

地域住民約15人が指導し、学生6人は水田の中心部を、児童43人が周縁部を担当し、間隔に気を付けながら約50センチの苗を植えた。「ふるさと学習」の一環で参加した小学3年の下津浦碧君は「足が埋まって大変だったけど楽しかった」と笑顔。野口芽未さんは「早く大きくなってほしい」と話した。

今後、ヒシのデンプンについて研究するという同大健康栄養学科4年の湯田明日海（あすみ）さん（21）は「化粧品や食品など何か新しい物ができないか、模索したい」と話した。

収穫は12月下旬以降に実施。「神埼菱焼酎」や「ひしぼうる」の原料となる。

■ 100人カレー大作戦 作って分けて認知症予防（西九州大学）

令和元年7月25日 佐賀新聞

100人カレー大作戦 作って分けて認知症予防

吉野ヶ里町社会福祉協議会と西九州大

2019/7/25



話しながら笑顔でカレーを食べる学生と利用者
＝吉野ヶ里町の三田川健康福祉センターふれあい館



協力して作ったカレーを食べながら、話に花が
咲く学生と利用者＝吉野ヶ里町の三田川健康福
祉センターふれあい館



協力してナスを炒める学生と利用者ら＝吉野ヶ
里町の三田川健康福祉センター「ふれあい館」



利用者が書いてきた日記と一緒に確認する学生
＝吉野ヶ里町の三田川健康福祉センター「ふれ
あい館」



食事中に笑みがこぼれる学生と利用者ら＝吉野
ヶ里町の三田川健康福祉センター「ふれあい
館」

吉野ヶ里町社会福祉協議会と西九州大学が連
携する介護予防のモデル事業「すずめの学校」
は23日、調理を通じた予防活動「100人カ
レー大作戦」を同町の三田川健康福祉センター
ふれあい館で行った。利用者23人と学生35
人が協力してカレーを作り、食卓には笑顔があ
ふれた。

同事業は2015年度から始まり、町内の高
齢者が学生考案のレクリエーションや運動に取
り組む。カレー大作戦は、調理の過程で利用者
同士が教え合い、作ったものを分かち合うこと
で、認知症予防につながるとして初年度から実
施し、今回が5度目。カレーに加え、1カ月前
に学生と一緒に植えたバジルを利用者が持ち寄
り、マリネも作った。

カレーを煮込んでいる間には、利用者が書い
た日記を学生が確認。民生委員なども集まり、
約100人で食事を楽しんだ。夫婦で通う同町
の小池武宜さん（82）と晃代さん（78）は
「学生たちは孫みたいな存在で元気をもらえ
る。回を重ねるうちに成長も見える」と目を細
めた。

同大学3年の永留有佳さん（20）は「分か
りやすいように回数や目盛りを示して教え
た」、劉美紗綺さん（20）は「食事の手が止
まらないような会話運びを意識した」と話し、
横尾篤さん（21）は「（利用者は）政治や若
者の話題など物知りで心も元気。今後も楽しん
でもらえる活動を企画したい」と意気込んだ。

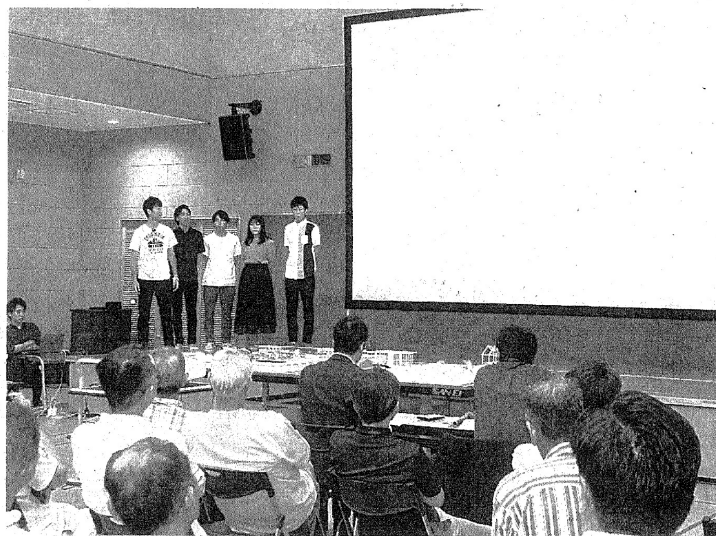
同事業は週に1回。6月に開校し、11月ま
で20回ある。

令和元年8月12日 佐賀新聞

駅周辺整備 学生目線で 嬉野市で佐賀大研究発表会

嬉野市

嬉野市のまちづくり
について佐賀大の学生
が提案する研究発表会が8日、嬉
野市中央体育館「U-Spo (ユースポ)」で開かれた。建築や都
市デザインなどを学ぶ学生約50人
が発表し、次々とアイデアを披露
した。



駅前整備の案について発表する学生
＝嬉野市中央体育館「U-Spo (ユースポ)」

発表したのは、「地域創成学Ⅲ」
を履修する3年生や、建築環境ア
ザインコースの大学院生ら。学生
は4月から嬉野市を訪れるなどし
て準備を進めてきた。

新設する嬉野温泉駅(仮称)周
辺整備などについてグループごと
に発表した。レストランなどを設
置する駅周辺の回遊空間では、建
物をシグザグに配置する案を示
し、歩行者が流動的に動くことで、
興味や関心を集める空間づくりを
狙った。建物の中に、向かい合っ
て座れる足湯を設置することも提
案し「駅で買った食べ物や飲み物
を持ち寄って交流できる、にぎわ
いのある空間にしたい」と発表し
た。駅前広場に茶畑を設ける案な
ども出た。

市は2017年度から、まちづ
くり施策について同大と連携し、
研究を進めている。(岩本大志)

■ 鳥栖市の課題に 佐大生が解決策 (佐賀大学)

令和元年8月25日 佐賀新聞



インターンシップで検討した課題解決策を説明する
佐賀大生＝鳥栖市役所

鳥栖市の課題に 佐大生が解決策

鳥栖市 鳥栖市役所でインターンシップをしていた佐賀大生9人が23日、定住人口拡大策など同市が抱える三つの課題について解決策を提案した。市役所で報告会があり、橋本康志市長らが若い感性で練られた具体案に耳を傾けた。

インターンシップの9人 人口拡大策など提案

経済学部の2、3年生9人が3人1組となり、5日間かけて解決策を検討してきた。定住人口拡大策については3年の藤井智美さんが発表した。

市の昨年度転入者アンケートをクロス分析した結果、近隣地域から鳥栖市へ転入してきた人たちは20、30代が約7割を占め、「結婚」をきっかけに「夫婦がそれぞれの職場に通うのに便利」な鳥栖市を選んでいたことが分かった。今後は久留米市や佐賀市より土地が安く、地理的に便利なることをもってアピールし、「住宅購入時に独自に補助してはどうか」と提案した。

市職員採用試験の受験者数の増加策を検討した3人は、受験者数を3倍に増やした奈良県生駒市などを引き合いに出して、若者を引きつけるインバクトのある広告作成や採用HPのレイアウト案などを例示した。

職員からは発表を聞きながら、転出した人たちの理由を知ることが大切だなど思い付いた。「採用募集広告では、若い人たちの感性の違いを痛感した」などの意見や感想が出された。(高井誠)

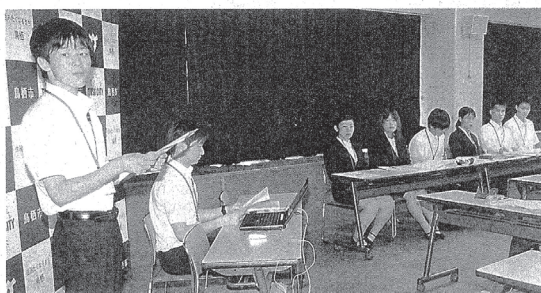
■ 佐大生 市役所で就業体験 (佐賀大学)

令和元年9月4日 西日本新聞

佐大生 市役所で就業体験

3部署で聞き取り 課題解決策を発表

鳥栖市



鳥栖市役所の課題の解決策を発表する
佐賀大経済学部の学生たち

鳥栖市役所でインターンシップ(就業体験)をした佐賀大経済学部の学生が8月23日、受け入れ先の部署の課題を解決する方策を橋本康志市長らに発表した。

市は2017年、県内の自治体で最も早く佐賀大からのインターンシップを受け入れた。今年は8月19日から5日間、2、3年生の男女9人が3部署に分かれて職員への聞き取りなどを行った。「定住人口の拡大策」(総合政策課)、「鳥栖市の人材確保に向けた取り組み」(総務課)、「家計(うちとく)の推進方法」(生涯学習課)といった課題をどう解決するかを検討してきた。

3年生の武藤加奈さん(21)ら3人は佐賀大生50

人と入庁し、2年目の市職員12人にアンケートをして市職員採用試験の受験者を増やす案を考えた。武藤さんは「市のホームページの情報を充実させ、大学の掲示板にポスター広告を出す」といなど話した。(荒木達也)

■ 県内151企業 魅力発信へ (佐賀大学)

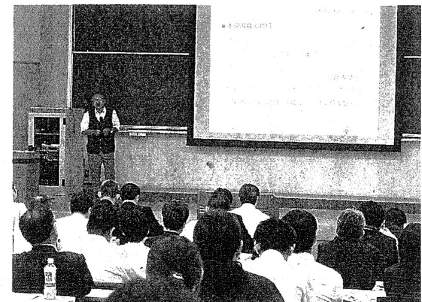
令和元年9月12日 佐賀新聞

佐賀県内の企業や自治体
がそれぞれの魅力を学生に
紹介する「2019さがを
創る大交流会」が11月4日、
佐賀市の県総合体育館で開
かれる。151ブースを設
けて千人を超える学生の来
場を見込み、地元企業への
就職率向上や雇用の創出
拡大を目指す。入場は無料。
佐賀大など産学官で取り
組む「さが地方創生人材育
成・活用推進協議会」が主
催し、今回で4回目。情報
通信(IT)や製造業、金
融など幅広い分野の企業の
ほか、自治体などが参加す
る。対象は県内の大学、短
大に通う全学年の学生に加
え、保護者の参加も呼び掛
けている。学生が取り組ん
だ企業への取材内容の紹介
や、メーク講座、マナー講
座もある。

佐賀大全学教育機構の五
十嵐勉教授は「就職への説
明会ではなく学生と企業と
の出会いの場」と位置付け
る。過去に参加した学生が
後日、個別に説明会に訪れ
るなど就職活動に結び付く
例もあるという。五十嵐教
授は「求人情報では伝えき
れない魅力や、生の声」を
学生に語ってほしい」と語
る。問い合わせは佐賀大地
域創生推進センター、電話
0952(2)889988。
(中島佑子)

県内151企業 魅力発信へ

11月4日 佐賀市で交流会



「各企業の魅力をアピールして」と呼び掛け
た参加企業向けの説明会＝7月、佐賀市の佐
賀大本庄キャンパス

■ 大学生7人 農業体験 (佐賀大学)

令和元年9月14日 佐賀新聞

農業の魅力を感じてもら
おうと、佐賀県は農業のイ
ンターシッピング制度を行っ
ている。今年の夏休みには、
東京や県内の大学生7人が
3日間にわたりミカンや養
豚農家で農業を体験した。
これまでは農業について
学ぶ東京農大の学生を受け
入れていたが、今年から地
元の学生も受け付け、東京
農大4人、佐賀大農学部3
人の計7人が参加した。学
年は1〜4年までさまざ
ま。

学生は、各自の希望によ
って藤津郡太良町の永瀬フ
ームリンク(養豚、か
ねひろ(露地ミカン)、唐
津市浜玉町のKARATS
U TACHIIBANA
(施設かんきつ)の3班に
分かれ、9月中旬までに2
泊3日の日程で研修。農家

から経営の様子や農業上の
苦労といった話を聞いた
り、実際に作業を手伝っ
た。

6次化で成果を上げ、23
畝のミカン畑を栽培するか
ねひろで、極旨生種の収穫
を手伝っていた東京農大3
年の松原明音さん(24)は
「暑くて、バテそう」と苦
笑しつつ、「なぜ、ここま
で規模拡大できたのか、6
次化の内容も含めて学びた
い」と意欲的だった。川崎
豊洋社長(50)は「果樹は新
規参入がほとんどない。研
修は人材育成の一環。今後、
園を継ぐ若い人が出てく
ることを期待したい」と話
した。

大学生7人 農業体験

県がインターシッピング制度



大規模なミカン畑で極旨生種の収穫を体験する大学生
＝藤津郡太良町

■ 料理の楽しさ、苦勞を知る シングルファミリーの子ども教室（西九州大学）

令和元年9月17日 佐賀新聞

料理の楽しさ、苦勞を知る シングルファミリーの子ども教室

2019/9/17



西九州大の学生などの手助けを受けながらネギを切る子ども＝佐賀市のアバンセ

シングルファミリーの子どもを対象にした料理教室が15日、佐賀市天神のアバンセで開かれた。10組23人の親子連れが参加。子どもたちは料理を作る楽しさや苦勞を肌で感じていた。

この日の献立は、ご飯とみそ汁、鶏の唐揚げの3品。西九州大学の学生の手助けを得ながら、鶏肉にしょうゆやショウガなどを加えて、力強くもんで味を染み込ませるなどしていた。手際よく包丁でネギを刻む子どもたちや、「目が痛い。しみる」とネギを切るのに苦勞する姿もあった。

シングルファミリーは母親が父親の役割も担うなど、子どもに料理を教える余裕がないことなどに触れ、ポコ・ア・ボッコの寺野幸子理事長は「子どもが家事を手伝ってくれると助かるという声はよく聞く。子どもが料理を覚えることで家庭の力を高め、より幸せに暮らしてほしい」と願う。

子ども料理教室は、NPO法人「poco a bocco」（ポコ・ア・ボッコ）が主催し、10月27日、11月24日、12月22日にもアバンセで開かれる。問い合わせはポコ・ア・ボッコ、電話0952（60）2152。

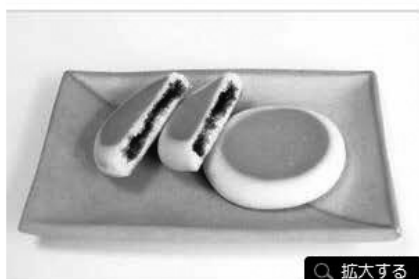
■ ハーブ入り逸口香いかが 西九州大生、企業と共同開発（西九州大学）

令和元年10月26日 佐賀新聞

ハーブ入り逸口香いかが 西九州大生、企業と共同開発

ひのくま祭で販売

2019/10/26



ほんのりと緑に色づいたレモンバーベナ味の逸口香。食べると口の中に香りが広がる＝佐賀市蓮池町の源八屋



焼き上がったばかりの逸口香を持つ開発メンバーの眞子麗さん＝佐賀市蓮池町の源八屋

神埼市の西九州大健康栄養学部の学生とハーブの生産や加工などを行う「ミツセファーム」（佐賀市）、逸口香の老舗「源八屋」（佐賀市）がスクラムを組み、ハーブ入りの逸口香「Herbs IKKOKO」を共同開発した。同大学神埼キャンパスの学園祭「ひのくま祭」で26、27の両日、試食会を開き販売する。

3年の眞子麗（うらら）さん（20）、江頭有由奈（ゆいな）さん（21）、浦津志郎さん（20）、川浪猛さん（22）が授業で取り組んでいる。リハビリテーション学部とも連携し、ハーブの香りに認知症予防の効果があることが分かり、商品を考案した。

4人は4月から開発を始め、チーズケーキなどを試作したが、ミツセファームでハーブに触れる中で「佐賀銘菓である逸口香を生かしながら、味や香りを変えたら面白いのでは」と思いついた。

逸口香に決まってからも、苦労の連続だった。生地がうまくできず、食べられないほど硬くなったり、中に空間ができなかったりした。ハーブを混ぜ込んだ餡（あん）も、砂糖の種類を変えて20回近く試し、キビ糖に決めた。450度の高温で焼き上げるため専用の窯が必要となり、源八屋が協力した。

学園祭ではレモンバーベナ味とラベンダー味の2種類を取り扱い、1個100円で、2個セット180円で販売する。浦津さんは「ファンが多いお年寄りだけでなく、若い人にも食べてほしい」と呼び掛ける。今後も研究を続け、色や大きさなどを改良することにしている。

■ 住民招き「秋まつり」 佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮（西九州大学）

令和元年10月28日 佐賀新聞

住民招き「秋まつり」 佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮 の隈寮

踊りや演奏、親睦深め

2019/10/28



曲に合わせて笑顔で踊る利用者や参加者たち＝
神埼市の佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮

神埼市の佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮（江里口忠雄施設長）で27日、地元住民を招いて秋まつりが開かれた。踊りや演奏、お楽しみ抽選会などで利用者と住民らが親睦を深めた。

利用者のほか地元住民、西九州大学の学生ボランティアなど約400人が参加。神埼清明高の吹奏楽部による演奏などがあり、最後は軽快なリズムに合わせて参加者全員が輪になって踊った。同寮の大島毅事務長は「利用者のいきいきとした表情を見ることができてうれしい。今後もさまざまなイベントを開いていけたら」と話した。

ボランティアとして参加した西九州大学2年の山北朋香さん（19）は「地域の祭りが減少する中で、地域の方々と交流ができる機会があることは、すごくうれしい」と笑みを浮かべた。

■ 県内で雇用拡大へ 学生と企業「交流会」(佐賀大学)

令和元年11月5日 西日本新聞

県内の大学生や短大生に地元企業などの魅力を伝える「さがを創る大交流会」が4日、佐賀市日の出のSAGAサンライズパーク総合体育館であった。写真。県内の大学や企業、経済団体、自治体でつくる「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」が地元での雇用拡大を目指して開催。食品製造、建築土木、IT関連など計145の企業、自治体、NPO法人が出席。ビジネススマナリーやリクルートスーツの選び方を学ぶ講習もあった。

県内で雇用拡大へ
学生と企業「交流会」
佐賀市



たいので、いろんな分野の仕事を回りたい。同大芸術地域デザイン学部3年の小野愛実さん(20)は「教育に携われる企業を探し、就職へのイメージを膨らませたい」と話した。
(梅本邦明)

■ 「佐賀で就職しよう」(佐賀大学)

令和元年11月7日 佐賀新聞

「佐賀で就職しよう」

大交流会 145社 学生にアピール

県内
佐賀市

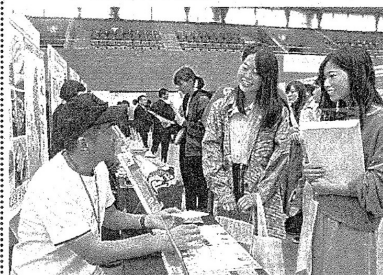
佐賀県内の企業や自治体など145社・団体が組み、みや特徴を紹介する「さがを創る大交流会」が4日、佐賀市日の出のSAGAサンライズパーク総合体育館で開かれた。県内の大学生と短大生約1250人が来場し、地元での就職活動の参考にした。

佐賀大など産学官で地元就職率の向上を目指す「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」が主催し、3回目。県内全ての大学生、短大生を対象に開いた。出展した企業は製造や流通、ICT(情報通信技術)など幅広く、学生た

ちに業種の垣根を越えて回ってもらおうとブースはあえて業種別で分けずに配置した。各ブースでは、担当者が自社製品や映像を示しながら事業内容や独自技術、働き方改革に向けた取り組みを説明し、学生たちが熱心に耳を傾けた。外国人留学生の姿もあり、ホテルや旅行会社など英語を生かせる職種を希望しているネパール国籍で佐賀女子短大2年のクールズ・ビンディーラさん(28)は「佐賀の生活に慣れたので、県内で就職したい」と意欲を新たにしていた。

ステージでは県内企業など

県内の145企業・団体がブースを設け、学生たちが訪れた「さがを創る大交流会」＝佐賀市のSAGAサンライズパーク総合体育館



を取材した学生3人による発表会もあり、西九州大2年の金丸大気さん(20)は取材した鹿島市の洋品店について、人を大切にする企業理念やアートを軸にしたまちおこしの事例を紹介。「就職をゴールにするのではなく、就職してから何をするのかが大事だと考えが変わった」と感想を語った。
(円田浩二)

■ 佐賀整肢学園こども発達医療センターで秋祭り（西九州大学）

令和元年11月7日 佐賀新聞

佐賀整肢学園こども発達医療センターで秋祭り

2019/11/7



佐賀整肢学園こども発達医療センターの秋祭りで、和太鼓の演奏を体験する利用者（手前）＝佐賀市金立町の同センター

佐賀市金立町の佐賀整肢学園こども発達医療センター（窪田秀明センター長）で3日、秋祭りが開かれた。屋外に設置されたステージで太鼓や浮立が披露され、約200人の利用者が家族や職員と楽しいひとときを過ごした。

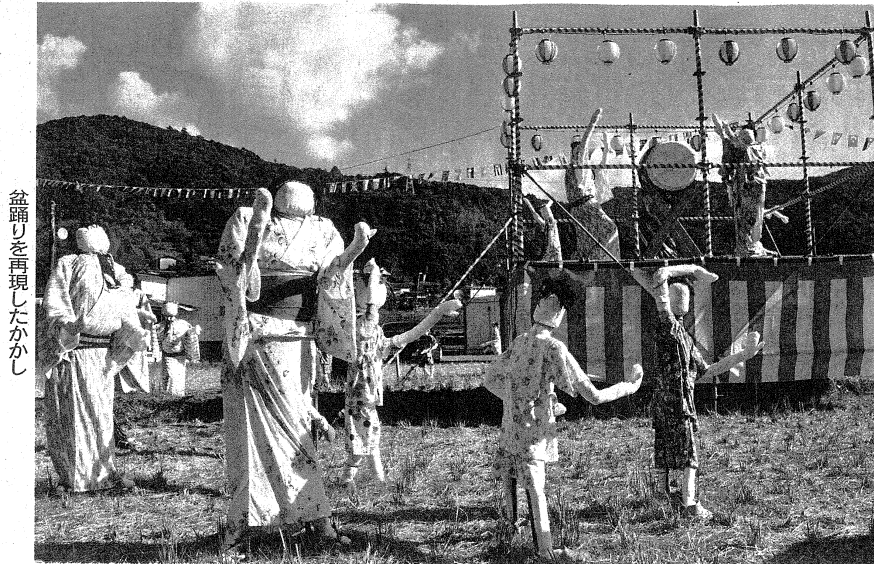
ステージでは創作和太鼓の団体「和太鼓葉隠」が力強い演奏を届けた。センター利用者の和太鼓体験もあり、演奏者の助けを借りながらテンポ良くばちで太鼓を打ち、リズムに合わせて体を揺らしていた。センターが位置する金立町の「金立鉦（かね）浮立」の演奏や舞もあった。

暑さ対策のため、夏祭りから秋祭りに衣替えして今年で10回目の恒例行事で、同センターの利用者が一堂に会する数少ない催しの一つでもある。西九州大や佐賀清和高などから約50人の学生ボランティアも参加した。

窪田センター長は「夏祭り時代から合わせると長く続く催し。入所者、通所者の垣根を越えた交流の機会になっていけば」と話した。

■ 懐かしの盆踊り かかしで (佐賀大学)

令和元年11月17日 佐賀新聞



盆踊りを再現したかかし

懐かしの盆踊り かかしで

佐賀の大和・松梅校区

佐賀市大和町・松梅校区の「松梅かかし祭り」が、人気を集めている。5回目の今回は、校区で約40年前まで行われていた盆踊りを忠実に再現。往時のにぎわいを取り戻そうという趣向だ。

(丸山 滉一)

祭りは校区まちづくり協議会の実行委員会が地域活性化を目的に開催。会場は道の駅「大和そよかぜ館」を約800坪北上した国道263号沿いの農地などで、地元の人たちが作った94体のかかしを10月下旬から展示している。盆踊りは、県外に就職した人も帰省して参加する地域の一大行事だったという。その様子を再現した浴衣や甚兵衛姿のかかしは、踊っているように見え、太鼓をたたくポーズも躍動感がある。午後5時8時はライトアップし、土・日曜と祝日は当時踊っていた曲をスピーカーで流すこだわ

40年前の様子 忠実に再現

りようだ。

そのほか、保育園の運動会をイメージしたコーナーもあり、小さな子どもと同じ大きさのかかしでかけっこや綱引き、玉入れを表現。12日に訪れた同町の「保育園ひなた村自然塾」の園児たちはリアルさに驚いたり、かかしと一緒に綱引きの動作をしたりして遊んでいた。佐賀大の学生が授業で制作した「サザエさん」の一家を模したかかしもある。

福岡県糸島市から来た中原英一さん(76)は「発想が面白い。撮った写真は趣味で開いている写真展で披露したい」と話していた。

実行委員長の千住一成さん(65)は「人口は減ったが、祭りをきっかけに多くの人に自然豊かな松梅地区の魅力を知ってほしい」と呼び掛けている。祭りは23日まで。土・日曜などは近くの厳島社で、ミカンやシイタケなど地元の農産物を販売する「かかし市」も開催。問い合わせは千住さん(090・1513・2759)へ。

■ やりたい自分イメージして(佐賀女子短期大学)

令和元年12月3日 佐賀新聞

佐賀中部

やりたい自分 イメージして

佐賀女子短大 未来考える講座

佐賀市 自分らしい
キャリアを築
くため、「わたしの未来
を考える」と題したパネ
ルディスカッションが11
月29日、佐賀市本庄町の
佐賀女子短大で開かれ

た。1年生約100人が、
県内で仕事をするパネリ
スト3人の働き方や生き
方を学んだ。
アバンセと同短大が主
催。卒業生で長光園障害
者支援センターのカーリ



質問を考える生徒に声を掛ける田町幸子さん＝佐賀市本庄町の佐賀女子短大

ニヨ・ウィリーザ・ボル
ンタテさん(30)、リコー
ジャパン佐賀支社の田町
幸子さん(47)、佐賀未来
創造基金の山田健一郎さ
ん(42)が登壇した。3人
は、学生生活や自身のタ
ーニングポイント、仕事
とプライベートの両立法
などを語った。

働く母親目線で話した
田町さんは、仕事と家庭
の両立について「仕事を
していることでオンオフ
の切り替えができる」と
説明した。進路を決める
学生たちに「なりたい自
分のイメージを常に持
ち、頑張った自分を毎日
一つでもいいから褒め
て、チャレンジを続けて
ほしい」とエールを送っ
た。

聴講した田代実緒さん
(18)は「3人とも夢の
達成の仕方が異なっ
て、自分の考え方も変わ
った。参考になった」と話
した。

(山中弘子)

地域福祉の発展目指し

九州龍谷短大と連携協定締結



鳥栖市社協

鳥栖市

九州龍谷短大
(鳥栖市村田町)

と鳥栖市社会福祉協議会は11日、地域福祉発展に連携して取り組もうと連携協定を締結した。市社協が外部団体と協定を結ぶのは初めて。

式には後藤明信学長、市社協の小石正明会長らが出席し、協定書にサインした。小石会長は「高齢者から幼児ま

での催しをする中で協力をし
てもらってきた。締結により
地域福祉のためにさらに前進
したい」とあいさつ。後藤学
長も「鳥栖市にある唯一の高
等教育機関としての役割を
果たそうとしてきた。学生
たちにもいい機会をいただ
いている」と応じて握手し
た。

協定には連携事項として地
域福祉活動、地域福祉を担う
人材育成、地域福祉の調査・
研究などを掲げる。年明けに
連絡会議を開いて具体的に詰
める予定。

短大側が保育士不足をはじ
めとする課題の改善に地域の
社協と手をつないで取り組も
うと提案。社協は昨年4月か
ら子育て支援センターを開設
しており、大学との連携によ
り活動内容を充実できると期
待を寄せている。(高井誠)

連携協定を締結し握手する鳥栖市
社協の小石正明会長(左)、九州
龍谷短大の後藤明信学長(右)同市村
田町の同短大

■ 幸せのクリスマスの灯 小城ルーテルこども園の園児ら、日光から採火（西九州大学）
令和元年12月24日 佐賀新聞

【動画】幸せのクリスマスの灯 小城ルーテルこども園の園児ら、日光から採火 ろうそく5000本幻想的に

2019/12/24



5000本のろうそくの火がともる園庭＝小城市の小城ルーテルこども園



礼拝で、1人ずつろうそくに火をともし参加者ら＝小城市のルーテル小城教会



礼拝で、1人ずつろうそくに火をともし参加者ら＝ルーテル小城教会



ろうそくに火をともし子供たち＝小城ルーテルこども園

園児たちの手で採火された火で5千本のろうそくをともしイベント「幸せのクリスマスの灯（あかり）」が22日、小城ルーテルこども園で行われた。併設されたルーテル小城教会前に並べられたろうそくに一本ずつ火がともされると、園庭は温かい光で包まれていった。

地域とのつながりを深めようと、今年5月に急逝した化粧品・雑貨販売業の力武博明さん＝小城市＝が一市民として立ち上げ、今年で17回目。長年尽力した力武さんの思いを引き継ぎ、西九州大生や小城高生も準備に参加。今年も地域の協力で開催した。

数日前に園児たちが虫めがねで日光から採火した火を、今年は力武さんの妻の喜久子さん（66）が大切に持ち帰り、イベントの日まで自宅で大事に守った。その火を参加者と分かち合い、5千本のろうそくにともしていった。

園庭にはろうそくで力武さんの屋号の「福」の字も描かれ、故人をしのんだ。喜久さんは「小城を愛していた主人が始めたイベントが今年も皆さんに喜んでもらえてうれしい。近くできくと見ているはず」とほほ笑んだ。

■ 映画「張込み」ゆかりの空き旅館「松川屋」活用へ（西九州大学）

令和2年1月7日 佐賀新聞

映画「張込み」ゆかりの空き旅館「松川屋」活用へ ボランティアらが清掃活動など

1/7 20:00



再生に向け、ボランティアらが清掃した松川屋
＝佐賀市松原



屋内を掃除する参加者たち＝佐賀市松原の松川屋



しつくいを塗り直すため、表面のペンキを削り取っていくボランティアたち＝佐賀市松原の松川屋

現在は空き家になっている佐賀市松原の老舗旅館「松川屋」を有志の手で再生させるプロジェクトが、本格化している。歴史や映画にまつわるエピソードがある建物を観光資源として生かし、周辺のにぎわい創出の拠点を目指す。ボランティアを交えた建物の清掃活動などを実施し、2021年度までに交流スペースやゲストハウスの環境を整える。

1853年に創業した松川屋は、松原神社の門前町として栄えた新馬場通りにある。1899（明治32）年に文豪森鴎外が宿泊し、その際に見た佐賀の暮らしを「小倉日記」に記している。1957（昭和32）年には松本清張原作の映画「張込み」のロケで訪れた出演者やスタッフが滞在した。建物は改装を経て昭和初期の趣を残しており、現在は食堂部分だけが和風カフェとして利用されている。

所有者は4代目おかみの故西村シツ子さんの長男で、映画評論家の西村雄一郎さん（68）。造りに引かれた「えびすFM」代表の池田真由美さん（59）ら10人で2年前に実行委員会を立ち上げ、活用策を検討してきた。本年度、住民の活動を後押しする県の「自発の地域創生プロジェクト」に採択された。月1回の清掃をはじめ、建物の見学ツアーや演劇など定期的にイベントを実施する。

第1回目の清掃活動が昨年12月22日にあり、実行委やボランティアら約30人が参加した。しつくいの上に塗りされた古いペンキを削り取り、旧式のエアコンを取り外した。参加した西九州大看護学部1年の石橋歩さん（19）は「『となりのトトロ』みたい」とタイル張りの風呂に感動し、「昔のきちんとした造りを残しつつ、現代に合ったものにできれば」と話した。

「張込み」の人気は根強く、今も各地で上映会が開かれているという。西村さんは「ロケ隊の宿泊をきっかけに私が映画評論家になったことも含め、つくろうとしてもつけないストーリーがここにはある。建物とともに佐賀の文化の一つのシンボルになれば」と期待を込める。池田さんは「若い人も巻き込み、かつてのにぎわいを取り戻したい」と話す。

次回の清掃活動は毎月13日午前10時から。参加など問い合わせは池田さん、電話080（5288）6347。

■ 西多久町の伝統野菜「女山大根」漬物 住民が商品化（西九州大学）

令和2年1月12日 佐賀新聞

西多久町の伝統野菜「女山大根」漬物 住民が商品化

学生や企業と協力、3月発売へ

1/12 8:15



商品化を目指す女山大根の漬物。4種類の候補の中から一つに絞る



女山大根の食事で、漬物の商品化について説明する地域おこし協力隊の大屋謙太さん（右）と、西九州大学健康栄養学科の学生たち＝多久市の西多久公民館



女山大根の食事で、市内外から100人以上が訪れ、試作中の漬物も試食した＝多久市の西多久公民館



女山大根の食事で、市内外から100人以上が訪れ、試作中の漬物も試食した＝多久市の西多久公民館



女山大根の食事で、市内外から100人以上が訪れ、試作中の漬物も試食した＝多久市の西多久公民館



女山大根の漬物の販売を目指す西九州大生（前列）と地域おこし協力隊の大屋謙太さん（後列右から2人目）、やまとフーズ、生産者の代表者＝多久市の西多久公民館

多久市西多久町の伝統野菜「女山大根」の消費拡大を目指し、地元の住民たちが漬物の商品化に取り組んでいる。西九州大学の学生や食品加工会社と協力して試作を続けており、11日に町内で開いた試食会の意見も踏まえて改良する。3月上旬にも市内の宿泊施設などで販売をスタートする。

女山大根は赤紫色で、一般的な青首大根よりも大きく、甘みがある。江戸時代から町内で作られ、希少なため首都圏にも出荷されているが、送料がかかるため農家の収益にはあまり結び付いていないという。

生産者約20人の大半は80歳を超え、世代交代も課題になっている。手軽に食べられる商品にして地元での消費を増やし、後継者の育成につなげようと漬物の開発を考えた。

中心になって取り組んでいるのが地域おこし協力隊の大屋謙太さん（25）＝福岡市出身。西九州大とやまとフーズ（小城市）に協力を依頼し、昨年4月から生産者と一緒に計画を進めてきた。市内の宿泊施設タクアも全面的に協力。施設のレストランなどで完成した漬物を提供する予定で、安定的な出荷と市外へのPR効果が期待される。

この日の試食会では、参加者から「歯ごたえが良くて甘みがある」「色合いがきれいで目で楽しめる」などの声が上がった。アンケートを参考に、ショウガやレモンの甘酢漬けなど4種類の候補から一つに絞る。

3月いっぱい3年間の協力隊の任期を終える大屋さんは、女山大根のブランドを守るため、県内では初めてとなる「地理的表示保護制度」の登録も目指す。大屋さんは「高齢化や人口減は簡単に止められないけれど、この町には清流で育つ農産物をはじめ、人と人の強い結び付きがある。絶やすことなく女山大根を作り続けてきた地域の人たちの思いも伝える商品にしたい」と話す。

■ 離島や海外での学びを紹介 西九州大生が活動報告（西九州大学）

令和2年1月13日 佐賀新聞

離島や海外での学びを紹介 西九州大生が活動報告

1/13 11:00



地域活動での学びや気付きを報告する学生＝神埼市中央公民館

西九州大の学生が、ボランティア活動やインターンシップの成果について発表する「あすなろう体験活動報告会」が11日、神埼市中央公民館で開かれた。イベント運営のほか、離島や海外での滞在を通して得た学び、気付きを語った。

同大学は、学生の就業に必要な判断力や主体性を高めたり、佐賀への愛着を育んだりしようと、地域活動に携わる「あすなろう」と銘打つプログラムを展開している。本年度は延べ約3千人の学生が約300件の活動に参加。報告会では、学科の代表ら13の個人・グループが登壇、活動時の写真などを交えて紹介した。

社会福祉学科1年の鮎川舞さんは昨年6月、佐賀市で開かれた「AIDS文化フォーラム」の運営に関わり、エイズなど性を巡る問題を身近に感じるようになったという。フォーラムのほかに自身が参加した活動にも触れ「活動に参加するだけでなく、学びにできることはないか、アンテナを張っておくことが大切。より多くのことに気付き、結果的に自分のスキルアップにつながる」と述べた。

■ 学生がビジネスプラン発表（佐賀大学）

令和2年1月15日 佐賀新聞

学生がビジネスプラン発表

佐賀市 佐賀大の学生が企画したビジネスプランの発表会が16日と23日の午前10時半から、佐賀大農学部大講義室で開かれる。「ITを活用した社会問題の解決」をコンセプトに、3年生約40人が13班に分かれて発表する。一般の聴講もできる。

佐賀大とソフトウェア開発のオプティム（本店・佐賀市）が連携して実施する「がばいベンチャー」の作り方講座の一環。2～3年生が受講し、プログラミング技術やアントレプレナーシップ（起業家精神）、ビジネスプランについて学んできた。これまでのまとめとして3年生がビジネスプランを企画して発表する。

16日は、大学に放置された自転車を取りサイクルして貸し出す仕組みや「有給管理アプリ」など七つのテーマで発表。23日は在庫管理カレンダーや「税金」など六つの企画を提案する。

聴講の希望者は事前に連絡が必要。問い合わせは佐賀大農学部田中宗浩教授、電話0952（28）8798。（中島佑子）

16、23日 佐賀大 オプティムと連携

参 考 資 料

平成30年度 外部評価結果報告書

● 項目ごとの評価・評定

① COC+大学（佐賀大学）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評定結果：Ⅲ おおむね順調に進んでいる

（コメント）

地元就職率は全国的な要因等もあり大幅に下回っておりKPIの達成が困難な状況であるが、課題に対し継続的に学長を中心に計画を進めていくことを期待して、次年度に繋がるように要望したい。また、KPIの数値に対しては、「KPIの設定が時代的背景と合っているか」という表現を盛り込んでどうか、という意見があった。

インターンシップ参加者数は順調に増加し、計画以上に進んでいる。もし、インターンシップ参加者と非参加者に地元就職率の有意差があれば、インターンシップの拡充の将来性で地元就職率未達の説明ができるかもしれない。すでに模索されていると思うが、佐賀県内の高校との高大連携をインターンシップにすれば、福岡県に流出することを少しは防げるかもしれない（県内・県外の佐賀県内就職率を根拠に）。また、さがを創る大交流会についても、長崎大学がモデルとするなど大きな効果があったと思われる。

② COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評定結果：Ⅳ 順調に進んでいる

（コメント）

西九州大学では構造的なミスマッチが起こっているとの説明があったが、他の大学等はインターンシップの実施や地元就職率は高い。九州龍谷短期大学はインターンシップ参加者数が若干少なくなっているが、福岡に近いことも関係しているのではないかと。また、女子学生は福岡に流出している現状があるのではないかと。

全体的には順調に進んでおり、一部短大において数値が低いところも見受けられるが、次年度に向けて継続的に経過を見守りたい。

③ COC+大学（佐賀大学）・COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学）の連携による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評定結果：Ⅳ 順調に進んでいる

（コメント）

さがを創る大交流会を開催し、西九州大学は学園祭と重なり参加者が少なくなったが、全体的には多くの参加者があった。この項目は佐賀のCOC+の強みであり、短期大学が多くある中、佐賀大学がしっかりとマネジメントしている印象があり、一体感もある。また、大学と短大というコンソーシアムの形成が評価できる。

④ 事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」の運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

→評価結果：Ⅴ 特筆すべき進捗状況にある

(コメント)

さがを創る大交流会におけるオール佐賀での取り組みに関しても、協議会の役割が重要である。また、幹事会にインターンシップ推進専門委員会が設置され、その成果としてインターンシップ参加者数が順調に増えており、その結果、インターンシップ受入れ先も増えている。ただし、さがを創る大交流会を中心として取組みは順調に進んでいるが、更なる活性化のために、より緊密な県等との連携が期待される。具体的な手法としては、大分県等で実施されている地元就職する学生に対する奨学金の交付や奨学金返還免除の制度などの創設などがある。さらに、学生が主体的に企画運営するインターンシップを実施し、低コストで持続的に運営することを検討することが望まれる。

⑤ 事業の内容についての社会への発信・情報公開について

→評価結果：Ⅳ 順調に進んでいる

(コメント)

シンポジウム及びFD・SD研修会の開催、ニュースレターの発行、ホームページ並びにFacebookでの情報公開、新聞やテレビ、ラジオ等での積極的な情報公開と発信を行っている。

⑥ COC+大学（佐賀大学）における補助金の執行状況について

→評価結果：Ⅲ 適正に執行されている

(コメント)

ほぼ計画的に執行されているため自己評価と同じ評価とする。

⑦ COC+参加校における補助金の執行状況について

→評価結果：Ⅲ 適正に執行されている

(コメント)

ほぼ計画的に執行されているため自己評価と同じ評価とする。

■ 総合評価

→評価結果：Ⅳ 順調に進んでいる

(コメント：総評・統括)

項目④に関しては、オール佐賀での取り組みが非常に高く評価できるため「Ⅴ：特筆すべき進捗状況にある」という評価となった。また、他の取組み事例も勘案して、今後のさらなる飛躍が期待され、補助金終了後もこの取組みが持続されることが望まれるため、補助金終了後の組織体制整備が急務である。

芸術地域デザイン学部においては、来年度初めて卒業生が出るため地域定着率も含めて、どのような成果が出てくるのかが今後の鍵を握ってくるので、対応を検討されたい。

今後は、更なるプログラムのブラッシュアップを期待したい。

総合的評価は、以上を踏まえて「Ⅳ：順調に進んでいる」となった。

令和元年度 自己点検評価結果

① COC+大学（佐賀大学）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

「A：佐賀大学及び事業協働機関の実施概要と取り組み状況及び成果」で述べているように、本事業は佐賀大学地域創生推進センターで統括し、各学部・キャリアセンター等と連携して全学的に取り組んだ。今年度3回目の開催となる「2019さがを創る大交流会」においては、学生アンケート結果から学生の地元就職意欲の向上が図られたこと、出展機関アンケート結果からは、今後も本交流会の開催を望む声が9割を超えるなど多く挙げた。年々、さがを創る大交流会参加学生が県内企業に就職する数も増加してきている。また、インターンシップの受け入れ機関は今年度27機関増えており、学生がさまざまな地元企業を知る機会を提供した。

「2. 令和元年度における各事業の概要と実施状況・成果」に記載した通り、今年度の事業協働地域就職率は、平成30年度の同時期に比べて4.2%減少している。一方で、事業協働機関への正課インターンシップ参加者数は、平成30年度の同時期に比べて36人増加し135人となった。これは今年度（最終年度）の目標値86人を49名上回り達成している。さらに、3月上旬に行われる正課インターンシップには17名が参加する予定となっており、今年度のインターンシップ参加者数は、当初の今年度目標を66人上回る予定である。しかしながら、地元就職率では成果指標の達成に課題があるため、全体としては、自己評価は「IV：順調に進んでいる」とする。

② COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部）による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

「2）COC+参加校による取り組み状況及び成果」で述べているように、西九州大学においては、インターンシップ実施コンテンツの開発や既存のインターンシップのブラッシュアップ、カリキュラム改定によるインターンシップの質の深化を図った。九州龍谷短期大学においては、キャリア教育や就職支援の取り組みを行うとともに、正課インターンシップの実施を拡大した。佐賀女子短期大学においては、学生が県内企業を深く理解するための講義やアクティブ・ラーニングを積極的に実施し、一部科目は全学年全学科必修科目とした。事業協働機関へのインターンシップ参加者数は、今年度（最終年度）の目標値28名を8名上回り36名となった。西九州大学短期大学部においては、県内高校との連携強化や積極的なキャリア教育を実施した。

各大学が積極的にキャリア教育や地域志向教育、産学連携の推進に取り組む、地元就職率向上に向け事業を推進している。しかしながら、地元就職率では成果指標の達成に課題があるため、全体としては、自己評価は「IV：順調に進んでいる」とする。

③ COC+大学（佐賀大学）・COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部）の連携による運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

「A：佐賀大学及び事業協働機関の実施概要と取り組み状況及び成果」で述べているように、さが地方創生人材育成・活用協議会に設置した教育プログラム開発委員会及び、幹事会に設置したインターンシップ推進専門委員会の活動、大学間で連携したインターンシッププログラムの開発・実施等を行った。また、昨年度に引き続き、西九州大学と佐賀女子短期大学が連携したインターンシップの取り組みや、佐賀大学の「佐賀版キャリアデザイン」の授業にCOC+参加校から出講を得た。さらに、「2019さがを創る大交流会」では、COC+大学及びCOC+参加校等で組織する「さがを創る大交流会実行委員会」において月1回の協議を重ね、交流会の実施内容についての協議や学生参加の呼びかけ等を行った結果、1,221名の学生が参加することとなった。このように、大学間が連携して事業を推進し、地元就職意欲の向上に積極的に取り組んだことから、自己評価は「IV：順調に進んでいる」とする。

④ 事業協働機関「さが地方創生人材育成・活用推進協議会」の運営体制と取り組みの目標や成果に関する進捗状況について

「A：佐賀大学及び事業協働機関の実施概要と取り組み状況及び成果」で述べているように、総会（書面会議含む計2回）・幹事会・シンポジウムなどを実施した。また、「2019さがを創る大交流会」の開催においては、広報活動の強化及び協議会構成団体等と連携したオール佐賀での取り組みにより、事業協働機関同士の連携を強化することができた。さらに、幹事会に設置したインターンシップ推進専門委員会の活動等により、事業協働機関でのインターンシップ参加学生数及び受入機関は着実に増加していることから、自己評価は「IV：順調に進んでいる」とする。

⑤ 事業の内容についての社会への発信・情報公開について

「A：佐賀大学及び事業協働機関の実施概要と取り組み状況及び成果」で述べているように、シンポジウム及びさがを創る大交流会の開催、ニュースレターの発行、ホームページ、Facebookでの情報公開、新聞やテレビ、ラジオ等での報道を通して、積極的な情報公開と発信を行った。また、今年度新たに「さがを創る大交流会学生実行委員会」が主体となりTwitterを活用した広報を行った。さらに、「さがを創る大交流会実行委員会」に新たに加わった、株式会社サガテレビにより「2019さがを創る大交流会」の広報を行ったことから、自己評価は「V：特筆すべき進捗状況にある」とする。

⑥ COC+大学（佐賀大学）における補助金の執行状況について

ほぼ計画通りに適正に執行されていることから、自己評価は「III：適正に執行されている」とした。

⑦ COC+参加校（西九州大学・九州龍谷短期大学・佐賀女子短期大学・西九州大学短期大学部）における補助金の執行状況について

ほぼ計画通りに適正に執行されていることから、自己評価は「III：適正に執行されている」とした。

総合評価

①～⑦までの自己点検評価結果、本事業の総合評価は「IV：順調に進んでいる」とした。

2019さがを創る大交流会アンケート結果

令和元年11月4日（月・振休）に開催した「2019さがを創る大交流会」で実施した学生及び出展機関へのアンケート結果をまとめましたので一部抜粋してご紹介します。交流会については、本冊子の12～15ページに記載しています。

学生アンケート

1. 回答者について

学生参加者総数	アンケート回収数	回収率
1,221名	1,158名	94.8%

【内訳】

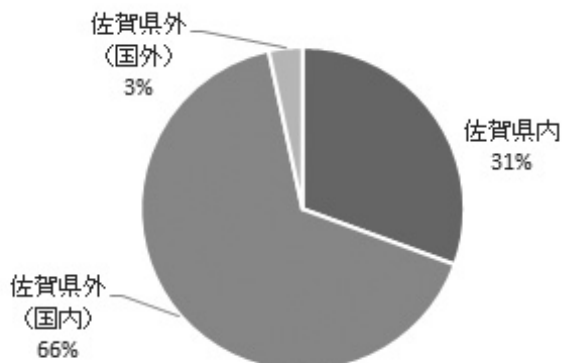
大 学	学部・学科等	学 年						小計	合計
		1 年	2 年	3 年	4 年	その他	未記入		
佐賀大学	文化教育学部				3			3	1,031
	教育学部	10	35	60	1	2	1	109	
	芸術地域デザイン学部	2	28	40	1			71	
	経済学部	35	81	133	6	1		256	
	医学部	21						21	
	理工学部	31	169	185	10			395	
	農学部	14	59	103				176	
	その他							0	
西九州大学	健康栄養学部	8						8	106
	健康福祉学部	56						56	
	リハビリテーション学部							0	
	子ども学部	2						2	
	看護学部	40						40	
	その他							0	
西九州大学短期大学部	地域生活支援学科	1						1	9
	幼児保育学科							0	
	未記入						8	8	
佐賀女子短期大学	地域みらい学科	47						47	53
	こども未来学科		1					1	
	未記入 / その他					5		5	
九州龍谷短期大学	人間コミュニティ学科	22						22	22
	保育学科							0	
小 計		289	373	521	21	8	9	1,221	1,221

2. 訪問ブース数

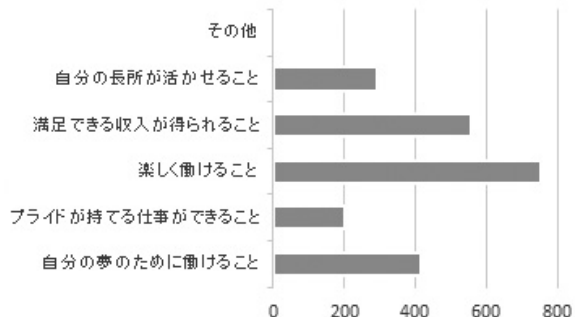
訪問ブース総数	回答数	平均
8,440	1,158	7.3 ブース

3. アンケート結果

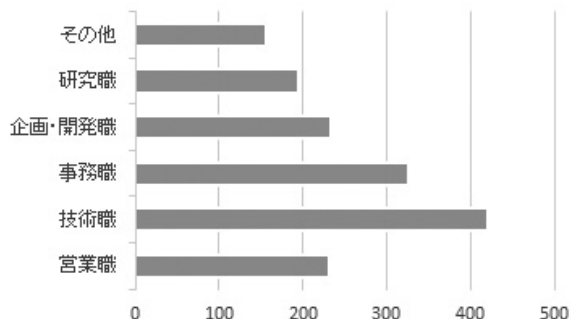
Q1. あなたの出身地を教えてください



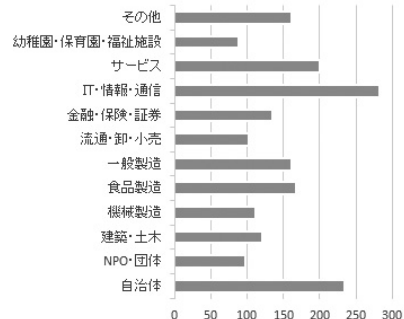
Q2. あなたは仕事にどんなことを求めますか？
(複数回答可)



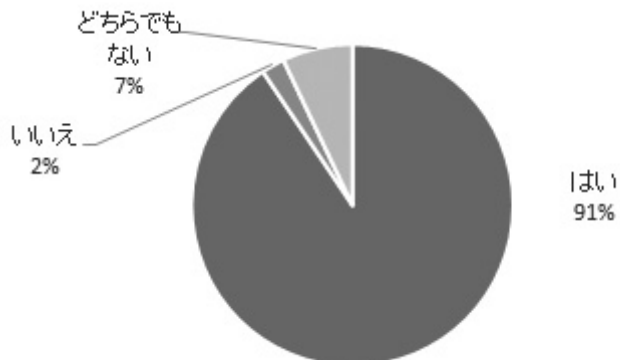
Q3. 希望する就職先の職種は？ (複数回答可)



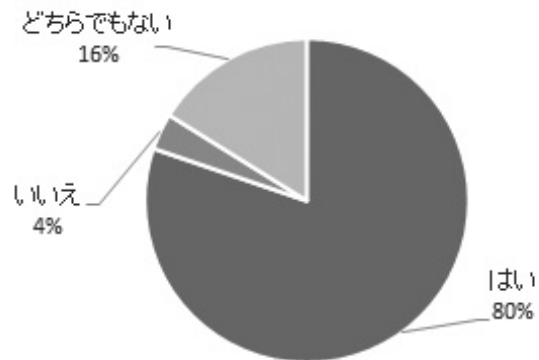
Q4. 希望する就職先の業種は？ (複数回答可)



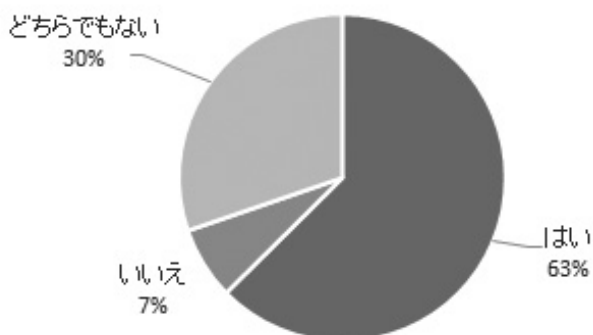
Q5. 大交流会に参加して以前より県内企業、自治体、団体などの活動を知ることができましたか？



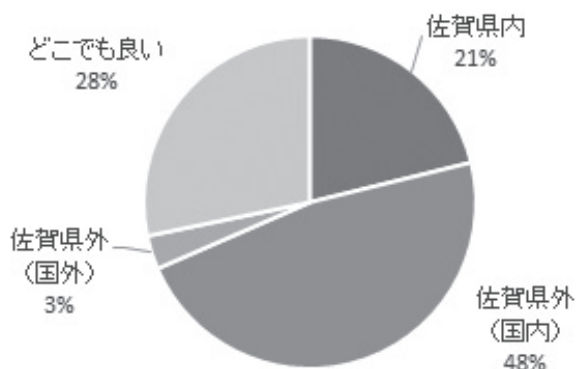
Q6. 大交流会に参加して以前より佐賀に魅力を感じましたか？



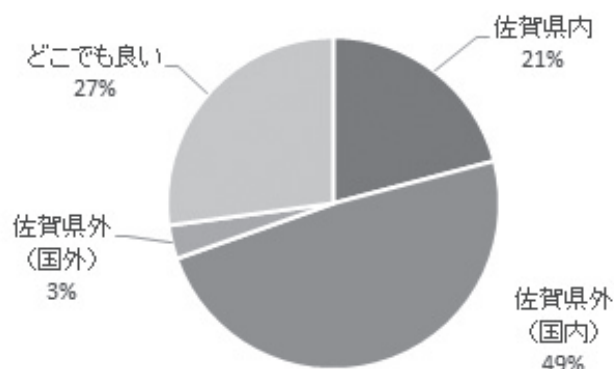
Q7. 大交流会に参加して以前より佐賀県内機関 (企業・自治体・NPO) への就職意欲は高まりましたか？



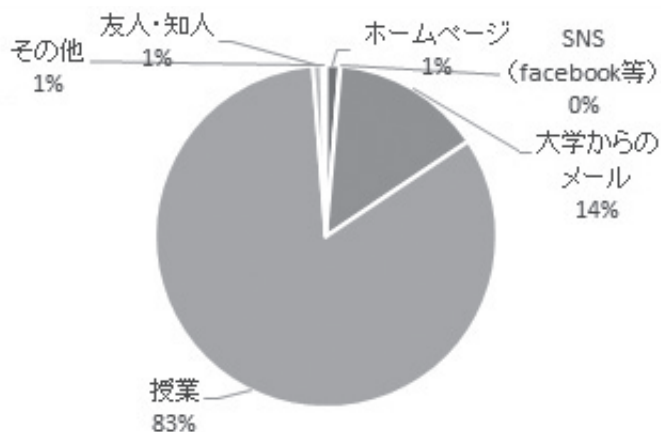
Q8. 卒業後はどこに就職したいと思いますか？



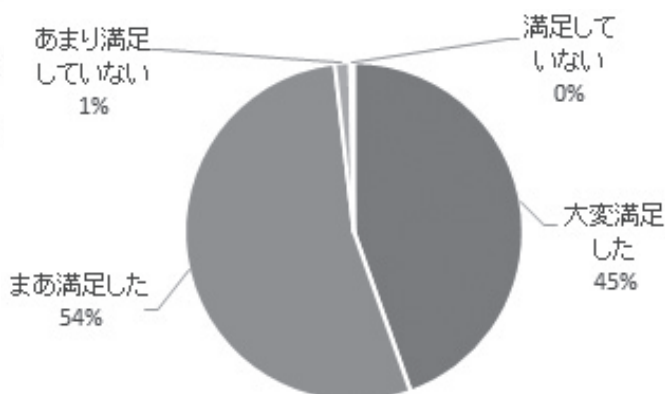
Q9. 卒業後はどこに住みたいと思いますか？



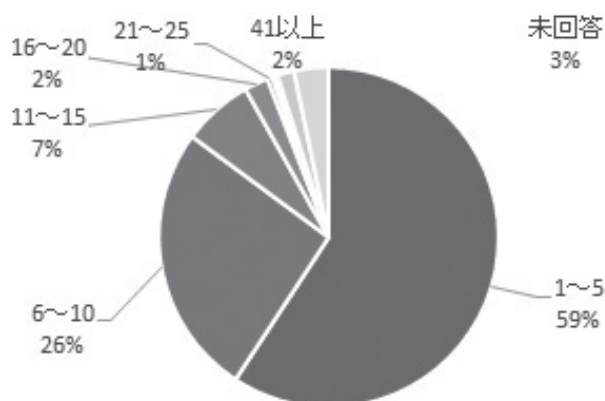
Q10. 交流会が開催されることをどこで知りましたか？



Q11. 交流会は満足できる内容でしたか？



Q12. 本日訪問したブース数を教えてください。



Q13. 良かったブースの番号を3つ記入してください。

<上位10ブース>

ブース番号	機 関 名
022	株式会社 Cygames
002	佐賀県 こども未来課
021	佐賀市
035	株式会社オプティム
003	ネットヨタ佐賀株式会社
006	松尾建設株式会社
054	株式会社J Aフーズさが
060	株式会社ANAエアサービス佐賀
001	佐賀県 産業人材課
108	サンポー食品株式会社

3) 感想・要望等

学生から寄せられた感想を一部ご紹介します。

■ 佐賀について知ることができた

- ・ 佐賀出身ではないので佐賀のことについて知ることができてよかった。とても興味深い内容だった。
- ・ 去年に続いて参加したイベントで、去年よりも多くのブースをまわることができ、様々な企業について知ることができた。今後の就活に生かしていきたいと思った。
- ・ 出身が佐賀ではないので佐賀県内の企業が知れて良かった。佐賀県内に就職するのは頭になかったが、面白い企業がいろいろあって楽しかった。
- ・ 佐賀県の企業がよくわかりました。将来 留学生として 佐賀で活躍したいかなと思う。
- ・ 今まで知らなかった佐賀の企業などを知ることができたので良かった。このような機会が増えると良いなと思った。
- ・ 佐賀県内の企業を知るために今回の交流会に参加した。実際に話を聞くことで、「働くこと」についてよりイメージがしやすくなり、視野が広がった気がする。
- ・ 佐賀に魅力を感じる企業や団体が多数あって興味を惹かれた。
- ・ 様々な企業を知ることが出来て参加して良かったと感じた。佐賀の中の企業でこんなに面白い企業があると気づくことができた。
- ・ 佐賀県にはこんなにたくさんの企業があるということを知るきっかけとなった。
- ・ 県外の出身なので、佐賀県の企業はあまり知らなかったのが、今回、大交流会に参加して、佐賀の企業の魅力を知ることができて良かった。

■ 佐賀県での就職を考えるきっかけとなった

- ・ 就活を始めて間もないのでとてもためになった。佐賀の魅力がわかったので就職先としても考えていきたい。
- ・ 佐賀県内の企業について知ることが出来て良かった。たくさんは回れなかったが、普段福岡に住んでいて、佐賀県内の企業は名前だけ聞いてもどういう仕事をされているのか分からなかったのですので勉強になった。特に佐賀県の産業人材課のブースではいろいろ企業の情報を教えていただきとても参考になった。佐賀県内での就職も視野に入れてみようと思いました。
- ・ このイベントに参加して、地元これほど多くの魅力的な企業があるということを初めて知った。今までは何となく福岡などで就職を考えていたが、今回認識が改まったので良い機会になったと思う。
- ・ このイベントに参加することで佐賀の企業の良さがわかりました。地元が福岡なので福岡に就職したいんですが、佐賀も候補に入れていこうとおもいます。
- ・ たくさんの佐賀の職業をみれて良かったです！さらに佐賀への就職を前向きに考えるようになりました！
- ・ 佐賀県外での就職を考えていたが今回の説明会で佐賀にも魅力的な企業が多くあることを知る事ができた。企業について知る事ができる機会がこれまであまりなかったのもとても有意義だった。
- ・ 名前の聞いたことない企業を沢山知れてよかった。佐賀にも素晴らしい企業があると再確認出来た。
- ・ 「佐賀は何も無い」を覆すような事業がいくつかあり、調べたり行ってみたりしたい。

■ 職業選択の幅が広がった

- ・ 様々な業種企業を一度に見て回れることは魅力的だった。どのブースの方も丁寧な対応で、話を聞きやすかった。自分は教員を希望しているが、他の業種を見て、様々な視野から職業選択をする必要を感じた。
- ・ 今回のイベントで、まだまだ沢山の知らない企業があることを知り、就職の幅を広げるための良い機会だった。
- ・ 農学部なので食品以外はあまり興味がなかったのですが、食品メーカー以外の会社も非常に興味深い職種が多く面白かったです。
- ・ とても勉強になりました。佐賀大学農学部の先輩方が食品会社の研究部門で働いているということが分かって、自分もできれば研究の分野に関わる仕事をしたいと改めて思った。自分とは違う分野の企業にもとても興味が湧きました。とても面白いイベントでした。
- ・ 実際に働いている方の話を聞いて、自分が思いもしなかった職種や技術が多くあり刺激になりました。

■ 就職活動について考える機会となった

- ・ 就職に対してより深く学ぶことができたのでまた来年も来たいと思います。
- ・ 就活に向けてはまだピンと来ていなかったが今回の交流会で現実味が帯びた。
- ・ 大学在学中にしっかりと準備をしていくことが大切だと思った。

■ 要望

- ・ 教員を目指す学生がより勉強になる話を聞けるようなブースを設けて頂けると、より幅広い学生が当交流会を楽しめるのではないかと感じた。
- ・ 次回は他の自治体にも参加していただきたい。
- ・ 皆が知ってる大企業や地元に関わった企業だけでなくより多くのベンチャー企業などにも参加してほしい。
- ・ 半年に一度など、回数を増やしてほしい。

■ 感想

- ・ なにを自分が聞きたいか考えずに行ってしまったので、次に行く時はもっと自分の聞きたいことや、やりたいことをはっきりさせてから行きたい。
- ・ 企業側から来ていただけるイベントがあることは、学生にとってとても貴重でありがたい時間になると感じた。
- ・ 様々な企業のブースが設置されており、自分が普段生活していて決して関わることのない企業も見ることができ、とても実りのある体験だった。
- ・ 実際こういうイベントが無いと企業について知る機会が生まれなく、とてもありがたいイベントでした。
- ・ 企業の情報はもちろん、インターンシップ等のことも知れてよかったです。

出展機関アンケート

1. 1. 回答者について

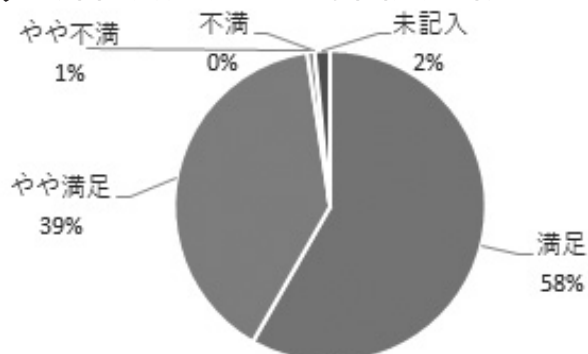
出展機関：145 アンケート回収数：127 アンケート回収率：87.6%

【内訳】

業 種	回答数	機関数	業 種	回答数	機関数
自治体	7	8	運輸・旅行・サービス	9	11
NPO・団体	12	19	流通・卸・小売	19	19
幼稚園・保育園・福祉施設	4	4	機械製造	11	16
IT・情報・通信	17	18	一般製造	23	23
食品製造	9	11	建設・土木・設備	12	12
金融・保険・証券	4	4	計	127	145

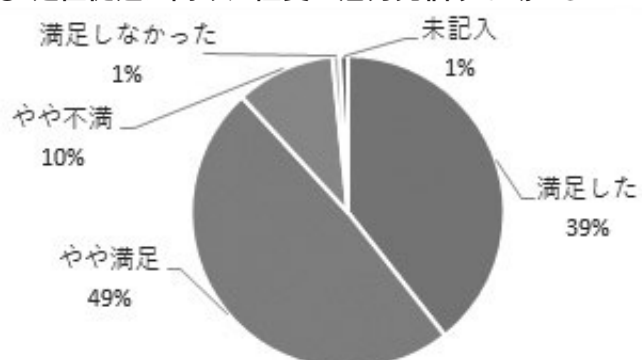
2. アンケート結果

Q1. 今回の交流会について事前説明は満足なものでしたか。

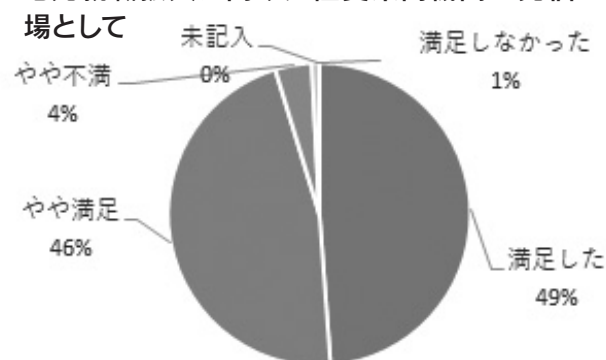


Q2. 今回の交流会について以下の項目の満足度について教えてください。

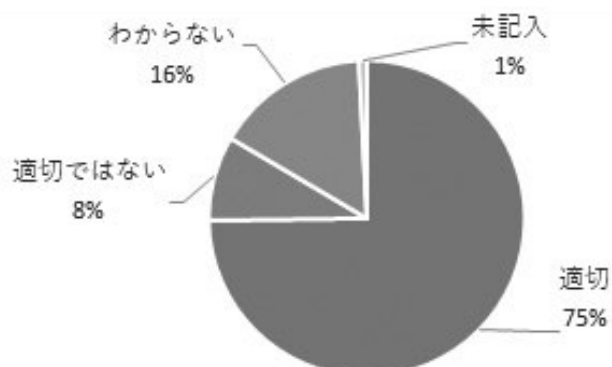
● 定住促進に向けた佐賀の魅力発信する場として



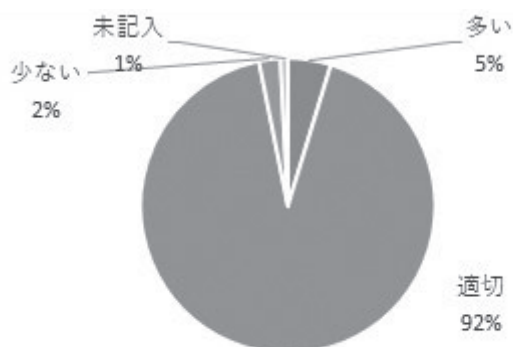
● 地元就職拡大に向けた佐賀県内機関の発信の場として



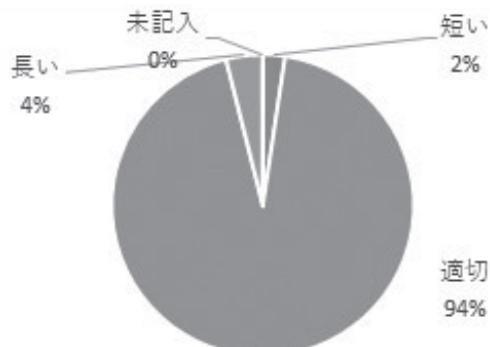
Q3. 今回の交流会の開催時期は適切でしたか。



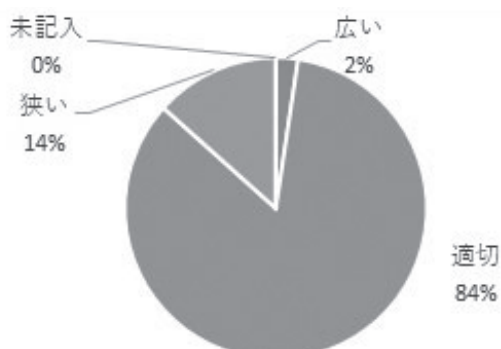
Q4. 今回の交流会の出展機関数は適切でしたか。



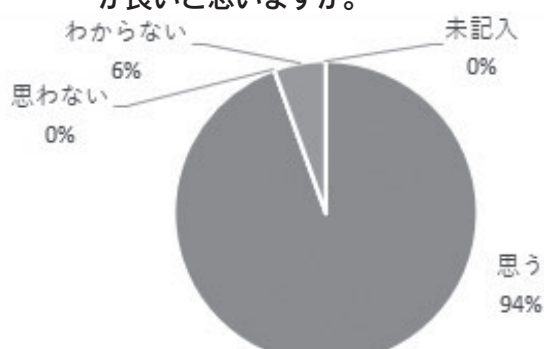
Q5. 今回の開催時間（3時間）は適切でしたか。



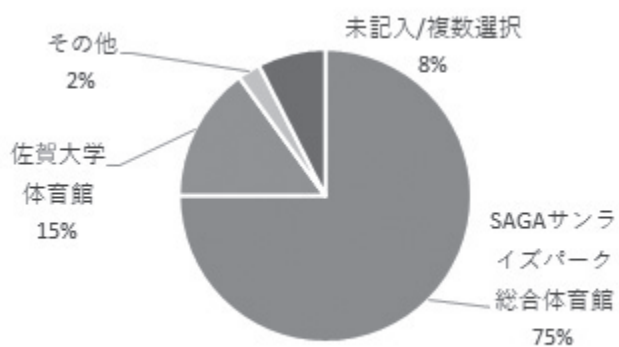
Q6. 出展ブースの広さは適切でしたか。



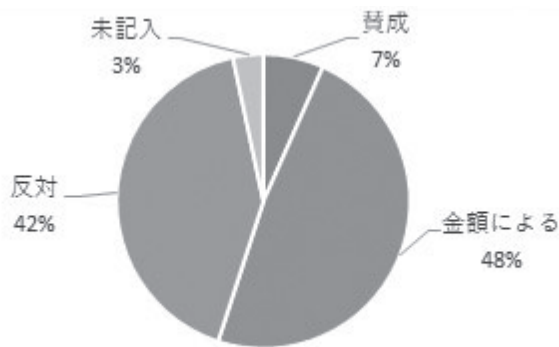
Q7-1. このような交流会を引き続き開催した方が良いと思いますか。



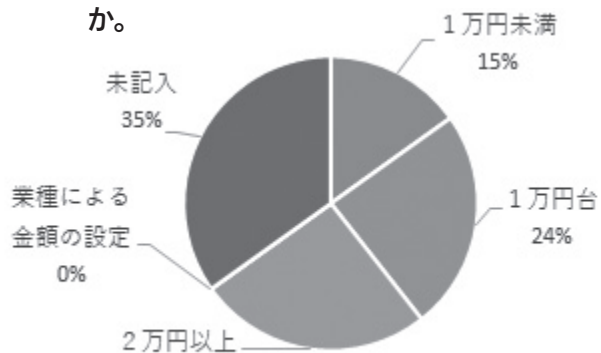
Q7-2. 「Q7-1」で「思う」と回答した方にお尋ねします。
このような交流会を開催する場合の開催場所はどこがよいと思いますか。



Q7-3. 「Q7-1」で「思う」と回答した方にお尋ねします。
交流会出展の有料化についてどう思いますか。



Q7-4. 「Q7-3」で「賛成」、「金額による」と回答した方にお尋ねします。
金額いくぐらいが適当だと思われますか。



Q 今後の交流会への期待・要望や改善してほしい点、大学との産学官連携・共同研究等への要望があればご記入ください。(抜粋)

- ・ 今後も県内企業と学生の交流の場づくりに御協力をお願いしたい。
- ・ 各ブースで説明する時間帯にステージでマナー講習などはやめた方がよい。
- ・ 大学3年生等の就職活動対象の学生のみで行うイベントを増やしてほしい。
- ・ 今年は祝日開催のため休日出勤になります。できれば平日開催希望します。
- ・ 両サイドのブースに集中し、十分なスペースが得られないときがあったので、今後は考慮していただきたい。
- ・ もう少し小規模でいいので学生説明会に出たい。
- ・ 大学生が理系・文系・その他の分類がわかれば助かる。
- ・ TV取材等が入る場合は、事前に社内確認が必要なので伝えてほしい。
- ・ 希望職種（せめて理系か文系か）がわかる工夫が欲しかった。出展者も学生もその方がわかりやすくて良いかと思いました。
- ・ 各企業のPR動画を1社1分程度で制作して、会社の複数個所で流して、その動画の最後にブースの位置をアナウンスする。
- ・ 理工学部都市工学科は別箇に説明がなされているので、どうしてもブースへの立ち寄りが少ないようです。
- ・ 起業を目指す学生も対象にしてほしい。
- ・ いろんな企業様との共同研究の紹介などがあれば良いなと思います。
- ・ 訪問者が多くて熱心に話を聞いてくれて楽しかったです。有意義な時間を過ごすことができました。
- ・ 学生の名札（学部、希望職）等があればわかりやすいと思います。
- ・ 理系の大学生をもっと参加させてほしい。
- ・ 業種別展示、学生の学部学科等が多少わかるシールなどを貼ってくれるとわかりやすい。
- ・ 業界を色ではなく会社名横に記載してほしい。
- ・ 気軽に佐賀大学、西九州大学などに相談できる窓口があると助かります。
- ・ 学生が理系か文系かわかるとより声がけしやすかったかと思います。
- ・ 業種・文理を分けて、ブースをつくと学生もわかりやすいと思う。開催時期に関して、佐賀県内のイベントの日は避けた方が良いと思った。
- ・ 学生の学部がわからないので、わかるようにしていただけると話しやすいです。
- ・ 大学の長期休暇中に行うことで、更なる来場者の増加につながると思う。
- ・ 多くの企業、学生が参加できる場として継続してほしい。
- ・ 学生の専門がわかると、お互いにアンマッチが起きにくいと思います。
- ・ せっかくの貴重な場なのでより多くの学生に参加してもらいたい。

「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」事業協働機関アンケート

■ 調査期間：令和元年6月26日～7月5日

■ 調査方法：メールにて回答

■ 回収率：53.8%

■ 全体の満足度：92.9%

【A】企業・経済団体（N=10） ※令和元年度の満足度をご回答下さい。 （全項目共通：資料A-1、A-2）	4.大いに満足 している （%）	3.ほぼ満足 している（%）	2.あまり満足 していない （%）	1.満足してい ない（%）
1) 大学による企業・経済団体のニーズの把握	10.0	90.0	0.0	0.0
2) 大学による技術相談・経営相談等への対応	30.0	60.0	10.0	0.0
3) 大学との共同研究・受託研究等の産学官連携の推進	50.0	50.0	30.0	0.0
4) 就職説明会・オープンセミナー等の学生に対する地元就職情報の提供	0.0	50.0	10.0	0.0
5) 学生のインターンシップ推進のための体制・企画及びインターンシップ参加者数	20.0	40.0	40.0	0.0
6) 事業協働機関の運営一般	20.0	70.0	10.0	0.0
7) HP/Facebook/報道等による本事業に関する広報	10.0	90.0	0.0	0.0
8) 全体的な満足度（上記、1～7から判断して）	20.0	80.0	0.0	0.0
（その他、本事業に関するご意見・ご要望がありましたら、自由に記入願います） ・佐賀大学経済学部と本市で取り組んでおります「実践インターンシップ」について、今後もさらに広報媒体等に掲載していただければと思います。 ・当町では7月1日の機構改革により「まち未来課」を新設し、新規事業に積極的に取り組む予定なので、今後ともよろしく願いたい。 ・一緒に取り組める事業等があれば良いと思います。				
【B】地方公共団体（県・市・町）（N=16） ※令和元年度の満足度をご回答下さい。 （全項目共通：資料A-1、A-2）	4.大いに満足 している （%）	3.ほぼ満足 している（%）	2.あまり満足 していない （%）	1.満足してい ない（%）
1) 大学による自治体のニーズの把握	6.3	75.0	18.8	0.0
2) 大学による県・市町における地方創生事業（まち・ひと・しごと総合戦略等）との連携	6.3	75.0	18.8	0.0
3) 大学との共同研究・受託研究等の産学官連携の推進	6.3	68.8	25.0	0.0
4) 就職説明会・オープンセミナー等の学生に対する地元就職情報の提供	12.5	68.8	18.8	0.0
5) 学生のインターンシップ推進のための体制・企画及びインターンシップ参加者数	12.5	62.5	18.8	6.3
6) 事業協働機関の運営一般	12.5	81.3	6.3	0.0
7) HP/Facebook/報道等による本事業に関する広報	6.3	81.3	12.5	0.0
8) 全体的な満足度（上記、1～7から判断して）	6.3	81.3	12.5	0.0
（その他、本事業に関するご意見・ご要望がありましたら、自由に記入願います） ・引き続き、県外や海外にもネットワークのある金融機関として、各方面で役立ちさせて頂きたいと思います。				
【C】NPO団体（N=2） ※令和元年度の満足度をご回答下さい。 （全項目共通：資料A-1、A-2）	4.大いに満足 している （%）	3.ほぼ満足 している（%）	2.あまり満足 していない （%）	1.満足してい ない（%）
1) 大学によるNPO団体のニーズの把握	0.0	100.0	0.0	0.0
2) 就職説明会・オープンセミナー等の学生に対する地元就職情報の提供	50.0	50.0	0.0	0.0
3) 学生のインターンシップ推進のための体制・企画及びインターンシップ参加者数	0.0	100.0	0.0	0.0
4) 事業協働機関の運営一般	50.0	50.0	0.0	0.0
5) HP/Facebook/報道等による本事業に関する広報	0.0	100.0	0.0	0.0
6) 全体的な満足度（上記、1～5から判断して）	50.0	50.0	0.0	0.0
（その他、本事業に関するご意見・ご要望がありましたら、自由に記入願います） ・インターンシップ生も当会に来ていただいでいて、学生の学びだけでなく、当会事業の支えにもなっています。				

関連要項・規則等

さが地方創生人材育成・活用推進協議会設置要項

(平成28年2月20日制定)

(設置)

第1条 地(知)の拠点大学による地方創生事業(以下「COC+」という。)で取り組む大卒者の地元定着率の向上及び雇用の拡大・創出を推進することを目的として、COC+事業協働機関に「さが地方創生人材育成・活用推進協議会(以下「協議会」という。)」を置く。

(事業)

第2条 協議会は、第1条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 大卒者の地元就職率向上に関する事業
- (2) 地元雇用の拡大、及び雇用の創出に関する事業
- (3) 地域を担う人材育成に関する支援・協力事業
- (4) その他COC+の目的達成に必要な事業

(組織)

第3条 協議会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 別表1に掲げる各機関の長
- (2) その他協議会が必要と認める者

(役員)

第4条 協議会に、次に掲げる役員を置く。

- (1) 会長
 - (2) 副会長
- 2 会長及び副会長は、委員の互選とする。
- 3 会長は、協議会を招集し、その議長となる。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。

(審議事項)

第5条 協議会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 第2条に掲げる事業の基本方針等に関する事
- (2) 協議会の運営に関する事
- (3) 協議会の入退会に関する事
- (4) その他協議会の運営に必要な事項

(構成員以外の者の出席)

第6条 協議会は、必要に応じ構成員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(議事)

第7条 協議会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議長は、会長をもって充てる。
- 3 委員が、会議に出席できないときは、代理者を出席させることができる。
- 4 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(幹事会)

第8条 協議会に、COC+事業を企画・立案し、及び推進するため、幹事会を置く。

(構成)

第9条 幹事会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

(1) 協議会の機関から選出された者 若干名

(2) 幹事会が必要と認めた者

2 前項第1号の委員の任期は2年とし、再任は妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第10条 幹事会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選とする。ただし、再任は妨げない。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(審議事項)

第11条 幹事会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 大卒者の地元就職率向上に関する事業の企画・立案

(2) 地元雇用の拡大、及び雇用の創出に関する事業の企画・立案

(3) 地域を担う人材育成に関する支援・協力事業の企画・立案

(4) その他COC+事業に必要な事項

(専門委員会)

第12条 幹事会に前条に掲げる事業の具体的な検討等を行うため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し、必要な事項は幹事会が別に定める。

(入退会)

第13条 協議会への入退会は、協議会の承認を得るものとする。

(各機関の事務)

第14条 協議会、幹事会及び専門委員会等に関する連絡、調整及び報告等に関する事務を行うため、各機関に事務担当者を置く。

(事務)

第15条 協議会及び幹事会に関する事務は、佐賀大学(COC+大学)内に置く。

(雑則)

第16条 この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会が別に定める。

附 則

この要項は、平成28年2月20日から実施する。

附 則(平成28年7月27日改正)

この要項は、平成28年7月27日から実施する。

附 則(平成29年7月11日改正)

この要項は、平成29年7月11日から実施する。

別表1 (第3条関係)

さが地方創生人材育成・活用推進協議会構成団体一覧

(平成29年7月11日現在)

大学群

佐賀大学 (COC+大学)
九州龍谷短期大学 (COC+参加校)
佐賀女子短期大学 (COC+参加校)
西九州大学 (COC+参加校)
西九州大学短期大学部 (COC+参加校)

地方公共団体等

佐賀県
佐賀市
唐津市
鳥栖市
多久市
伊万里市
武雄市
鹿島市
小城市
嬉野市
神埼市
吉野ヶ里町
基山町
上峰町
みやき町
玄海町
有田町
大町町
江北町
白石町
太良町
佐賀県市長会
佐賀県町村会

経済団体等

佐賀県経営者協会
佐賀経済同友会
佐賀県商工会議所連合会
佐賀県商工会連合会
佐賀県中小企業団体中央会
佐賀県農業協同組合
佐賀県工業連合会

連携企業等

(株) オプティム
(株) 佐賀共栄銀行
(株) 佐賀銀行
(株) 佐賀新聞社
(株) サガテレビ
(株) 佐賀電算センター
(株) スーパーモリナガ
(株) そよかぜ館
(株) 戸上電機製作所
(株) 中山鉄工所
(株) パソナテック
松尾建設 (株)
(株) ミゾタ
(株) 三井住友銀行 佐賀支店
(株) ワイビーエム
リコージャパン (株) 佐賀支社
(財) 佐賀県地域産業支援センター
佐賀県ベンチャー交流ネットワーク
(社) ジャパン・コスメティックセンター
(株) 七浦
認定特定非営利活動法人 地球市民の会
特定非営利活動法人 鳳雛塾

国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター規則

(平成27年12月25日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人佐賀大学基本規則（平成16年4月1日制定）第12条の2の規定に基づき、国立大学法人佐賀大学（以下「本法人」という。）に置く国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、本法人が地域とともに未来に向けて発展し続ける地（知）の拠点大学として実施する地域を志向した教育・研究・社会貢献活動の充実発展及び雇用の拡大・創出に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 地域を志向するキャリア教育の企画・推進に関すること。
- (2) 地域を志向する教育・研究・社会貢献の企画・推進に関すること。
- (3) 雇用の拡大・創出に関連する社会貢献の企画・推進に関すること。
- (4) その他センターに関すること。

(部門)

第4条 センターに、第2条に掲げる目的を達成するため、部門を置くことができる。

2 部門に関し必要な事項は、別に定める。

(組織)

第5条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長 3人
- (3) 併任の教員
- (4) 第8条に規定する特任教員
- (5) その他センター長が必要と認めた者 若干人

(センター長)

第6条 センター長は、理事（教育・学生担当）をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務をつかさどり、センターの職員を統督する。

(副センター長)

第7条 副センター長は、理事（研究・社会貢献担当）、キャリアセンター長及びリージョナル・イノベーションセンター産学地域連携部門長をもって充てる。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センターの業務を掌理する。

(コーディネーター)

第8条 センターに、地域創生人材育成コーディネーター及びキャリアデザイン・コーディネーターを置き、センターの特任教員をもって充てる。

(特任教員の選考)

第9条 特任教員の選考は、第11条に規定する運営委員会の議を経て、学長が行う。

(併任の教員)

第10条 併任の教員の選考は、センター長及び所属部局長の推薦に基づき、次条に規定する運営委員会の議を経て、学長が行う。

2 併任の教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、併任の教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第11条 センターに、国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの事業実施の基本方針及び重要事項
- (2) センターの教員の人事に関する事項
- (3) センターの予算及び決算に関する事項
- (4) その他センターの管理運営に関する事項

第12条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長 3人
- (3) 文部科学省地(知)の拠点大学による地方創生推進事業実施責任者
- (4) 全学教育機構高等教育開発室の教員 1人
- (5) 第8条に規定する特任教員
- (6) 学務部教務課長
- (7) 学術研究協力部社会連携課長
- (8) その他センター長が必要と認めた者 若干人

第13条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

第14条 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決をすることができない。

2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、コーディネーターの人事に関する事項及び特に重要な事項については、出席した委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

(意見の聴取)

第15条 運営委員会は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(部門連絡会議)

第16条 センターに、センターを具体的に運営・実施するための施策を企画・立案し、及び部門間の調整を行うため、部門連絡会議を置く。

2 部門連絡会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第17条 センター及び運営委員会の事務は、学術研究協力部社会連携課及び学務部教務課の協力を得て学務部就職支援課が行う。

(雑則)

第18条 この規則に定めるもののほか、センターの組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成27年12月25日から施行する。

附 則(平成29年9月27日改正)

この規則は、平成29年10月1日から施行する。

附 則(平成30年3月28日改正)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成30年7月6日改正)

この規則は、平成30年7月6日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

国立大学法人佐賀大学地域創生推進センターCOC+事業推進部門要項

(平成28年1月15日制定)

(設置)

第1 国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター(以下「地域創生推進センター」という。)に、地域創生推進センター規則第4条第2項の規定に基づき、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(以下「COC+」という。)を推進するために、COC+事業推進部門(以下「部門」という。)を置く。

(業務)

第2 部門は、COC+事業である地域を志向した教育・研究・社会貢献に関する企画等を協議する。

(組織)

第3 部門は、次に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 地域創生推進センター副センター長
- (2) 文部科学省地(知)の拠点大学による地方創生推進事業実施責任者
- (3) 各学部及び全学教育機構から選出された教員 各1人
- (4) 地域創生推進センター地域創生人材育成コーディネーター
- (5) 地域創生推進センターキャリアデザインコーディネーター
- (6) その他地域創生推進センター副センター長が必要と認めた者 若干人

2 前項第3号及び第6号の構成員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 前項の構成員に欠員が生じた場合の後任の構成員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門長)

第4 部門に部門長を置き、第3第1項第2号の構成員をもって充てる。

2 部門長は、部門の業務を掌理する。

3 部門長は、部門会議を招集し、その議長となる。

4 部門長に事故があるときは、部門長があらかじめ指名した構成員がその職務を代行する。

(構成員以外の者の出席)

第5 部門長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6 部門会議に関する事務は、COC+事業に関係する各課の協力を得て、学務部教務課が行う。

(雑則)

第7 この要項に定めるもののほか、部門に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要項は、平成28年1月15日から実施する。

2 この要項施行後、最初に選出される第3第3号及び第6号の構成員の任期は、同第2項の規定にかかわらず、平成30年3月31日までとする。

附 則(平成28年7月14日改正)

この要項は、平成28年7月14日から実施し、平成28年7月1日から適用する。

附 則(平成30年3月28日改正)

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

教育プログラム開発委員会に関する要項

(平成28年5月11日制定)

(趣旨)

第1 さが地方創生人材育成・活用推進協議会設置要項第12条第2項の規定に基づき、教育プログラム開発委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 地元就職率向上のための教育課程の編成に関すること
- (2) 地元志向型キャリア教育に関すること
- (3) 共同FD・SDの企画に関すること
- (4) 地元企業等におけるインターンシップに関すること
- (5) その他、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に関すること

(組織)

第3 委員会は、次に掲げる構成員をもって組織する。

- (1) 佐賀大学から選出された者 2人
- (2) 西九州大学から選出された者 2人
- (3) 佐賀女子短期大学から選出された者 2人
- (4) 九州龍谷短期大学から選出された者 2人
- (5) 西九州大学短期大学部から選出された者 2人
- (6) その他委員会が必要と認めた者 若干人

(委員長)

第4 委員会に委員長を置き、委員会の互選により選出する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した構成員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6 委員会に関する事務は、COC+事業に関係する各大学の協力を得て、佐賀大学学務部教務課が行う。

(雑則)

第7 この要項に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成28年5月11日から実施する。

附 則(平成30年5月7日改正)

この要項は、平成30年5月7日から実施する。

さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する規程

(平成29年2月9日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、文部科学省地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「さが地方創生人材育成・活用プロジェクト」におけるさが地方創生人材育成・活用推進協議会が自ら行う点検及び評価(以下「自己点検評価」という。)及びその評価の結果の活用等並びにさが地方創生人材育成・活用推進協議会以外の者による検証(以下「外部評価」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 自己点検評価及び外部評価は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会が行う事業等の質的向上を図り、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の運営全般の改善・改革に資するとともに、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の理念及び目標・計画を達成し、社会からの負託に応えることを目的として実施する。

(自己点検評価)

第3条 さが地方創生人材育成・活用推進協議会に、自己点検評価を行うために、さが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会(以下「自己点検評価委員会」という。)を置く。

2 自己点検評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(外部評価)

第4条 さが地方創生人材育成・活用推進協議会が行う事業等の外部評価を行うために、さが地方創生人材育成・活用推進協議会外部評価委員会(以下「外部評価委員会」という。)を置く。

2 外部評価委員会は、自己点検評価の結果に関し外部評価を行うものとする。

3 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(評価結果の報告、活用及び公表)

第5条 自己点検評価委員会は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会長に、自己点検評価の結果を報告するものとする。

2 さが地方創生人材育成・活用推進協議会長は、自己点検評価及び外部評価の結果を検証し、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の運営及び諸活動の向上のために活用するものとする。

3 さが地方創生人材育成・活用推進協議会長は、自己点検評価及び外部評価の結果について公表するものとする。

(事務)

第6条 さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する事務は、国立大学法人佐賀大学学務部教務課が行う。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関し必要な事項は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会長が別に定める。

附 則

この規程は、平成29年2月9日から施行する。

さが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会に関する細則

(平成28年2月9日制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する規程(平成29年2月9日制定)第3条第2項の規定に基づき、さが地方創生人材育成・活用推進協議会に置くさが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会(以下「自己点検評価委員会」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 自己点検評価委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検評価の具体的な項目等の策定に関すること。
- (2) 自己点検評価の実施内容及び方法に関すること。
- (3) 自己点検評価報告書に関すること。
- (4) その他自己点検評価に関すること。

(組織)

第3条 自己点検評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地(知)の拠点大学による地方創生事業(以下「COC+事業」という)実施責任者
- (2) 国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター副センター長
- (3) 国立大学法人佐賀大学地域創生推進センター特任教員(COC+事業コーディネーター) 2人
- (4) 学校法人永原学園西九州大学(COC+事業参加校)から選出された者 若干名
- (5) 学校法人佐賀龍谷学園九州龍谷短期大学(COC+事業参加校)から選出された者 1人
- (6) 学校法人旭学園佐賀女子短期大学(COC+事業参加校)から選出された者 1人
- (7) さが地方創生人材育成・活用推進協議会から選出された者 1人
- (8) その他さが地方創生人材育成・活用推進協議会長が必要と認めた者 若干人

(任期)

第4条 前条第4号から第8号までの委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 自己点検評価委員会に、委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

- 2 委員長は自己点検評価委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 自己点検評価委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 自己点検評価委員会の議事は、出席した委員の3分の2をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第7条 自己点検評価委員会が必要と認めたときは、自己点検評価委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 自己点検評価委員会に関する事務は、国立大学法人佐賀大学学務部教務課が行う。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、自己点検評価委員会に関し必要な事項は、自己点検評価委員会が別に定める。

附 則

- 1 この細則は、平成29年2月9日から施行する。
- 2 この細則施行後、最初に選出される第3条第4号から第8号までの委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成30年3月31日までとする。

さが地方創生人材育成・活用推進協議会外部評価委員会に関する細則

(平成29年3月10日制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会の評価に関する規程(平成29年2月9日制定)第4条第2項の規定に基づき、さが地方創生人材育成・活用推進協議会に置くさが地方創生人材育成・活用推進協議会佐賀外部評価委員会(以下「外部評価委員会」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 外部評価委員会は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会自己点検評価委員会がまとめる自己点検評価の結果について検証を行う。

(組織)

第3条 外部評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地方創生を担う人材育成に関して学識を有する者 1人
- (2) 学生のキャリア教育に関して学識を有する者 1人
- (3) 地方創生を推進する地方公共団体の職員 1人
- (4) 地域経済の振興や雇用の拡大に関して実務経験のある経済人 1人
- (5) その他さが地方創生人材育成・活用推進協議会長が必要と認めた者 若干人

2 前項第1号から第4号までの委員は、さが地方創生人材育成・活用推進協議会会長が指名する。

(任期)

第4条 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 外部評価委員会に、委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は外部評価委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第6条 外部評価委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 外部評価委員会の議事は、出席した委員の3分の2をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第7条 外部評価委員会が必要と認めたときは、外部評価委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 外部評価委員会に関する事務は、国立大学法人佐賀大学学務部教務課が行う。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、外部評価委員会に関し必要な事項は、外部評価委員会が別に定める。

附 則

1 この細則は、平成29年3月10日から施行する。

2 この細則施行の際、最初に出選される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成30年3月31日までとする。

令和元年度さが地方創生人材育成・活用推進協議会 委員名簿

佐賀大学

部 局	役 職	氏 名
佐賀大学 さが地方創生人材育成・活用推進協議会	学長 会長	兒 玉 浩 明
佐賀大学 地域創生推進センター	副学長 理事 (教育・学生担当) センター長	山 下 宗 利
佐賀大学 地域創生推進センター	副学長 理事 (研究・社会連携・国際担当) 副センター長	寺 本 憲 功
医学部看護学科 地域創生推進センター	教授 副センター長	佐 藤 珠 美
経済学部 キャリアセンター 地域創生推進センター	教授 センター長 副センター長	羽 石 寛 志
全学教育機構 COC+事業	教授 実施責任者	五十嵐 勉
全学教育機構	講師	山 内 一 祥
芸術地域デザイン学部	教授	山 口 夕 妃 子
教育学部 附属教育実践総合センター	准教授	石 井 宏 祐
経済学部	准教授	戸 田 順 一 郎
理工学部	教授	三 島 伸 雄
医学部 地域医療科学教育研究センター	教授	堀 川 悦 夫
理工学部	准教授	矢 田 光 徳
農学部	教授	田 中 宗 浩
地域創生推進センター	コーディネーター	三 島 舞

西九州大学

部 局	役 職	氏 名
西九州大学 リカレント教育・研究推進本部	副学長 本部長	井 本 浩 之
リカレント教育・研究推進本部	コーディネーター	横 尾 仁 美

九州龍谷短期大学

部 局	役 職	氏 名
保育学科	教授	松 田 祐 子
人間コミュニティ学科	准教授	宮 原 正 広
学務課	課長	嶺 川 英 二

佐賀女子短期大学

部 局	役 職	氏 名
地域みらい学科	教授	夏 目 朋 之
地域みらい学科	講師	久 保 知 里

西九州大学短期大学部

部 局	役 職	氏 名
幼児保育学科	准教授	占 部 尊 士
地域生活支援学科	教授	平 田 孝 治
学生支援課		本 岡 慎 一 郎

自治体・企業・NPO法人・団体

所 属	役 職	氏 名
佐賀県 地域交流部 さが創生推進課	課長	岩 永 幸 三
佐賀県 総務部 人事課	企画・人材 担当係長	近 藤 英 心
佐賀市 企画調整部 企画政策課	課長	武 富 将 志
佐賀市 総務部 人事課	主事	山 口 菜穂子
みやき町 総務部 企画調整課	課長	岡 毅
佐賀県商工会議所連合会	事務局長	八 谷 浩 司
認定特定非営利活動法人地球市民の会 一般社団法人ユニバーサル人材開発研究所	理事 代表理事	大 野 博 之
特定非営利活動法人鳳雛塾	事務局長	竹 内 陽 慶
アジアパシフィックアライアンス・ジャパン	事務局長	根 木 佳 織
ジョブカフェSAGA	統括マネージャー	坂 本 圭 介

令和元年度さが地方創生人材育成・活用推進協議会 関係者名簿

佐賀大学

部 局	役 職	氏 名
教務課	課長	森 口 晴 美
教務課 (教務管理主担当)	係長	伊 東 雄一郎
教務課 (教育企画主担当)	係長	鶴 田 博 信
教務課	課員	主 藤 聡 一
教務課	課員	柳 薫
教務課	事務補佐員 (経理)	松 崎 智 美
就職支援課	課長	吉 岡 邦 浩
就職支援課	係長	伊 東 雅 浩
就職支援課	課員	内 村 千 夏
地域創生推進センター	事務補佐員	松 林 茜
社会連携課	課長	浦 川 加奈子
社会連携課	係長	井 上 謙 一
国際課 (トビタテ!留学JAPAN)	課長	吉 田 規 雄
国際課 (トビタテ!留学JAPAN)	課員	木 下 翔太朗
国際課 (トビタテ!留学JAPAN)	事務補佐員	村 岡 都

九州龍谷短期大学

部 局	役 職	氏 名
学務課		鳥 飼 智 弘

佐賀女子短期大学

部 局	役 職	氏 名
	COC+コーディネーター	泉 万里江

西九州大学短期大学部

部 局	役 職	氏 名
総務課	課員	山 口 貴 之

自治体・企業・NPO法人・団体

部 局	役 職	氏 名
佐賀県 地域交流部 さが創生推進課	副主席	織 田 美 和
佐賀市 企画調整部 企画政策課	主任	豆 田 仁
みやき町 企画調整部 企画調整課	主事	原 千 夏

令和元年度
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業
さが地方創生人材育成・活用プロジェクト

成果報告書

令和2年3月30日発行

発行 国立大学法人 佐賀大学
デザイン・印刷 福博印刷株式会社

本書に掲載されている写真及び記事の無断転載、複写、複製を禁止します。



COC+大学 国立大学法人 佐賀大学

〒840-8502 佐賀市本庄町1
TEL 0952-28-8113
FAX 0952-28-8118
<http://www.saga-u.ac.jp/>
E-mail: sagakoho@mail.admin.saga-u.ac.jp



COC+参加校 学校法人 佐賀龍谷学園 九州龍谷短期大学

〒841-0072 佐賀県鳥栖市村田町岩井手1350
TEL 0942-85-1121
FAX 0942-82-8411
<http://www.k-ryukoku.ac.jp/>



COC+参加校 学校法人 旭学園 佐賀女子短期大学

〒840-8550 佐賀県佐賀市本庄町本庄1313
TEL 0952-23-5145 (代表)
FAX 0952-23-2724
<http://www.asahigaku.ac.jp/sajotan/>



COC+参加校 学校法人 永原学園 西九州大学

〒842-8585 佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9
TEL 0952-37-6289 (地域連携センター)
FAX 0952-52-4194
<http://www.nisikyu-u.ac.jp/nagahara/>



COC+参加校 学校法人 永原学園 西九州大学短期大学部

〒840-0806 佐賀県佐賀市神園3-18-15
TEL 0952-37-6289 (地域連携センター)
FAX 0952-52-4194
http://www.nisikyu-u.ac.jp/junior_college/

国立大学法人 佐賀大学 地域創生推進センター

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地
TEL 0952-28-8497 FAX 0952-28-8185 (キャリアセンター)
TEL 0952-28-8163 FAX 0952-28-8170 (学務部教務課)